

第3章 検出された遺構・遺物

番号	グリッド	5課	分類	座 標 (m)			遺構関係	平面形	断面	備 考	
				長軸	短軸	高さ					
51.3	040-670	内 E	E	451	74	43	長方形	→	4にぶい黄褐色土(ロームブロック混、粘質)		
51.4	040-670	内 E	E	50	30	22	長方形	→			
51.5	040-670	内 E	E	110	70	18	長方形	→			
51.6	040-670	内 E	E	96	40	13	長方形	→			
52	035-670	内 E	E	163	50	26	75.76土	長方形	→	1黄褐色土(ロームブロック混)	
57	030-675	内 E	E	105	82	12	溝	横円	→	1黄褐色土(ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック混) 3黄褐色土(ロームブロック混) 4黄褐色土(ロームブロック混) 5黄褐色土(ロームブロック混)	
57.1	030-675	内 E	E	216	42	12	61土	長方形	→		
57.2	030-675	内 E	E	205	78	35		長方形	→		
57.3	030-675	内 D	D	124	72	13		横円	→		
58	030-670	内 E	E	173	68	37	145土	長方形	→	11にぶい黄褐色土(ロームブロック多) 2黄褐色土(ロームブロック多)	
59	025-680	内 D	D	172	(70)	8	219.220土・20溝	横円	→	1黄褐色土(ロームブロック多) 2黄褐色土(ロームブロック混) 3黄褐色土(ロームブロック多)	
59.1	025-680	内 B	B	150	141	20		円	→		
59.2	025-680	内 E	E	(110)	50	10		長方形	→		
61	030-675	内 E	E	245	95	40	57土	長方形	→	0黄褐色土(黒褐色土・ロームブロック多) 1黄褐色土(ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック混) 3黄褐色土(ロームブロック混)	中央に溝状
62	040-655	内 Ab	Ab	82	65	11	17平	横円	→	1黄褐色土(ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック混)	陶磁器(25) 壁土(25)
64	015-680	内 Aa	Aa	52	47	5		円	→	1黄褐色土(ロームブロック混)	
65	015-680	内 Aa	Aa	68	55	7		円	→	1黄褐色土(ロームブロック混)	
66	020-675	内 E	E	530	85	18		長方形	→	1黄褐色土(ロームブロック多)	
67	020-675	内 B	B	107	96	15		円	→	2黄褐色土(ロームブロック多)	67-2が新
67.1	020-675	内 B	B	116	-	13		円	→		
67.2	020-675	内 B	B	83	80	4		円	→	1黄褐色土(ロームブロック混)	
68	030-675	内 E	E	264	52	36		長方形	→	1黄褐色土(ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック多)	
69	030-670	内 Aa	Aa	78	73	12	104土	円	→	1黄褐色土(ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック混) 3黄褐色土(ロームブロック混) 4黄褐色土(ロームブロック混)	新69-1-69-104E
69.1	030-670	内 Aa	Aa	67	66	12		円	→		
70	020-670	内 C	C	106	68	22		方形	→	1黄褐色土(ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック混)	
70.1	020-670	内 Aa	Aa	66	55	25		円	→		
71	025-675	内 H	H	170	112	146		横円	→	1黄褐色土(ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック混) 3黄褐色土(ロームブロック混) 4黄褐色土(ロームブロック混) 5黄褐色土(ロームブロック混)	遺?中央に70×50×5cmの掘り込み有り
73	030-675	内 Aa	Aa	76	54	5	74土	横円	→	3黄褐色土(ロームブロック混)	
74	030-675	内 B	B	144	108	10	72土	円	→	1黄褐色土(ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック混) 3黄褐色土(ロームブロック混)	中央と東西にビットあり。
75	035-670	内 E	E	200	56	19	52.76土	→	2黄褐色土(黒色土・ロームブロック混)	52が新	
76	035-670	内 E	E	290	50	16	52.75土	長方形	→	3黄褐色土(ロームブロック混)	
80	040-670	内 D	D	104	60	12		横円	→	1黄褐色土(ロームブロック混、砂粒混)	北側に径45cm深さ13cmのビット
81	030-670	内 E	E	515	48	37	82.84土	長方形	→		
82	035-670	内 E	E	229	70	38	81.82土	長方形	→	11にぶい黄褐色土(ロームブロック多) 2黄褐色土(ロームブロック多) 3黄褐色土(ロームブロック多)	
84	030-670	内 E	E	310	60	30		長方形	→		
85	025-675	内 D	D	(155)	40	7		横円	→	1黄褐色土(ロームブロック混、砂粒混)	断面は溝状
89	015-680	内 Aa	Aa	50	52	55		円	→	1黄褐色土(黒色土・ロームブロック混、砂粒混) 2黒色土(黒色土・ロームブロック混)	
92	015-670	内 Aa	Aa	72	72	30		円	→	1黄褐色土(黒色土・ロームブロック混) 2黄褐色土(ロームブロック混) 3黄褐色土(ロームブロック混)	
93	015-670	内 Aa	Aa	78	66	16		円	→	1黄褐色土(ロームブロック混)	
94	030-670	内 G	G	167	(180)	20	95.96土	円	→	2黄褐色土(ローム混)	直径4.5尺程
94.1	030-670	内 E	E	209	(110)	13		長方形	→		
95	030-670	内 G	G	154	143	36	94.96土	横円	→	1黄褐色土(黒色土・ロームブロック混) 2黄褐色土(黒色土・ロームブロック混) 3黄褐色土(ロームブロック混) 4黄褐色土(ロームブロック混) 5黄褐色土(ロームブロック混)	直径4.5尺程
95.1	030-670	内 G	G	143	130	33		横円	→	1黄褐色土(ローム混) 2黄褐色土(黒色土・ロームブロック混)	直径3.3尺程
96	030-670	内 E	E	184	(120)	12	94.95土	長方形	→		
97	030-670	内 B	B	(100)	(95)	19	84土、145土	円	→	1黄褐色土(黒色土・ロームブロック混)	



第3章 検出された遺構・遺物

番号	グリッド	S課	分期	規模 (m)			遺構関係	平面形	断面	層 土	備 考
				長軸	短軸	深さ					
148	040-630	内	G	口徑 120	成径 90	26		円	—	1層灰色粘質土(小礫含む)、黒褐色土・ロームブロック状、灰化物質、2層褐色土(ローム状)、3層褐色土(ロームブロック)	底径3尺程 中央に小ビレット
149	035-630	内	G	口徑 104	成径 75	21		円	—	黒褐色土(ロームブロック状)	底径2.5尺程 中央に小ビレット
150	030-655	内	B	—	—	—	119土	断面	—	2にぶい貴腐色土(ロームブロック含む)	
151	035-650	内	E	136	65	11	144土	長方形	—	14にぶい貴腐色土(ロームブロック多)	
152	035-650	内	D	162	114	12	117, 181土	長方形	—	15にぶい貴腐色土(ロームブロック多)	
153	035-665	内	E	206	69	13	154土	長方形	—	3明貴腐色土(ロームブロック多)	
154	035-665	内	E	519	73	37	153, 230土	長方形	—	11にぶい貴腐色土(ロームブロック多) 3層褐色土	
155	030-670	内	E	180	55	15		長方形	—	11にぶい貴腐色土(ロームブロック多)	
155-1	030-670	内	D	400	55	5		長方形	—		
155-2	030-670	内	B	口徑 47	成径 39	3		円	—	2層褐色土(ローム粒混)	
164	030-630	内	G	口徑 122	成径 90	44	168土	円	—	1層褐色土 2層灰色土(黒灰色粘質土・ロームブロック状) 3層灰色土(砂状・ローム粒混) 4層褐色土(ロームブロック多) 5層 6層灰色土(しまり有) 7層褐色土(ロームブロック多)	底径3尺程
166	025-630	内	E	120	80	25	167, 184土	長方形	—	1層褐色土(ロームブロック多) 2層褐色土(ロームブロック多)	
167	025-630	内	E	105	74	23	166土	長方形	—		
167-1	025-630	内	E	76	32	36		長方形	—		
168	030-630	内	G	口徑 160	成径 125	56	164, 232土	円	—	8層灰色土(灰白粘土ブロック状、ロームブロック含む) 9層灰色土(灰白粘土土・褐色土ブロック状) 10層褐色土(木・ローム粒混) 11層貴腐色土(ローム粒多)	底径4尺程
173	035-633	内	E	664	56	39		長方形	—	1層灰色土(ロームブロック状) 2層褐色粘質土(ロームブロック状) 3層褐色土(ロームブロック多)	海産物 (174)
173-1	035-633	内	E	216	37	6		長方形	—		
17171	035-653	内	Aa	43	40	65		円	切	1層褐色土(ロームブロック状、しまり有) 2層褐色土(ロームブロック状、しまり有) 3層褐色土(しまり有)	
17172	035-653	内	Aa	40	30	45		断面	U	層褐色土(ロームブロック多)	
174	030-655	内	B	80	76	33	150, 174土	円	—		
175	030-655	内	B	82	76	26	119, 150, 174土	円	—		
180	040-650	内	Ab	65	64	10		円	—	にぶい貴腐色土(ロームブロック含む)、底面に径15cmほどの石臼を含む4段で円形を成す	底面に石臼 (20)
181	035-650	内	E	160	73	31		長方形	—	16にぶい貴腐色土(ロームブロック多) 17にぶい貴腐色土(ロームブロック多、褐色粘質土ブロック状)	
184	025-650	内	E	180	77	18	166土	長方形	—		
184-1	025-650	内	E	185	74	5		長方形	—		
185	035-655	内	D	150	90	7		長方形	—	1層褐色土(黒褐色土ブロック含む) 2にぶい貴腐色土(褐色土・ロームブロック多)	
186	035-655	内	E	187	44	12		長方形	—	にぶい貴腐色土(ロームブロック状)	
194	030-665	内	G	口徑 90	成径 58	36		円	—	1層褐色土(ロームブロック多) 2層褐色土(黒色土・ロームブロック状) 3層褐色粘質土	底径2尺程
195	030-630	内	F	—	53	105	215土	円	U	3層褐色土(ロームブロック) 4層灰色砂質土(ロームブロック状) 5層褐色土(褐色土粘質土ブロック状) 6層褐色砂質土(小礫混) 7層褐色粘質土(ロームブロック多) 8層褐色砂質土	215土が田
197	030-630	内	Aa	60	60	40		円	U	にぶい貴腐色土(ロームブロック多)	
198	030-630	内	E	115	—	29	209, 210土	長方形	—	1層灰色土(褐色土・ロームブロック状)	新198-209-210田
199	030-655	内	E	115	—	34		長方形	—	1層灰色土(ロームブロック状) 2層褐色土(ロームブロック多)	
200	030-655	内	G	口徑 144	成径 110	64		円	—	1層灰色土(ロームブロック状) 2層灰砂層 3層褐色土(ロームブロック状) 4層褐色砂質土	底径3.6尺程
201	030-660	内	G	口徑 100	成径 66	76	丹戸	円	—	1層貴腐色土(ロームブロック多) 2層褐色土(土・黒褐色土ブロック状、灰くしまり) 3層褐色土(黒褐色土・ロームブロック状) 4層褐色粘質土(褐色粘質土・ロームブロック状)	底径2.2尺程
203	025-630	内	C	125	105	22	206土	方形	—	1層灰色土(ロームブロック状) 2層灰色土(ロームブロック多)	
206	025-630	内	G	口徑 100	成径 80	18	205土	円	—	3層灰色土(ロームブロック状) 4層灰色土(黒色土・ロームブロック状)	底径2.6尺程
206-1	025-630	内	G	口徑 95	成径 72	19		円	—	5層灰色土(ロームブロック状)	底径2.4尺程
207	035-665	内	E	194	74	18		長方形	—	11にぶい貴腐色土(黒褐色土・ロームブロック含む)	
208	030-655	内	G	口徑 115	成径 72	47	233土	円	—	1層灰色土(黒色土・ロームブロック状、小礫多) 2層灰色土(ロームブロック状) 3層褐色土(黒色土ブロック状)	底径3尺程
208-1	030-655	内	C	170	117	36		方形	—	4層褐色土(ロームブロック多)	
209	030-650	内	E	78	70	53	196, 210土	長方形	U	2にぶい貴腐色土(ロームブロック多)	
210	030-650	内	G	96	85	86	196, 209, 215土	円	切	3層褐色砂質土(ロームブロック多) 4層褐色砂質土(褐色土ブロック状) 5層褐色土(ロームブロック多)	
211	035-660	内	E	192	60	41	234土	長方形	—	1層褐色土(灰化砂・黄土混、ローム粒多) 2層灰色土(ローム粒多) 3層褐色土(ロームブロック多)	新224-211田
213	025-633	内	E	206	72	19	214土	長方形	—	1層褐色土(灰化砂・黄土混、ローム粒多)	

第5節 中・近世以降の出土遺物

番号	グリップ	5溝	分類	底 径 (cm)			重 量 (g)	平面形	断面	土	備 考
				長軸	短軸	厚さ					
213	025-655	内	E	-	71	10		長方形	→	2層褐色土(黒色土・ロームブロック混)	
214	025-655	内	C	248	163	12	243土	方形	→		
215	020-650	内	B	196	-	20	195, 210土	円	→	1層褐色土(ロームブロック混)2層褐色土(ロームブロック多)	
216	025-660	内	Aa	67	60	12		円	→	1層褐色土(黒色土・ロームブロック混)	
216-1	025-660	内	Aa	52	51	8		円	→	2層褐色土(ロームブロック多)	新216-216-1田
219	025-680	内	D	(85)	46	9	50, 230土	長方形	→		
220	025-680	内	E	(125)	60	20	50, 239土	長方形	→		
221	020-655	内	G	537.6	直径60	27		円	→	1層褐色土(ロームブロック混) 2層褐色土(ロームブロック多)	
221-1	020-655	内	Aa	40	-	15		円	→	3層褐色土・4層褐色土(ロームブロック混)	
223	025-660	内	E	167	-	33	224土	長方形	→		
224	025-660	内	E	315	76	29	211, 223土	長方形	→		
234-1	025-660	内	B	93	(72)	23		楕円	→		
234-2	025-660	内	Aa	66	30	37		不明	-		
225	020-660	内	E	280	96	46		長方形	→	にぶい・黄褐色土(ロームブロック多)	
226	020-660	内	E	204	90	38	229土	長方形	→	1層褐色土(ロームブロック多)	新226-229田
227	020-655	内	C	321	137	20		楕円	→	1層褐色土(ロームブロック多) 2層(灰色砂質土(灰粒含)) 3層(褐色砂層)	東西に割本取
227-1	020-655	内	D	121	86	24		楕円	→		
227-2	020-655	内	E	170	89	20		長方形	→	褐色土(黒色土・ローム・鉄分凝縮ブロック混)	
227-3	020-660	内	C	131	-	15		方形	→	1層褐色土(黒色土・ローム・鉄分凝縮ブロック混) 2層褐色土(ロームブロック混) 3にぶい・黄褐色土(ロームブロック混、ビッド層土)	中央にPn有り
229	020-660	内	D	156	-	16	236土	方形	→	3層褐色土(黒色土・ロームブロック混)	
230	025-665	内	E	155	-	17	154土	長方形	→		
231	024-656	内	B	127	101	10		楕円	→	1層褐色土(ローム粒含) 2にぶい・黄褐色土(ロームブロック混、しまり層) 3黄褐色土(ロームブロック多)	土層註2・342Pn158
232	020-650	内	E	150	54	20	168土	長方形	→	12にぶい・黄褐色土(ロームブロック多)	
233-1	020-655	内	E	170	40	10		長方形	→	褐色土(ローム粒含)	
233-2	020-655	内	E	237	72	22	208土	長方形	→	1にぶい・黄褐色土(ロームブロック混) 2層褐色土(ローム粒含) 3層褐色土(ロームブロック多)	土層註2・342Pn
234	045-675	内	Aa	56	35	19		円	→	1層褐色土 2黄褐色土(ロームブロック多)	
235	045-675	内	D	104	85	13	236土	楕円	→	褐色土	
236	045-675	内	Aa	66	48	44	235土	楕円	U		Pn(伏底面に僅あり)

番号	グリップ	5溝	分類	底 径 (cm)			重 量 (g)	平面形	断面	土	備 考
				長軸	短軸	厚さ					
1	065-675	外	Aa	73	70	28		円	U	1層褐色土(C混) 2にぶい・黄褐色土(C少、灰色シルトブロック含)	
2	067-680	外	F	91	88	100	溝				丹戸へ
4	060-645	外	E	364	86	96	14溝	長方形	→		
5	060-620	外	B	133	116	18		円	→	黒褐色土(C混黒色土・褐色土ブロック含)	
6	060-625	外	B	103	87	48		円	U	1層褐色土(近代土) 2層褐色土(C混黒色土ブロック混、C混褐色土・ロームブロック含)	
8	055-620	外	B	125	123	37		円	→	1層褐色土(C混黒色土・褐色土ブロック含) 2層褐色土(C混黒色土ブロック含、ローム粒・ブロック混)	
9	055-620	外	B	123	117	26	227土	円	→	黒褐色土(C混黒色土・褐色土ブロック含)	確認面で瓦(120)出土
10	025-620	外	B	132	124	45		円	→	にぶい・黄褐色土(C混黒色土ブロック、ロームブロック混)	
11	025-615	外	B	107	104	25		円	→	1層黄褐色土(C混黒色土・褐色土ブロック混) 2にぶい・黄褐色土(褐色土ブロック含)	中央に古いビッド有
12	060-645	外	D	128	103	32		円	U	灰黄褐色土(C混黒色土・褐色土ブロック混)	
13	060-638	外	F	102	82	110		楕円	U		丹戸へ
15	065-605	外	C	162	154	39		方形	→	1灰黄褐色土(小礫多) 2層褐色土(C混黒色土ブロック含、ローム粒・ブロック混)	
16	060-615	外	D	146	114	30		楕円	→	にぶい・黄褐色土(C少、灰色シルトブロック含)	
17	060-615	外	B	117	108	21		円	→	にぶい・黄褐色土(C少)	
18	060-635	外	B	92	76	0		円	→	にぶい・黄褐色土(C混、小礫含)	



第3章 検出された遺構・遺物

番号	グリッド	5階	分層	規模 (cm)			遺構関係	平面形	断面	覆土	備考
				長軸	短軸	厚さ					
19	060415	外	D	166	115	43		楕円	→	にぶい黄褐色土(炭黒色土ブロック、ロームブロック混)	
20	035405	外	D	181	73	24		楕円	→	黒褐色土(炭黒色土・褐色土ブロック混)	
20-1	040405	外	E	137	85	24		長方形	→		
21	040405	外	C	194	75	30		方形	→	黒褐色土(炭黒色土・褐色土ブロック混)	
22	035400	外	D	169	97	58		楕円	→	にぶい黄褐色土(黒色土ブロック、ロームブロック混)	
24	060415	外	C	85	54	36		方形	→	にぶい黄褐色土(黒色土ブロック、ロームブロック混)	
25	045400	外	II	393	269	106		長方形	→	1)にぶい黄褐色土(炭黒、ロームブロック混) 2)灰黄褐色土(炭黒、鉄分凝結ブロック混) 3)灰黄褐色土(炭黒、黒色土・ロームブロック混) 4)灰黄褐色土(鉄分凝結多、黒色土・ロームブロック混) 5)灰黄褐色土(ローム混多)	145×97×45cmの方形掘り込み
25-1	040400	外	D	0209	90	41		楕円	→		
26	050410	外	B	109	100	41		円	→	1)にぶい黄褐色土(炭黒、ロームブロック混) 2)にぶい黄褐色土(ロームブロック混) 3)暗褐色砂質土	
27	045410	外	D	099	55	30		楕円	→	1)にぶい黄褐色土(炭黒、ロームブロック混) 2)にぶい黄褐色土(ロームブロック混)	
27-1	045410	外	Aa	67	(5)	17		円	→		
28	045410	外	D	174	(14)	14	29.30土	方形	→	4)黒褐色土(炭黒、黒色土ブロック混)	
29	045410	外	B	898	(7)	31	28.30土	円	→	3)黒褐色土(ロームブロック混)	
30	045410	外	II	222	95	63	28.29土	長方形	→	1)にぶい黄褐色土(黒色土・ロームブロック混) 2)灰黄褐色土(ロームブロック混)	28-29-30の間に属(或る)
31	040410	外	Aa	64	54	24		円	→	にぶい黄褐色土(炭黒、黒色土ブロック混)	
32	050410	外	F	151	126	90	19混	円	U	1)黒褐色土(炭黒褐色土ブロック混、ローム混・ブロック混) 2)黒褐色粘質土(砂質混)	径50cm深さ55cmのビット
33	040420	外	B	117	106	66	34混	円	U	にぶい黄褐色土(ロームブロック混、炭化粉混)	
33-1	040420	外	Aa	86	79	56	34混	円	U		
34	060420	外	I	143	140	17		竈穴	→	1)黒褐色土(炭、炭化粉少) 2)黒褐色土(炭少、灰・焼土粒含) 3)黒褐色土(粘土・炭土・灰混)	方形部で焼残
35	050405	外	B	120	105	37		円	→		
36	060415	外	I	182	50	17	8厚JF	竈穴	→	1)黒褐色土(炭多、炭化粉少) 2)黒褐色土(炭少、灰・焼土粒含) 3)黒褐色土(粘土・焼土ブロック・灰混)	方形部で焼残
38	055430	外	Aa	53	46	22		円	U	1)暗褐色土(炭混) 2)暗褐色土(炭混、黒色土ブロック混)	
40	050430	外	Aa	43	41	16		円	U	1)暗褐色土(炭混) 2)暗褐色土(炭少)	
41	050430	外	E	268	57	22	23混	長方形	→	1)灰黄褐色土(A混)ビット 2)暗褐色土(炭混、黒褐色土・褐色土ブロック混) 3)暗褐色砂質土(23混)	
42	050425	外	B	96	87	26	12厚JF	円	→	1)褐色土(炭混、黒褐色土・褐色粘質土ブロック混) 2)暗褐色土(ロームブロック多)	
43	050415	外	D	225	90	25	20混	楕円	→	1)褐色土(A混、炭化粉・ローム混)	底部中央に88×60×7cmの楕円形掘り込みあり
44	050410	外	D	123	76	19	20混	楕円	→	1)暗褐色土(A・B混、黒色土ブロック混) 2)暗褐色土(黒色土・褐色土ブロック混)	
45	035435	外	D	174	109	36		長方形	→	1)暗褐色土(炭混、黒色土・ロームブロック混) 2)暗褐色土(炭混、褐色土・ロームブロック混)	1層下層に縦溝(5)黒土
47	055445	外	E	164	70	33		長方形	→	1)褐色土(A混) 2)褐色土(黒色土・ロームブロック混)	
50	055425	外	Aa	72	62	34		円	U	1)にぶい黄褐色土(炭混、黒褐色土ブロック混) 2)灰黄褐色土(焼土粒含)	
53	050425	外	Aa	68	67	31	4厚JF	円	U	1)にぶい黄褐色土(炭混、炭土ブロック混) 2)黒褐色土(暗褐色土ブロック混)	
54	050445	外	C	103	95	17	P1328	方形	→	1)暗褐色粘質土(ローム混) 2)にぶい黄褐色土(ロームブロック混) 3)暗褐色土(炭混、ロームブロック混、ビット28)	中央にビット328
55	050425	外	Ab	60	56	32		円	U	1)にぶい黄褐色土(炭混) 2)暗褐色粘質土 2層上面に径15cmの板が水平に出土	層上より縦溝(20)小溝と瓦(3)出土
60	055425	外	B	98	75	15		円	→	1)暗褐色土(炭混、ロームブロック多) 2)にぶい黄褐色土(ロームブロック多)	
77	041475	内	Aa	47	30	28	78土	楕円	→		
78	041475	内	Aa	46	25	0	77土	楕円	→		
125	055415	外	E	390	50	13		長方形	→	瓦10片ほど北側に集中して出土	瓦124
126	030700	外	Aa	66	64	80		円	U	1)暗褐色土(小炭少) 2)黒褐色土(暗褐色土・ロームブロック混) 3)暗褐色土・暗褐色粘質土・ロームブロック混	確認後で墳墓遺物出土
137	010700	外	Aa	88	80	85		円	U	1)暗褐色土(炭少・炭混) 2)暗褐色土(ロームブロック混) 3)暗褐色土(黒褐色土・ロームブロック混)	
138	010700	外	Aa	71	59	30		円	→	暗褐色土(ロームブロック少)	
158	010495	外	B	口横 115 底径 75		30	159土	円	U	1)暗褐色土 1)暗褐色土	
159	010495	外	B	148	120	38	158、160土	円	U	1)暗褐色土	
160	010495	外	D	158	120	49	159、161、190土	長方形	→	1)暗褐色土	
161	010495	外	D	126	(70)	47	160、163、193土	楕円	→	1)暗褐色土 1)暗褐色土	
162	010495	外	D	136	60	33	163、187土	楕円	→	1)暗褐色土	

第5節 中・近世以降の出土遺物

番号	グッド	5 課	分類	幅 (m)			重層関係	平面形	断面	土	備考
				長軸	短軸	深さ					
163	010-695	外	D	134	60	40	161, 162, 188土	楕円	→	10層灰褐色土	
187	010-695	外	E	(200)	52	32	162, 188, 196土	長方形	→	4層褐色砂質土	
188	010-695	外	E	(200)	80	16	187, 189, 163土	長方形	→	5層色土(ロームブロック区) 2層褐色土(ローム殻混)	
189	010-695	外	D	54	65	25	188, 193, 196土	楕円	→	2黄褐色土(ローム殻多) 7層褐色土(ローム殻含)	
190	010-695	外	E	235	65	30	160, 193, 196土	長方形	→	6層褐色土(ローム殻・炭化殻多)	
193	010-695	外	D	187	89	30	161, 188, 189, 190土	楕円	→	9層褐色砂質土 10に赤い黄褐色土	
196	010-695	外	E	216	66	33	187, 188, 189, 190土	長方形	→	1層灰色砂質土 3層褐色砂質土	
203	010-690	外	H	282	290	94	218土25層	方形	→	1層褐色土(腐葉土・ローム殻多) 2層褐色土(ロームブロック含・地土ブロック混) 3層褐色土(黒色土・ロームブロック混・遺物多) 4層褐色土(雑物遺体含) 5層土 6層褐色土(黒色土・ロームブロック混)	底部分に80×60×7cmの陶器形取り込み有り
218	010-690	外	D	-	70	27	203土	楕円	→	1層褐色土(ローム殻混) 2層褐色土(ロームブロック混)	
237	055-630	外	Aa	57	(57)	13	9, 258土	円	→	1層灰色土(C混)	
238	055-630	外	Aa	39	(39)	11	237土	円	→	1層灰色土(C混)	
239	050-630	外	B	95	83	14		円	→	1層灰色土(C混) 2層褐色土(灰褐色土ブロック含)	
240	055-660	外	Aa	72	43	16	241土	楕円	→	1層灰色土(C混) 2層褐色土(灰褐色土ブロック含)	
240-1	055-660	外	Aa	(50)	45	7		楕円	→		
241	055-660	外	B	87	82	13	240土	円	→	2に赤い黄褐色土(褐色土ブロック混) 3層褐色土(黒色土ブロック含)	
242	055-630	外	Aa	59	56	9		円	→	1層灰色土(黒色土・褐色土ブロック混)	
243	055-630	外	Aa	60	58	15		円	→		
244	065-605	外	Aa	75	70	30		円	→	1層褐色粘質土 2層褐色粘質土(黒色土ブロック混) 3層褐色粘質土(灰白色土ブロック含)	
244-1	065-605	外	C	108	97	11		方形	→		
244-2	065-605	外	Aa	49	38	4		楕円	→		
245	060-605	外	C	90	89	11		方形	→	1層褐色粘質土	
245-1	060-605	外	Aa	56	50	10		楕円	→		
245-2	060-605	外	Aa	38	35	15		楕円	→		
246	035-605	外	B	134	74	12		楕円	→	1層褐色粘質土 2層褐色粘質土	
246-1	035-605	外	B	87	64	23		方形	→		
246-2	035-605	外	Aa	78	75	13		円	→		
247	030-630	外	H	332	283	110		方形	→	1層褐色土(腐葉土) 2層褐色土(黒色土・ロームブロック混) 3層灰色土(砂粒混・雑物遺体混) 4層灰色シルト質土(砂粒含) 5層褐色土(ロームブロック多) 6層赤り土(ロームブロック混・しまり有) 7層白オリーブ色土(ロームブロック多)	緑色片若干 4層中より出土
247-1	030-630	外	F	94	88	183		円	→		
248	045-610	外	Aa	73	71	27		円	→	褐色土(ロームブロック含)	
249	040-600	外	D	(154)	(117)	21		楕円	→		
250	040-600	外	B	(81)	80	10		円	→		
251	040-600	外	D	(178)	(117)	31		楕円	→		80×50×30cmの陶器形取り込み有り
252	065-595	外	B	121	(165)	27		円	→	褐色土(Aa-B混)	
253	045-640	外	Aa	50	35	11		楕円	→	1に赤い黄褐色土(ロームブロック混)	P12基
254	045-640	外	D	166	100	14		楕円	→	1層褐色土(ロームブロック含)	
254-1	045-640	外	C	85	(60)	11		方形	→	2層褐色砂質土(ロームブロック含)	
255	050-640	外	D	116	65	8	256, 257土	方形	→	1層褐色土(ロームブロック混)	
256	050-640	外	D	100	32	18	235, 257土	楕円	→	2層褐色土(小骨含)	
257	050-640	外	D	153	71	15	255, 256土	楕円	→	3層褐色土(ロームブロック混)	
262	065-630	外	Aa	69	47	5		楕円	→	1層褐色土(焼土ブロック混) 2層褐色土(灰黒・炭化物含)	大跡集小
263	040-625	外	Aa	73	61	19		円	→	1層褐色土(ロームブロック含)	
265	040-630	外	D	183	60	11		楕円	→	1に赤い黄褐色土(ローム殻含) 2に赤い黄褐色土(ロームブロック混)	P13基
266	035-630	外	Aa	80	70	11		円	→	1に赤い黄褐色土(ローム殻含)	
266-1	035-630	外	D	75	48	15		楕円	→	2に赤い黄褐色土(ロームブロック多)	
267	035-635	外	D	173	76	13		楕円	→	1に赤い黄褐色土(ロームブロック混)	
268	050-640	外	B	117	(88)	14		楕円	→	1に赤い黄褐色土(ロームブロック混)	
270	070-655	外	B	142	106	11		楕円	→	1層褐色土 3層褐色土(黒色土・ロームブロック混)	中央にP12基
272	029-660	外	B	134	130	17		円	→	1層褐色土 2層褐色土(ローム殻含) 中央で方形に10cm四方	P12基有り

## 第5節 中・近世以降の出土遺物

本遺跡より出土した中・近世以降の遺物を掲載する。本遺跡は「中敷館跡」として一つの館遺構であり、溝・井戸・土坑等は、この館に関する一連の遺構であると考えた。各遺構は、ともに覆土が類似する人為的埋没土である。出土遺物は、陶磁器片等が収納ケース(60cm×38cm×15cm)に密に収納し50箱程、瓦片が収納ケース25箱程あり、その中で器形復元のできるもの、特徴的なもの、等の観点から陶磁器類355点、瓦121点を厳選した。石製品や木器・鉄製品は殆ど全て掲載した。出土した遺物は17世紀～18世紀の江戸時代のものである。中世の遺物は、板碑や5号溝出土の内耳鍋等若干の土器片等であった。遺物掲載に当たり次のように分類した。分類は大きく、陶磁器・土器・瓦・石製品・木器・鉄器と分類し、さらに、陶磁器では碗・皿・鉢・甕・瓶・蓋・その他とし、土器は蓋・皿・焙烙とした。その後は瓦、石臼・礎石・砥石・板碑・木器・護符・碗・曲物・建茶材等、キセル・古銭の順に掲載した。

掲載遺物量は中近世遺物で721点である。その内訳は、陶磁器類356点(49%)を筆頭に、瓦121点(17%)、石臼55点(7.8%)、木製品45点(6.3%)、五輪塔25点(3.6%)、砥石、古銭、板碑、礎石である。本報告書掲載遺物の60%である。

遺構別に見ると、最も多いのが1号溝225点(31.3%)であり、その内訳は陶磁器が63%、瓦36%である。次に5号溝127点(17.6%)、3号溝35点(4.9%)、2号溝と続き、溝出土遺物が全体の69%を占める。遺構別遺物総量の比率は掲載量に比例し、ほとんどが1号溝出土である。

第83表 中近世掲載遺物遺構別出土量表

	陶磁器	土器	瓦	石製品	木製品	鉄製品	計	近代以降
1溝	133	7	79	3	-	3	225	31.3%
2溝	17	1	5	2	-	-	25	3.5%
3溝	34	-	-	1	-	-	35	4.9%
5溝	76	10	8	8	25	-	127	17.6%
6溝	8	1	2	6	-	1	18	2.5%
11溝	1	-	-	-	-	-	1	0.1%
12溝	11	-	2	1	-	1	15	2.0%
15溝	3	4	1	1	-	-	9	1.3%
19溝	1	-	-	1	-	-	2	0.3%
20溝	-	6	1	21	-	-	28	3.9%
24溝	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
25溝	-	2	-	2	-	-	4	0.6%
1井戸	3	-	1	-	-	-	4	0.6%
3井戸	-	-	-	4	-	-	4	0.6%
5井戸	2	-	-	-	3	-	5	0.7%
7井戸	-	-	-	2	1	-	3	0.4%
12井戸	-	-	-	9	-	-	9	1.3%
14井戸	-	-	-	1	-	-	1	0.1%
17井戸	1	1	-	1	1	-	4	0.6%
18井戸	-	-	2	2	-	-	4	0.6%
19井戸	-	-	-	1	2	-	3	0.4%
20井戸	2	-	-	3	-	-	5	0.7%
21井戸	-	-	1	2	2	-	5	0.7%
23井戸	1	-	-	10	-	-	11	1.5%
25井戸	1	-	-	1	-	-	2	0.3%
26井戸	1	-	-	1	2	-	4	0.6%
28井戸	-	-	-	1	-	-	1	0.1%
30井戸	-	-	-	-	1	1	2	0.3%
37井戸	-	-	-	-	1	1	2	0.3%
38井戸	1	5	-	14	1	-	21	2.9%
39井戸	1	-	-	4	-	-	5	0.7%
7土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
9土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%

	陶磁器	土器	瓦	石製品	木製品	鉄製品	計	近代以降
11土坑	-	-	-	-	-	1	1	0.1%
15土坑	1	-	1	-	-	-	2	0.3%
16土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
30土坑	-	-	2	-	-	-	2	0.3%
34土坑	2	-	-	-	-	-	2	0.3%
38土坑	1	-	-	-	-	-	1	0.1%
43土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
45土坑	-	-	1	1	-	-	2	0.3%
83土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
85土坑	1	-	1	1	1	-	4	0.6%
82土坑	1	-	-	-	-	-	1	0.1%
100土坑	-	-	-	1	-	-	1	0.1%
101土坑	1	-	-	-	-	-	1	0.1%
112土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
120土坑	-	-	-	2	-	-	2	0.3%
125土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
136土坑	-	-	-	-	-	-	0	0.0%
137土坑	1	-	1	-	-	-	2	0.3%
140土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
146土坑	-	-	-	4	1	-	5	0.7%
168土坑	-	1	-	-	-	-	1	0.1%
180土坑	-	-	-	1	-	-	1	0.1%
184土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
203土坑	6	5	-	-	1	-	12	1.7%
218土坑	1	-	-	-	-	-	1	0.1%
227土坑	3	2	-	-	-	-	5	0.7%
230土坑	-	-	1	-	-	-	1	0.1%
247土坑	1	-	2	-	-	-	3	0.4%
P260	-	-	-	1	-	-	1	0.1%
P154	1	-	-	-	-	-	1	0.1%
P122	-	-	-	1	-	-	1	0.1%
ドリッド	38	-	7	12	1	17	75	10.4%
	356	47	126	121	48	25	721	100.0%

## 1. 陶磁器

## ①碗 (第123～132図、口絵4・5)

出土遺構・掲載量は、1号溝が64点、2号溝12点、3号溝18点、5号溝51点、6号溝3点、15号・19号溝で各1点ずつ、12号溝5点、38号・39号井戸各1点ずつ、15・34・38・101・137・203・227・247号土坑各1点、203号土坑から4点、グリット5点、表採15点の計189点である。

碗は、口径により9cm以下を小碗、12cm以下を中碗、15cm以下を大碗とした。1～152は磁器、153～189が陶器である。1～95が小碗、96～150が中碗、151・152が大碗である。1～27・29は波佐見系の「くらわんか手」、30～46は開きながら立ち上がるタイプで、30・31・33～39は瀬戸・美濃、8・32・41～44が肥前、40・45・46が波佐見系である。40・44は小広東型、43には焼継時の文字がある。45・46は二重網目文を染付けする。47～59は筒丸型で、製作地は47・50・53・54・56は波佐見系、52・55は肥前、48・49・57は瀬戸・美濃である。48・49・55の底部には抽象文があり、裏底に「寿」の銘がある。60～62は腰部が丸く張り出し、高台が径・高さともに小さい。見込みに60は鶯文が、61・62は五弁花が染付けされている。63～87は肥前製作の筒型の小碗である。口縁内に四方棒、見込みの五弁花はコンヤク印判で染付けされている。63～78には七宝雲文や菊花文等が染め付けられ、79～87は青磁染付けである。88～92は口縁が反るタイプで瀬戸・美濃の製作である。90に焼継時の文字がある。92・93は外面に瑠璃釉がかけられる。94は口縁部内面に團線が施される。95は仏飯器である。

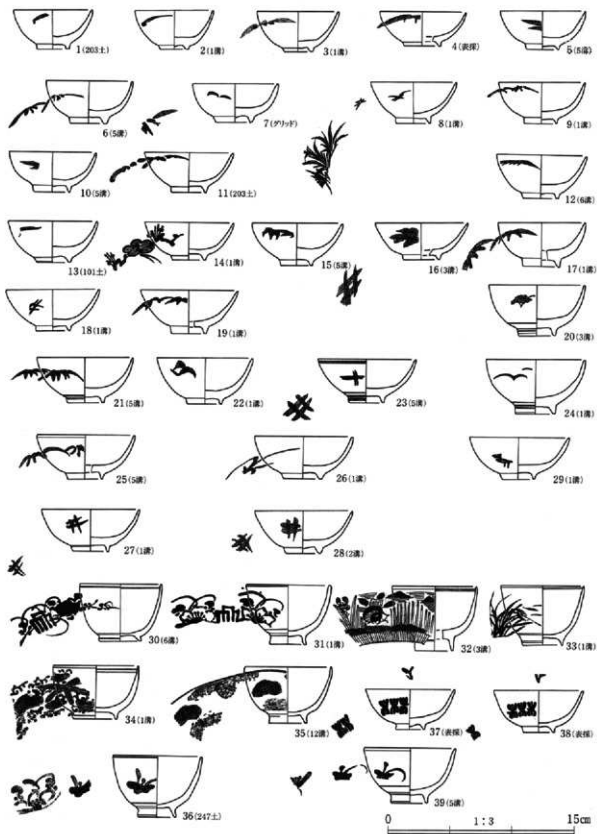
96～132は波佐見系の「くらわんか碗」である。裏底に銘がある。115は渦福? 123～130はコンヤク印判による染付けで、127・129の裏底に渦福の銘がある。131・132は二重網目文で132の裏底に大明崩しの銘がある。133～146は口縁が反るタイプで、134・136・139・145は瀬戸・美濃製作で、135・137・138・140～144・146は肥前製作である。134・140・143に焼継時の文字がある。見込みには、139に□□年造の文字が、137・143・144に三友、141に笹、146に寿、その他の碗にもある。147は肥前製作の広東碗である。148・149は腰の張るタイプで、製作地は148は肥前、149は波佐見系である。148は口縁内に四方棒文、青磁染付けである。149は口縁部に四方棒文と唐草文を施す。150は腰が折れ直立するタイプ。京・信楽系、鉄絵で笹か松を描く。

151・152とも製作地は肥前。151は口縁が反るタイプで口縁内に寿字文、見込みに松葉茸、外面に福寿字を施す。欠け口に漆が付着しており、漆継の可能性もある。152は口縁に口紅装飾のある白磁の大碗で、外面に轆轤回転に沿って沈線を施す。内面に重ね積みの目痕が3カ所ある。漆継である。

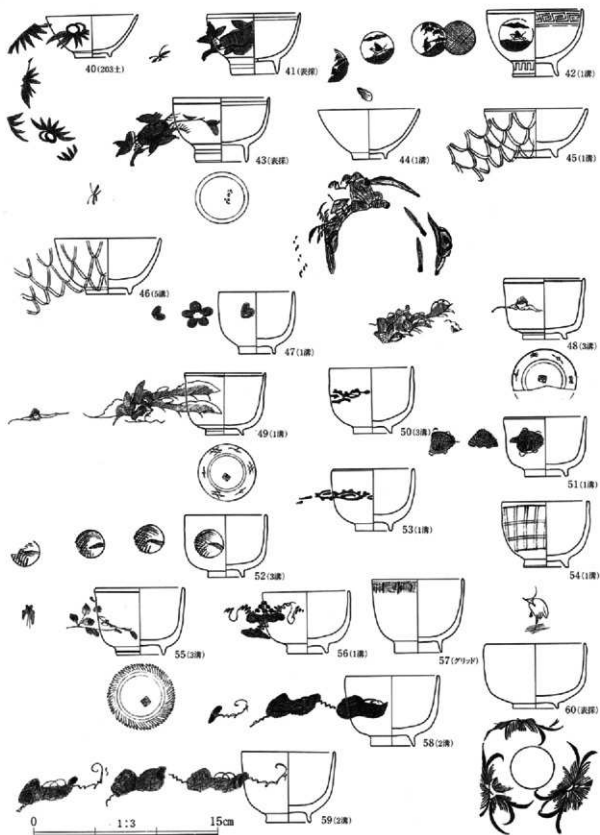
陶器も磁器同に分類する。153～159は小碗、160～189を中碗とする。小碗の製作地は瀬戸・美濃である。153・154は高台盤以下が無軸となる。154は鉄軸を掛ける。外面口縁部以下は無軸とする。高台盤に2カ所目痕が見られる。156・157は染付湯呑みである。158は盞湯呑みである。外面に灰軸、内面から口縁部に鉄軸を掛け分ける。159は天目湯呑みである。高台部を除く全面に天目軸を施す。

160～164は瀬戸・美濃、176～187は肥前が製作地である。160・161は絵付け後透明釉を施す。162～164は腰箱碗である。外面に鉄軸、内面から口縁部にかけて灰軸を掛け分ける。胴部に轆轤回転に沿って沈線を数条入る。165～171は京焼風の呉器手碗である。172～175は尾路茶碗である。給軸が掛かる。高台盤以下は無軸とする。176～186は陶器胎土に染め付け透明釉を掛ける。186の胴部に1カ所窪みがある。187は刷毛目による装飾が内外面に施される。188は天目碗である。高台部を除く全面に天目軸を施す。189は轆轤目を残し胴部を押圧する。高台部を除く全面に灰軸を施す。貫入が入る。漆継の痕が顕著である。

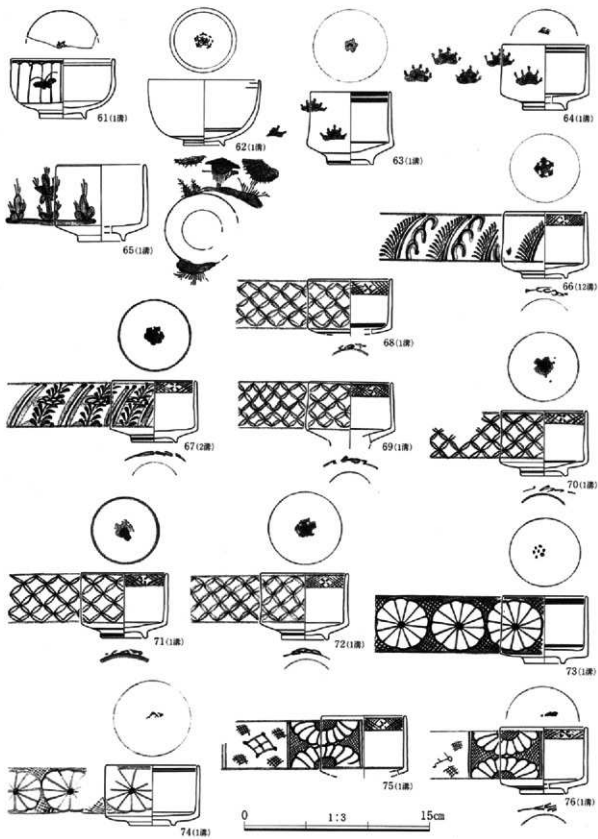
第3章 検出された遺構・遺物



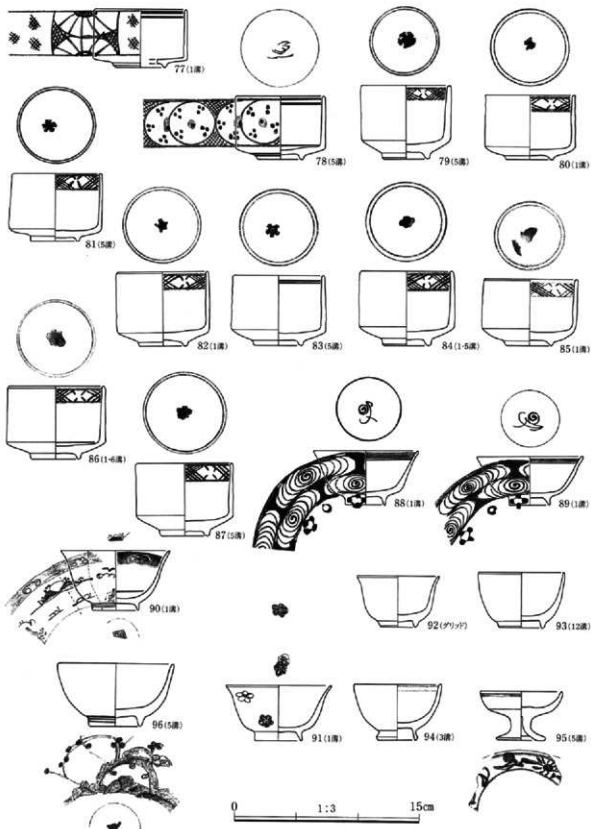
第123図 陶磁器碗実測図(1) (1~39)



第124図 陶磁器碗実測図(2) (40~60)



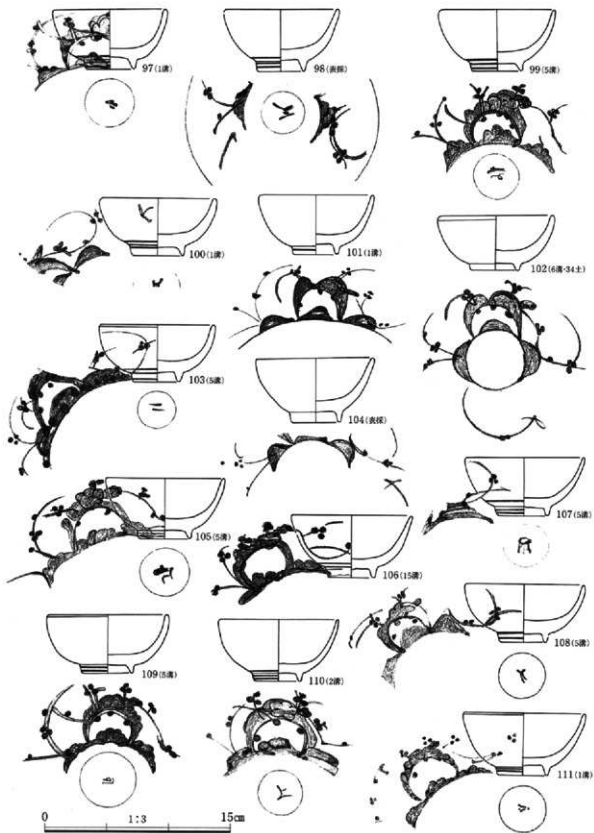
第125図 陶磁器碗実測図(3) (61~76)



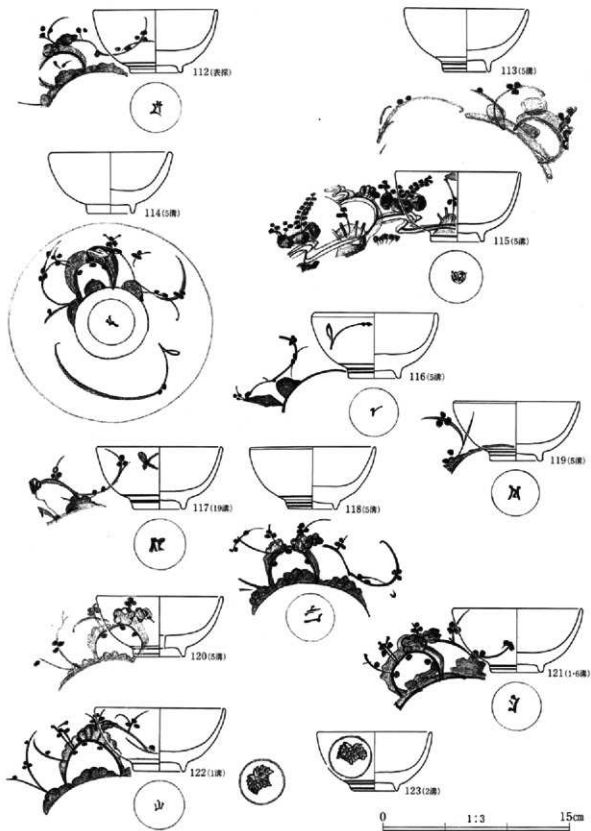
第126図 陶磁器碗実測図(4) (77~96)



第3章 検出された遺構・遺物

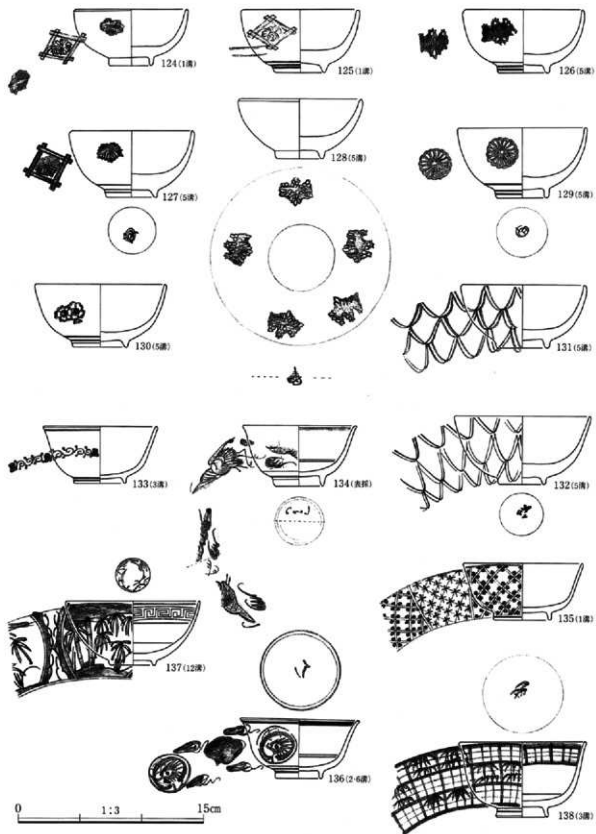


第127図 陶磁器碗実測図(5) (97~111)

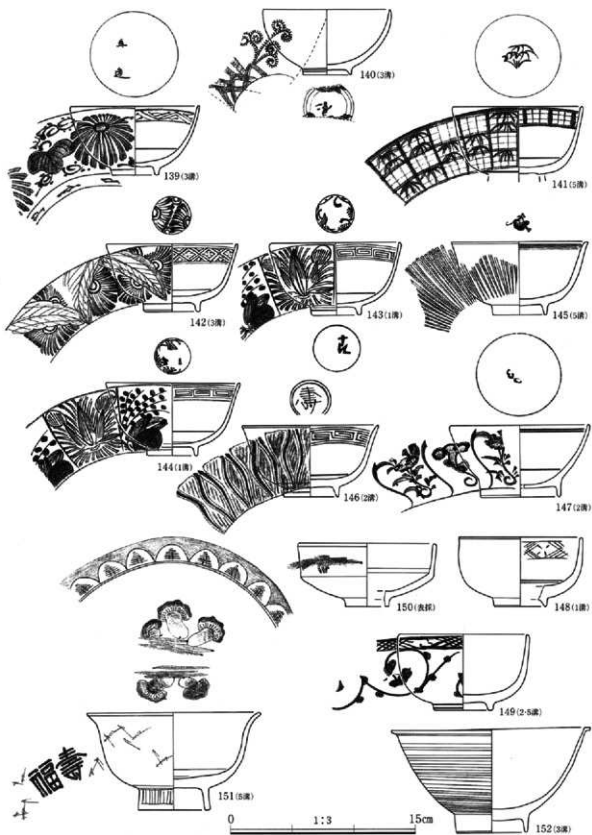


第128図 陶磁器碗実測図(6) (112~123)

第3章 検出された遺構・遺物

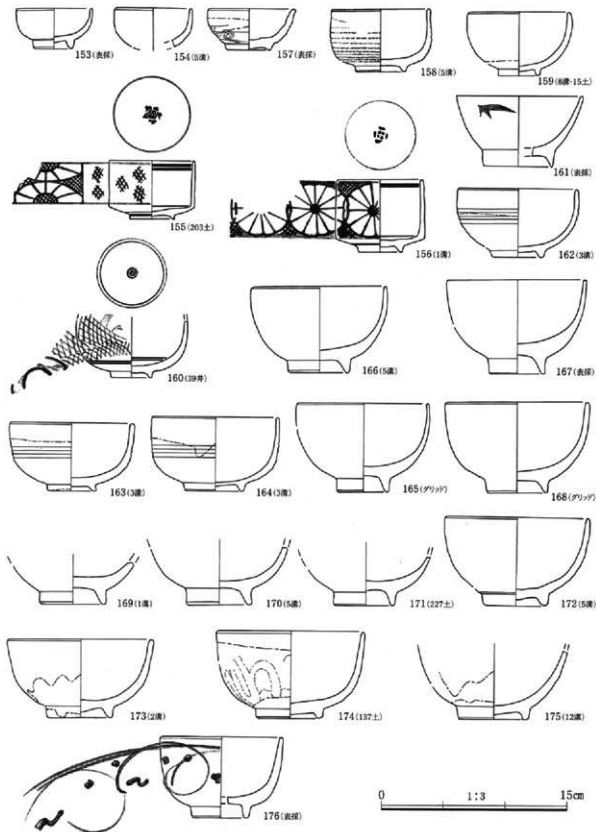


第129図 陶磁器碗実測図(7) (124~138)



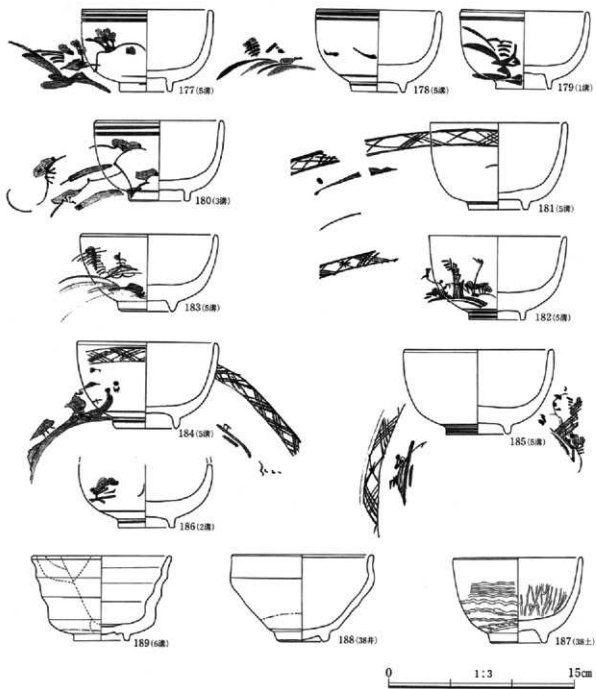
第130図 陶磁器碗実測図(8) (139~152)

第3章 検出された遺構・遺物



第131図 陶磁器碗実測図(9) (153~176)

第5節 中・近世以降の出土遺物



第132図 陶磁器碗実測図(10) (177~189)

第84表 陶磁器縮刷表 (第123~132、口輪4・5・7・8) 見) は見込み、内) は内面、外) は外面、外) は底面の文様を表わす。

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値 (mm)		成形	絵付	軸票	文様	産地	備考
					口径	高さ						
1	203土坑	磁器	小瓶	丸形	64	27	轆轤	染付	透明	見) 使用痕、外) 簡略化した笹文	流佐見系	
2	1溝	磁器	小瓶	丸形	64	23	轆轤	染付	透明	見) 使用痕、外) 簡略化した笹文	流佐見系	
3	1溝	磁器	小瓶	丸形	66	22	轆轤	染付	透明	見) 使用痕、外) 簡略化した笹文	流佐見系	
4	表埴	磁器	小瓶	丸形	66	22	轆轤	染付	透明	見) 使用痕、外) 簡略化した笹文	流佐見系	
5	5溝	磁器	小瓶	丸形	69	26	轆轤	染付	透明	見) 使用痕、外) 簡略化した笹文	流佐見系	
6	5溝	磁器	小瓶	丸形	70	30	轆轤	染付	透明	外) 笹	流佐見系	
7	ドリッド	磁器	小瓶	丸形	70	30	轆轤	染付	透明	外) 笹	流佐見系	
8	1溝	磁器	小瓶	丸形	70	28	轆轤	染付	透明	外) 並置罫	肥前	
9	1溝	磁器	小瓶	丸形	70	27	轆轤	染付	透明	見) 使用痕、外) 簡略化した笹文	流佐見系	文様は一方のみ
10	5溝	磁器	小瓶	丸形	71	30	轆轤	染付	透明	外) 笹	流佐見系	
11	203土坑	磁器	小瓶	丸形	72	28	轆轤	染付	透明	外) 簡略化した笹文	流佐見系	
12	6溝	磁器	小瓶	丸形	73	29	轆轤	染付	透明	外) 笹	流佐見系	笹文の反対側に不明文様
13	101土坑	磁器	小瓶	丸形	73	28	轆轤	染付	透明	外) 不明	流佐見系	
14	1溝	磁器	小瓶	丸形	73	28	轆轤	染付	透明	外) 梅樹文	流佐見系	
15	5溝	磁器	小瓶	丸形	74	36	轆轤	染付	透明	外) 笹	流佐見系	笹文の反対側に不明文様
16	3溝	磁器	小瓶	丸形	75	32	轆轤	染付	透明	外) 井桁	流佐見系	文様は三方に揃文か?
17	1溝	磁器	小瓶	丸形	76	35	轆轤	染付	透明		流佐見系	
18	1溝	磁器	小瓶	丸形	76	28	轆轤	染付	透明	外) 井桁	流佐見系	
19	1溝	磁器	小瓶	丸形	78	39	轆轤	染付	透明	外) 笹	流佐見系	
20	3溝	磁器	小瓶	丸形	78	30	轆轤	染付	透明		流佐見系	

番号	出土位置	器類	分類	形状	直径 (mm)		成形	粘付	釉薬	文様	推定産地	備考
					口径	口径高さ 最大径						
21	5溝	磁器	小碗	丸形	78	30	37	轆轤	染付	外) 藍	波佐見系	焼成不良
22	1溝	磁器	小碗	丸形	78	29	38	轆轤	染付	透明	波佐見系	
23	5溝	磁器	小碗	丸形	79	29	36	轆轤	染付	透明	波佐見系	
24	1溝	磁器	小碗	丸形	80	32	45	轆轤	染付	透明	波佐見系	
25	5溝	磁器	小碗	丸形	80	30	37	轆轤	染付	透明	波佐見系	
26	1溝	磁器	小碗	丸形	80	31	35	轆轤	染付	透明	波佐見系	
27	1溝	磁器	小碗	丸形	80	30	35	轆轤	染付	透明	波佐見系	
28	2溝	磁器	小碗	丸形	80	29	35	轆轤	染付	透明	波佐見系	
29	1溝	磁器	小碗	丸形	80	27	35	轆轤	染付	透明	波佐見系	
30	6溝	磁器	小碗	筒丸形	66	34	47	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃	
31	1溝	磁器	小碗	筒丸形	68	35	49	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃	
32	3溝	磁器	小碗	筒丸形	68	30	53	轆轤	染付	透明	肥前	
33	1溝	磁器	小碗	筒丸形	68	32	49	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃	
34	1溝	磁器	小碗	筒丸形	68	34	44	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃?	
35	12溝	磁器	小碗	筒形	70	30	46	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃?	
36	247土坑	磁器	小碗	広葉形	72	30	50	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃	
37	表採	磁器	小碗	小広葉形	72	34	33	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃	呉須の染色は濃い
38	表採	磁器	小碗	小広葉形	72	26	35	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃	呉須の染色は濃い
39	5溝	磁器	小碗	筒形	74	30	45	轆轤	染付	透明	瀬戸・美濃	
40	203土坑	磁器	小碗	小広葉形	74	30	35	轆轤	染付	透明	波佐見系?	10溝・203土坑併合
41	表採	磁器	小碗	広葉形	76	37	50	轆轤	染付	透明	肥前	



番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値 (mm)		成形	絵付	釉薬	文様	発見産地	備考
					口径	高さ/最大径						
42	1階	磁器	小碗	鉢形	76	36	45	釉薬	透明	(内) 唐語文、外) 丸文山水	肥前	
43	表採	磁器	小碗	広底形	78	40	53	釉薬	透明	外) 牡丹、底) 焼酎時の文字	肥前	焼酎
44	1階	磁器	小碗	小広底形	82	29	41	釉薬	透明	見) 不明、外) 縹團山水	肥前	
45	1階	磁器	小碗	小広底形	84	35	40	釉薬	透明	外) 二重欄目文	波佐見系	
46	5階	磁器	小碗	小広底形	86	36	56	釉薬	透明	外) 二重欄目文	波佐見系	
47	1階	磁器	小碗	腰皿形	61	30	51	釉薬	透明	外) 梅花	波佐見系	
48	3階	磁器	小碗	腰皿形	64	36	50	釉薬	透明	外) 風凰・宝珠・殿) 舟、底) 抽象文	瀬戸・美濃	
49	1階	磁器	小碗	腰皿形	64	32	51	釉薬	透明	外) 風凰・宝珠・殿) 舟、底) 抽象文	瀬戸・美濃	
50	3階	磁器	小碗	腰皿形	66	32	54	釉薬	透明	外) 唐草文	波佐見系	
51	1階	磁器	小碗	腰皿形	66	32	49	釉薬	透明	外) 亀松	不詳	高台部部平皿
52	3階	磁器	小碗	腰皿形	66	28	51	釉薬	透明	外) 丸文十字き	肥前	
53	1階	磁器	小碗	腰皿形	68	31	51	釉薬	透明	外) 唐草文	波佐見系	
54	1階	磁器	小碗	半球形	70	36	54	釉薬	透明	外) 格子文	波佐見系	
55	3階	磁器	小碗	鉢形	72	39	55	釉薬	透明	殿) 舟、底) 抽象文	肥前	
56	1階	磁器	小碗	腰皿形	72	32	51	釉薬	透明		波佐見系	
57	グリップド	磁器	小碗	鉢形	74	38	61	釉薬	透明	外) 口縁部メカシ	瀬戸・美濃	
58	2階	磁器	小碗	半球形	74	37	58	釉薬	透明		瀬戸・美濃?	
59	2階	磁器	小碗	半球形	76	36	58	釉薬	透明		瀬戸・美濃?	
60	表採	磁器	小碗	半球形	82	35	53	釉薬	透明	見) 鶯文	肥前	
61	1階	磁器	小碗	半球形	83	37	49	釉薬	透明	見) 五弁花、外) 蓮子格子文	肥前	
62	1階	磁器	小碗	半球形	90	33	54	釉薬	透明	見) 五弁花、外) 蓮子	肥前	

番号	出土位置	器型	分類	形状	計測値 (mm)			成形	絵付	釉薬	文様	推定産地	備考
					口径	底径	高さ 最大径						
63	1溝	磁器	小碗	半圓形	66	37	60	轆轤	染付	透明	見) 五弁花蒔繪何?、外) 若松文?	肥前	
64	1溝	磁器	小碗	半圓形	70	36	54	轆轤	染付	透明	見) 五弁花蒔繪何? 外) 若松文?	肥前	
65	1溝	磁器	小碗	半圓形	73	38	63	轆轤	染付	透明	外) 若松文	肥前	
66	12溝	磁器	小碗	半圓形	67	37	55	轆轤	染付	透明	見) 五弁花蒔繪何、底) 抽象文	肥前	
67	2溝	磁器	小碗	半圓形	69	37	51	轆轤	染付	透明	見) 五弁花蒔繪何、底) 抽象文	肥前	
68	1溝	磁器	小碗	半圓形	68	-	-	轆轤	染付	透明	内) 緑四方罽、外) 七宝雲文、底) 抽象文	肥前	
69	1溝	磁器	小碗	半圓形	68	-	-	轆轤	染付	透明	内) 緑四方罽、外) 七宝雲文、底) 抽象文	肥前	
70	1溝	磁器	小碗	半圓形	69	38	54	轆轤	染付	透明	内) 緑四方罽、見) 五弁花蒔繪何?、外) 七宝雲文、底) 抽象文	肥前	
71	1溝	磁器	小碗	半圓形	70	39	54	轆轤	染付	透明	内) 緑四方罽、見) 五弁花、外) 七宝雲文、底) 抽象文	肥前	
72	1溝	磁器	小碗	半圓形	71	38	55	轆轤	染付	透明	内) 緑四方罽、見) 五弁花、外) 七宝雲文、底) 抽象文	肥前	
73	1溝	磁器	小碗	半圓形	69	32	56	轆轤	染付	透明	見) 五弁花、外) 菊花文	肥前	
74	1溝	磁器	小碗	半圓形	76	36	59	轆轤	染付	透明	見) 五弁花、外) 菊花文	肥前?	焼成不良
75	1溝	磁器	小碗	半圓形	69	-	-	轆轤	染付	透明	内) 緑四方罽、外) 菊花文	肥前	
76	1溝	磁器	小碗	半圓形	71	38	55	轆轤	染付	透明	内) 緑四方罽、外) 菊花文、底) 抽象文	肥前	
77	1溝	磁器	小碗	半圓形	75	-	48	轆轤	染付	透明	外) 菊花文	肥前	
78	5溝	磁器	小碗	半圓形	72	37	52	轆轤	染付	透明	見) 不明	肥前	
79	5溝	磁器	小碗	半圓形	72	38	61	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方罽、見) 五弁花蒔繪何?	肥前	
80	1溝	磁器	小碗	半圓形	72	38	53	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方罽、見) 五弁花蒔繪何?	肥前	

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値(mm)		成形	胎付	釉薬	文様	指定産地	備考
					口径	底径						
81	5溝	磁器	小碗	半筒形	73	39	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方模、見) 五弁花青磁判?	肥前	
82	1溝	磁器	小碗	半筒形	74	39	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方模、見) 五弁花青磁判?	肥前	
83	5溝	磁器	小碗	半筒形	74	40	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方模、見) 五弁花	肥前	
84	1溝	磁器	小碗	半筒形	75	39	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方模、見) 不明文様	肥前	1溝・5溝接合
85	1溝	磁器	小碗	半筒形	75	38	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方模、見) 不明文様	肥前	
86	1溝	磁器	小碗	半筒形	78	40	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方模、見) 不明文様	肥前	
87	5溝	磁器	小碗	半筒形	78	40	轆轤	青磁染付	透明	内) 緑四方模、見) 不明文様	肥前	1溝・6溝接合
88	1溝	磁器	小碗	端反形	82	32	轆轤	染付	透明	見) 不明、外) 濁文	瀬戸・美濃	
89	1溝	磁器	小碗	端反形	84	32	轆轤	染付	透明	見) 不明、外) 濁文	瀬戸・美濃	
90	1溝	磁器	小碗	端反形	88	37	轆轤	染付	透明	内) 緑渦文、見) 不明、底) 波濤時文字	瀬戸・美濃	焼置
91	1溝	磁器	小碗	端反形	86	38	轆轤	染付	透明	見) 蒸、外) 梅文	瀬戸・美濃?	
92	グリッド	磁器	小碗	筒丸形	66	29	轆轤		透明・埋肉		不詳	外面磨漆軸
93	12溝	磁器	小碗	筒丸形	68	36	轆轤		透明・埋肉		不詳	外面磨漆軸
94	3溝	磁器	小碗		70	30		青磁染付		内) 口縁部内面圓模	不詳	
95	5溝	磁器	仏歯器	台底鉢込	60	40	轆轤	染付	透明		瀬戸・美濃?	中心地風不良、皿部
96	5溝	磁器	中碗	丸形	93	43	轆轤	染付	透明	外) 雪輪梅樹文、底) 不明	波佐見系	
97	1溝	磁器	中碗	丸形	93	42	轆轤	染付	透明	外) 雪輪梅樹文、底) 不明	波佐見系	
98	表採	磁器	中碗	丸形	93	39	轆轤	染付	透明	外) 雪輪梅樹文、底) 不明	波佐見系	
99	5溝	磁器	中碗	丸形	94	42	轆轤	染付	透明	外) 雪輪梅樹文、底) 不明	波佐見系	
100	1溝	磁器	中碗	丸形	94	43	轆轤	染付	透明	外) 雪輪梅樹文、底) 不明	波佐見系	

番号	出土位置	器型	分類	形状	計測値(mm)		成形	紐装	文様	推定産地	備考
					口径	底径 高さ 最大径					
101	1溝	磁器	中碗	丸形	94	38 49	轆轤	染付	外) 雪輪樹文	波佐見系	
102	34土坑	磁器	中碗	丸形	94	40 45	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	6溝・34土坑集合
103	5溝	磁器	中碗	丸形	94	38 47	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
104	表採	磁器	中碗	丸形	95	38 53	轆轤	染付	外) 雪輪樹文	波佐見系	
105	5溝	磁器	中碗	丸形	96	40 50	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
106	15溝	磁器	中碗	丸形	97	38 52	轆轤	染付	外) 雪輪樹文	波佐見系	
107	5溝	磁器	中碗	丸形	97	41 48	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
108	5溝	磁器	中碗	丸形	97	37 48	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
109	5溝	磁器	中碗	丸形	98	42 48	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
110	2溝	磁器	中碗	丸形	98	38 51	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
111	1溝	磁器	中碗	丸形	99	40 51	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	焼成不良
112	表採	磁器	中碗	丸形	100	42 52	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
113	5溝	磁器	中碗	丸形	100	38 52	轆轤	染付	外) 雪輪樹文	波佐見系	
114	5溝	磁器	中碗	丸形	100	38 50	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
115	5溝	磁器	中碗	丸形	101	43 48	轆轤	染付	筋) 酒福?	波佐見系	
116	5溝	磁器	中碗	丸形	102	42 54	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
117	19溝	磁器	中碗	丸形	102	42 52	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
118	5溝	磁器	中碗	丸形	102	42 51	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
119	5溝	磁器	中碗	丸形	102	42 49	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
120	5溝	磁器	中碗	丸形	103	41 50	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	
121	1溝	磁器	中碗	丸形	104	42 53	轆轤	染付	外) 雪輪樹文、筋) 不明	波佐見系	1溝・6溝集合

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値 (mm)		成形	胎付	胎源	文様	産定産地	備考
					口径	高さ						
122	1溝	磁器	中碗	丸形	106	42	52	釉施	透明	外) 雪輪牡丹文、(胎) 不明	渡佐見系	
123	2溝	磁器	中碗	丸形	92	38	49	釉施	透明	外) 海苔羽丸刺文	渡佐見系	
124	1溝	磁器	中碗	丸形	93	36	46	釉施	透明	外) 海苔羽井柵刺文	渡佐見系	
125	1溝	磁器	中碗	丸形	97	42	52	釉施	透明	外) 海苔羽井柵刺文	渡佐見系	
126	5溝	磁器	中碗	丸形	98	42	52	釉施	透明	外) 海苔羽刺文	渡佐見系	
127	5溝	磁器	中碗	丸形	101	41	55	釉施	透明	外) 海苔羽井柵刺文、(胎) 満福	渡佐見系	
128	5溝	磁器	中碗	丸形	101	40	49	釉施	透明	外) 海苔羽刺文	渡佐見系	
129	5溝	磁器	中碗	丸形	104	42	58	釉施	透明	外) 海苔羽刺文、(胎) 尚福	渡佐見系	
130	5溝	磁器	中碗	丸形	105	44	52	釉施	透明	外) 海苔羽	渡佐見系	
131	5溝	磁器	中碗	丸形	101	42	52	釉施	透明	外) 二重罌口文	渡佐見系	
132	5溝	磁器	中碗	丸形	110	38	56	釉施	透明	外) 二重罌口文、(胎) 大明唐草	渡佐見系	
133	3溝	磁器	中碗	碗反形	92	42	48	釉施	透明	外) 唐草罌	肥前?	
134	表採	磁器	中碗	碗反形	92	40	50	釉施	透明	見) 舟、(底) 焼罌時文字	瀬戸・美濃	焼罌
135	1溝	磁器	中碗	碗反形	96	46	47	釉施	透明	外) 市松文	肥前	
136	2溝	磁器	中碗	碗反形	96	38	49	釉施	透明	見) 不明文様	瀬戸・美濃	2溝・6溝接合
137	12溝	磁器	中碗	丸形	98	38	53	釉施	透明	内) 内縁雷文、見) 三友、外) 竹	肥前	
138	3溝	磁器	中碗	碗反形	102	42	62	釉施	透明	内) 縁格子、見) 籠、外) 格子文様	肥前	
139	3溝	磁器	中碗	丸形	104	38	57	釉施	透明	内) 縁四方罌、見) □□年造	瀬戸・美濃	
140	3溝	磁器	中碗	丸形	104	39	54	釉施	透明	外) 蜻蛉草、(底) 焼罌時文字	肥前	焼罌、黒色を呈する
141	5溝	磁器	中碗	碗反形	105	-	-	釉施	透明	内) 縁格子、見) 籠、外) 格子文様	肥前	
142	3溝	磁器	中碗	碗反形	106	45	56	釉施	透明	内) 縁四方罌、見) 不明	肥前	

番号	出土位置	器型	分類	形状	計測値(mm)		成形	絵付	釉薬	文様	推定産地	備考
					口径	高さ・最大径						
143	1階	磁器	中碗	菊瓦形	107	40	60	染付	透明	内) 母語文、見) 三友、(底) 焼印時文字	肥前	焼漚
144	1階	磁器	中碗	菊瓦形	108	41	60	染付	透明	内) 母語文、見) 三友	肥前	
145	5階	磁器	中碗	菊瓦形	110	44	60	染付	透明	見) 不明、外) 兼耀手	瀬戸・美濃	
146	2階	磁器	中碗	菊瓦形	111	44	59	染付	透明	内) 母語文、見) 寿	肥前	
147	2階	磁器	中碗	瓜笠形	112	64	59	染付	透明	見) 不明、外) 唐草	肥前	
148	1階	磁器	中碗	腰皿形	100	47	58	青磁染付	青磁・透明	内) 母語文、外) 唐草	肥前	
149	2階	磁器	中碗	腰皿形	106	48	63	染付	透明	外) 四方梅花唐草	流佐見系	2階・5階統合
150	表棟	磁器	中碗	腰皿形	110	36	52	鉄絵	透明	外) 兼小松	京・信楽系	
151	5階	磁器	大碗	菊瓦形	140	58	80	染付	透明	内) 母草、見) 唐松葉、外) 福寿松葉	肥前	謎嗎?
152	3階	磁器	大碗	菊瓦形	159	57	85	染付	透明	外) 北風、口紅	肥前	謎嗎、内成目紙3ヶ所
153	表棟	陶器	小碗	丸形	62	32	33		灰釉		瀬戸・美濃	高台皿以下無釉
154	5階	陶器	小碗	丸形	63	-	-		灰釉		瀬戸・美濃	高台皿以下無釉
155	203土坑	陶器	小碗	半筒形	69	36	48	染付	透明	見) 梅花文、外) 菊花文	瀬戸・美濃	
156	1階	陶器	小碗	半筒形	70	36	60	染付	透明	見) 不明文様、外) 菊花文	瀬戸・美濃	
157	表棟	陶器	小碗	丸形	72	37	34		灰釉		瀬戸・美濃	高台皿? * 目目紙、外) 口縁部以下無釉
158	5階	陶器	小碗	腰皿形	80	43	52	鉄・灰釉	外) 顔手		瀬戸・(美濃)	内) 口縁部無釉、口縁部以下~高台内灰釉? を多く施す。部分
159	15土坑	陶器	小碗	丸形	84	34	52		天目釉		瀬戸・美濃	8階・15土坑統合
160	39井戸	陶器	中碗	菊瓦形	-	33	-	染付	透明	見) 込	瀬戸・美濃	
161	表棟	陶器	中碗	瓜笠形	102	56	58	染付	透明	外) 兼	瀬戸・美濃	
162	3階	陶器	中碗	腰皿形	98	42	57	鉄・灰釉	外) 胴部沈線		瀬戸・美濃	腰筋線、胴~高台内筋
163	3階	陶器	中碗	腰皿形	100	40	56	鉄・灰釉	外) 胴部沈線		瀬戸・美濃	腰筋線、胴~高台内筋

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値(mm)		成形	結付	釉薬	文様	推定産地	備考
					口径	底径 高さ 最大径						
164	3溝	陶器	中碗	腰臺形	102	48 61	釉焼		灰・灰釉	外) 割部辻線	瀬戸・美濃	腰筒碗、胴～高台内筋
165	グリップ	陶器	中碗	貝器形	104	42 73	釉焼		灰釉		肥前	貝器手碗、京焼風
166	5溝	陶器	中碗	貝器形	109	50 71	釉焼		灰釉		肥前	貝器手碗、京焼風
167	表採	陶器	中碗	貝器形	113	44 77	釉焼		灰釉		肥前	貝器手碗、京焼風
168	グリップ	陶器	中碗	貝器形	116	49 74	釉焼		灰釉		肥前	貝器手碗、京焼風
169	1溝	陶器	中碗	貝器形	-	54 -	釉焼		灰釉		肥前	貝器手碗、京焼風
170	5溝	陶器	中碗	貝器形	-	49 -	釉焼		灰釉		肥前	貝器手碗、京焼風
171	227土坑	陶器	中碗	貝器形	-	58 -	釉焼		灰釉		肥前	貝器手碗、京焼風
172	5溝	陶器	中碗	腰臺形	117	52 73	釉焼		鉛釉	口縁部濁灰釉		尾呂茶碗、高台皿以下無釉
173	2溝	陶器	中碗	腰臺形	118	53 65	釉焼		鉛釉	口縁部濁灰釉		尾呂茶碗、高台皿以下無釉
174	137土坑	陶器	中碗	腰臺形	119	54 72	釉焼		鉛釉	口縁部濁灰釉		尾呂茶碗、高台皿以下無釉
175	12溝	陶器	中碗	腰臺形	-	56 -	釉焼		鉛釉	口縁部濁灰釉		尾呂茶碗、高台皿以下無釉
176	表採	陶器	中碗	腰臺形	100	46 66	釉焼	陶胎染付	透明	外) 花唐草	肥前	
177	5溝	陶器	中碗	腰臺形	102	48 68	釉焼	陶胎染付	透明		肥前	
178	5溝	陶器	中碗	腰臺形	102	49 68	釉焼	陶胎染付	透明		肥前	
179	1溝	陶器	中碗	腰臺形	104	(45) 64	釉焼	陶胎染付	透明	外) 芦辺風鈴	肥前	
180	3溝	陶器	中碗	腰臺形	104	49 67	釉焼	陶胎染付	透明		肥前	
181	5溝	陶器	中碗	腰臺形	110	48 72	釉焼	陶胎染付	透明	外) 四方華花唐草	肥前	
182	5溝	陶器	中碗	腰臺形	110	45 69	釉焼	陶胎染付	透明	外) 四方唐竹	肥前	
183	5溝	陶器	中碗	腰臺形	112	46 63	釉焼	陶胎染付	透明	外) 山水	肥前	
184	5溝	陶器	中碗	腰臺形	114	54 72	釉焼	陶胎染付	透明	外) 四方唐竹辺風鈴	肥前	

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値 (mm)			成形	絵付	釉薬	文様	推定産地	備考
					口径	底径	高さ						
185	5溝	陶器	中碗	腰張形	121	52	70	轆轤	陶胎染付	透明	外) 四方唐竹	肥前	
186	2溝	陶器	腰張形		-	46	-	轆轤	陶胎染付	透明		肥前	胴部→ヶ所にくはみあり
187	38土坑	陶器	中碗	兵器形	104	43	71	轆轤	白泥	透明	内) 黒で隅毛目、外) 網毛目	肥前	高台無釉
188	38井戸	陶器	中碗	天目形	114	42	72	117		天目釉		不詳	漆黒。貫入あり。高台無釉
189	6溝	陶器	中碗	轆轤形	103	46	70	轆轤		灰釉			

第85表 陶磁器重量観察表 (第133～137図、口径5・6・7)

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値 (mm)			成形	絵付	釉薬	文様	推定産地	備考
					口径	底径	高さ						
190	3溝	磁器	紅皿	菊花形	46	14	13	型打		白磁		肥前	外口無釉
191	3溝	磁器	紅皿	菊花形	47	14	14	型打		白磁		肥前	外口無釉
192	1溝	磁器	紅皿	丸形底珠	60	27	20	轆轤	染付	透明	外) 紫	肥前	
193	グリップド	磁器	小皿	花菱形	78	46	21	型打	染付	透明	内) 黒威摺り、外) 折松葉	肥前	型による焼文後兵損を入れる
194	表様	磁器	小皿	方形	80	36	23	型打	染付	透明		肥前?	
195	3溝	磁器	小皿	丸形	92	49	23	轆轤	染付	透明	内) 龍亀松竹梅、外) 梅、龍) 寿	肥前	
196	2溝	磁器	小皿	丸形	100	48	22	轆轤	染付	透明	内) 海浜風景	肥前	
197	表様	磁器	小皿	丸形	102	52	21	轆轤	染付	透明	内) 海浜風景	肥前	
198	2溝	磁器	小皿	輪花6	120	54	25	型打	染付	透明	内) 海浜風景、外) 波舟	肥前	
199	1溝	磁器	小皿	丸形	126	51	32	轆轤		透明		浪佐見系	蛇の目輪洞き
200	グリップド	磁器	小皿	丸形	128	70	31	轆轤	染付	透明	内) 松葉	浪佐見系	蛇の目輪洞き
201	12溝	磁器	小皿	丸形	128	62	26	轆轤		灰釉		瀬戸・美濃	高台部スス付着。高台部以下無釉
202	55土坑	磁器	小皿	輪花28	137	58	30	型打		透明	口紅	肥前	蛇の目凹割高台、菊皿

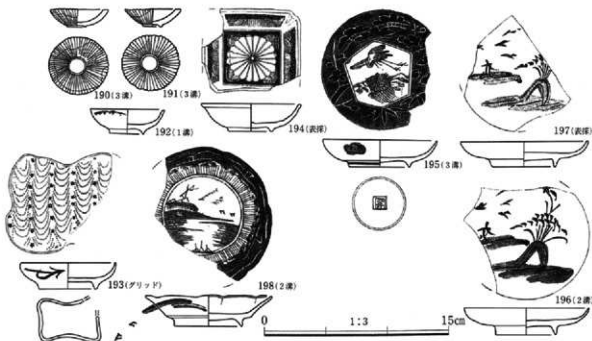


②皿 (第133～137図、口絵5・6・7)

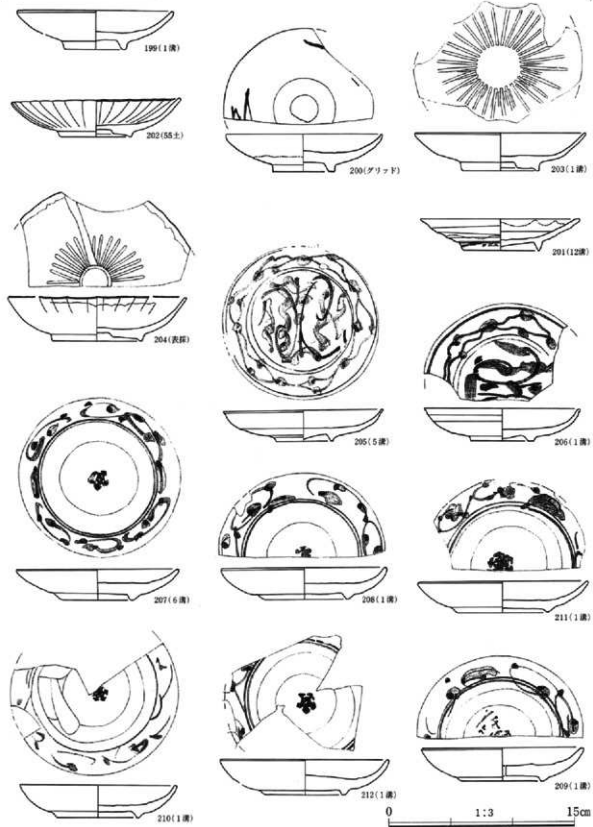
出土遺構・掲載量は、1号溝17点、2号溝4点、3号溝3点、5号溝5点、6号溝1点、15号溝1点、12号溝2点、1号・5号・17号井戸各1点、21号・55号土坑各1点、グリッド3点、表探6点の計47点である。内の2点に接合関係がある。214の5溝と6溝、234の1溝と6溝ともに近接する溝である。

皿は、口径より2寸以下を極小皿、3～5寸を小皿、6～8寸を中皿、9寸前後を大皿とした。190～227は磁器、228～236は陶器である。190～192は紅皿である。ともに製作地は肥前である。190・191は菊花形で外面無軸である。193～218は小皿である。製作地は201が瀬戸・美濃、193～198・202～204は肥前、199・200・205～220は波佐見系である。193・194・198・202～204は型打で、他は轆轤成形である。193は型紙摺りである。194は型による施文後具須を入れている。195の裏底に二重角に寿字銘がある。198・202～204は口縁に輪花装飾を施す。202～204はさらに口紅装飾を施した蛇の目凹型高台の菊皿である。199・200は見込み蛇の目ハギの小皿である。201の高台部に煤が付着していた。205～218は染付唐草文小皿「くらわんか手」と呼ばれるもので、207～218の見込みの五弁花はコンニャク印判で染付され、蛇の目軸ハギとなっている。219～227は中皿である。製作地は、219・220・224は波佐見系、221・225・226は肥前(志田)222・223・227は肥前である。219・220・224は口縁に輪花装飾を施し、裏底に二重角に満福字銘がある。224の高台内には焼き継時の「イナニ」の文字がある。221～223は蛇の目凹型高台で、222・223の裏底に角福扇の銘がある。225は口縁に輪花装飾を施す。226・227の裏底にハリ支え跡がある。226の高台内に焼き継時の記号がある。

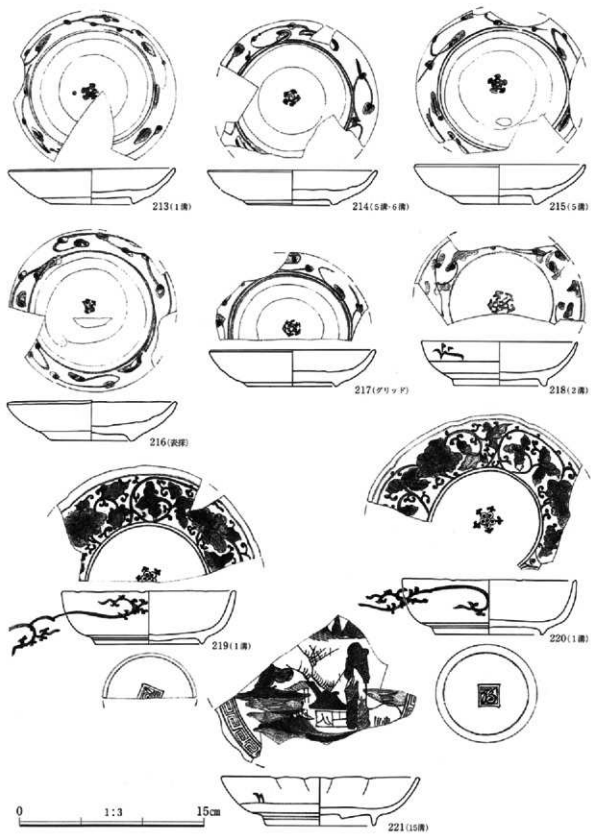
228～233は小皿で232の肥前(内野山)のはかは瀬戸・美濃の製作である。231は鉄絵皿で高台内と見込みに3ヶ所の重ね積みの目痕がある。232は青緑釉見込み蛇の目軸ハギ小皿である。234・235は中皿である。234は所瀬御深井軸摺磁皿である。236は瀬戸・美濃の馬の目皿である。内面に6点の重ね積みの目痕がある。



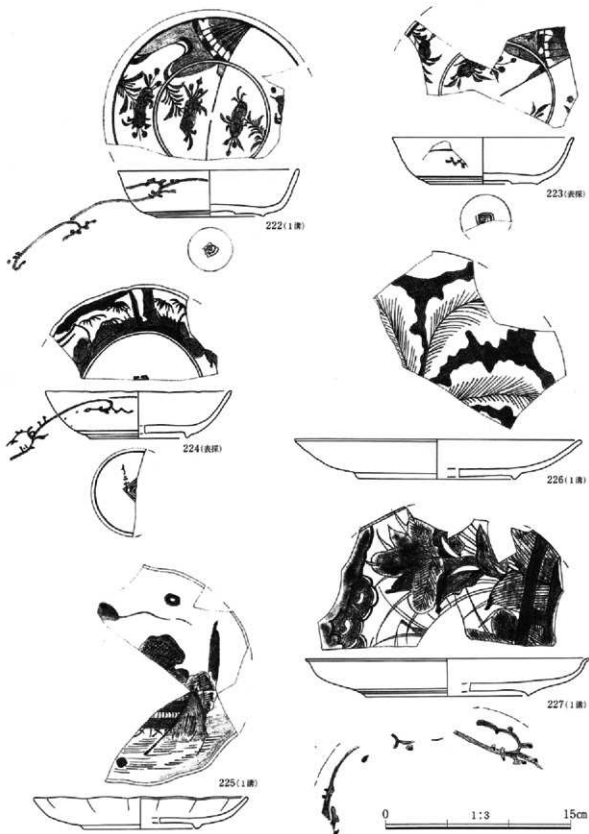
第133図 陶磁器皿実測図(1) (190～198)



第134図 陶磁器皿実測図(2) (199~212)

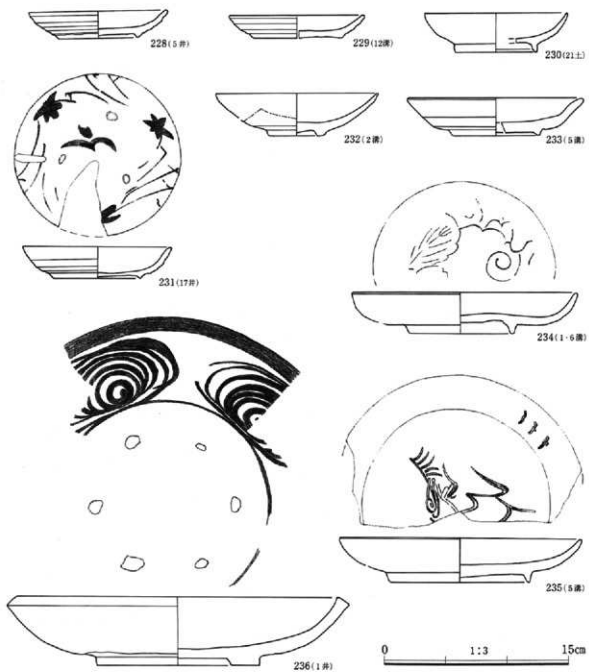


第135図 陶磁器皿実測図(3) (213~221)



第136図 陶磁器皿実測図(4) (222~227)

第3章 検出された遺構・遺物



第137図 陶磁器皿実測図(5) (228~236)

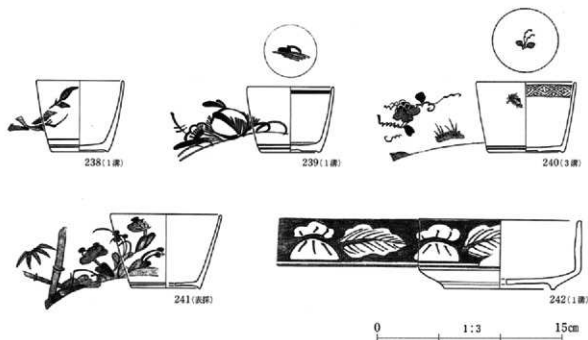
番号	出土位置	器型	分類	形状	計測値 (mm)		成形	胎付	釉薬	文様	産地	備考
					口径	高さ 最大径						
203	1階	磁器	小皿	輪花28	138	62	31	透明	口紅		肥前	蛇の目凹形高台、菊皿
204	表棟	磁器	小皿	輪花	144	73	36	透明	口紅		肥前	菊形型打、蛇の目凹形高台、菊皿
205	5階	磁器	小皿	丸形	128	47	25	透明	内) 扇唐草		流佐見系	
206	1階	磁器	小皿	丸形	124	50	26	透明	内) 扇唐草		流佐見系	
207	6階	磁器	小皿	丸形	131	58	26	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き
208	1階	磁器	小皿	丸形	133	70	26	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き・高麗菊小さい
209	1階	磁器	小皿	丸形	130	68	27	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き
210	1階	磁器	小皿	丸形	126	66	27	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	見込み輪ハナ
211	1階	磁器	小皿	丸形	136	74	26	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き
212	1階	磁器	小皿	丸形	136	67	29	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き
213	1階	磁器	小皿	丸形	135	68	29	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き・高麗菊小さい
214	5階	磁器	小皿	丸形	137	71	29	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き・5溝・6溝接合
215	5階	磁器	小皿	丸形	138	63	33	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き
216	表棟	磁器	小皿	丸形	136	69	32	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き・高麗菊小さい
217	グランド	磁器	小皿	丸形	134	73	30	透明	内) 扇唐草、見) 高麗菊五弁花		流佐見系	蛇の目輪調き
218	2階	磁器	小皿	丸形	126	74	36	透明	見) 高麗菊五弁花、外) 唐草		流佐見系	
219	1階	磁器	中皿	丸形	140	86	44	透明	内) 牡丹・唐草、見) 五弁花、外) 唐草、筋) 二重角湯櫃		流佐見系	口縁部輪花
220	1階	磁器	中皿	丸形	140	86	45	透明	内) 牡丹・唐草、見) 五弁花、外) 唐草、筋) 二重角湯櫃		流佐見系	口縁部輪花
221	15階	磁器	中皿	丸形	144	86	45	透明	内) 口縁部唐文帯・山水文		肥前(志田)	蛇の目凹形高台
222	1階	磁器	中皿	丸形	146	85	38	透明	内) 草花、外) 唐草、筋) 角湯福箱		肥前	蛇の目凹形高台

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値(mm)		成形	絵付	軸差	文様	推定産地	備考
					口径	底径						
223	表様	磁器	中皿	丸形	146	86	轆轤	染付	透明	内) 草花、外) 唐草、鉄) 角透福助	肥前	底の目形高台
224	表様	磁器	中皿	輪花	150	78	轆轤	染付	透明	内) 竹、見) 探勝五弁花、 外) 唐草、鉄) 二重角透福。高台内底 翻時の「イニナ」文字	波佐見系	口縁輪花
225	1溝	磁器	中皿	輪花	172	93	轆轤	染付	透明	内) 山水	肥前(志田)	
226	1溝	磁器	中皿	菊反形	231	126	轆轤	染付	透明	内) 草花、高台内底翻時記号有	肥前(志田?)	ハリ支え。焼継
227	1溝	磁器	中皿	菊反形	228	131	轆轤	染付	透明	内) 草花、外) 唐草	肥前	ハリ支え
228	5井戸	陶器	小皿	丸皿	112	64	轆轤		不明		瀬戸・美濃	高台内無軸
229	12溝	陶器	小皿	丸皿	112	72	轆轤		緑軸		瀬戸・美濃	銅緑軸にムラが多い
230	21上坑	陶器	小皿	丸形	116	66	轆轤		灰軸	内) 不明(鉄須輪小)	瀬戸・美濃	高台内面のみ無軸
231	17井戸	陶器	小皿	丸形	120	70	轆轤	鉄絵	長石軸	内) 草花、見) 目紙3ヶ所、 高台内目紙3ヶ所	瀬戸・美濃	
232	2溝	陶器	小皿	丸形	131	46	轆轤		青緑軸		肥前(内野山)	見込み底の目軸酒盃
233	5溝	陶器	小皿	桃形	142	71	轆轤		長石軸		瀬戸・美濃	
234	1溝	陶器	中皿		182	84	轆轤	鉄絵	灰軸		瀬戸・美濃	型紙用、所謂御深井、高台内マ で製作。1溝・6溝型合
235	5溝	陶器	中皿		196	114	轆轤	鉄絵	灰軸		瀬戸・美濃	高台内無軸
236	1井戸	陶器	大皿		275	131	轆轤	鉄絵	白泥透明	内) 草の目、見) 目紙6、口縁、高台 端部「ルシ」墨書	瀬戸・美濃	

## ③鉢類 (第138～141図、口絵7・8・P.L. 41)

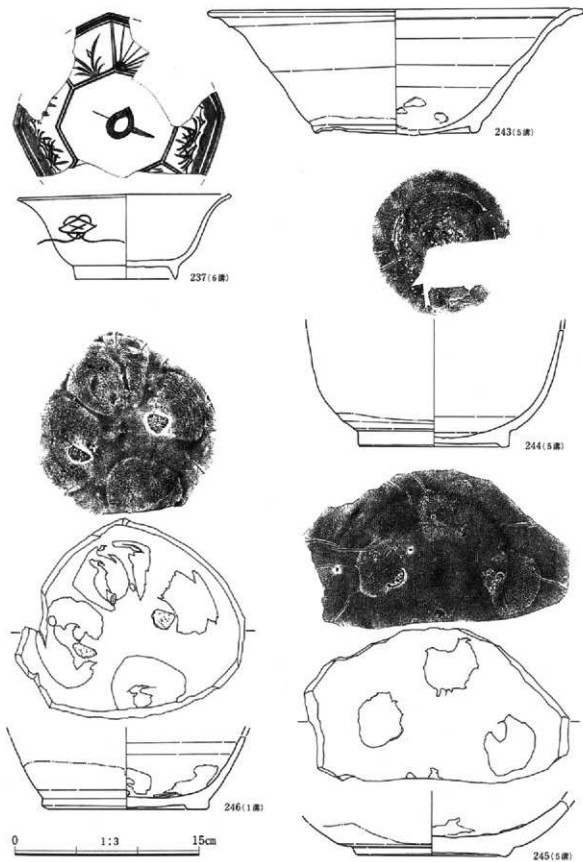
出土遺構・掲載量は、1号溝7点、3号溝2点、5号溝6点、6号溝1点、5号・20号井戸各1点、227土坑1点、表探2点の計21点である。鉢は口径により小鉢(5寸未満)、中鉢(5寸～6寸)、大鉢(9寸前後)とし、さらに猪口、段重、香炉、練り鉢、片口、火鉢、播鉢と分類した。237～242は磁器、243～257は陶器である。237は中鉢である。製作地は肥前である。器形は八角形を呈し、蛇の目凹型高台である。238～241は猪口である。製作地は238・240が肥前、239が瀬戸・美濃である。高台の形状は238・241が腰輪高台、239・240が蛇の目凹型高台である。241の高台内に圈線がある。242は浅い盤形の鉢が2段以上積み重なる鉢で段重とした。製作地は肥前である。口縁端部内面が無軸である。

243・244は大鉢である。243は轆轤目を残し胴部を押圧する。244の内面に錆軸が施軸される。245・246は練鉢である。製作地は瀬戸・美濃である。高台脇以下は無軸であり、見込みに重ね積みの目痕が4箇所ある。247～250は片口である。製作地は4点とも瀬戸・美濃である。構造は250は不明であるが、他の3点は口縁に切り込んで片口が付くものである。247は筒型を呈し鉄軸が施軸される。なお、口縁部外面から体部外面及び口縁端部は無軸である。248は高台脇以外に灰軸が施軸される。見込みに重ね積みの目痕が3ヶ所ある。250は輪高台で高台脇以外に灰軸を施軸する。見込みに目痕が5箇所ある。251・252は浅めの筒型容器で、内面無軸のもので香炉とした。製作地は251は肥前、252は瀬戸・美濃である。251は蛇の目凹型高台で、口縁は口寄である。252は三足を有する鉛軸香炉である。胴部に沈線が多数彫り込まれている。見込みに重ね積みの目痕が2ヶ所残っている。253は瀬戸・美濃の緑軸飯拵である。内面口縁部下に錆軸が粗く塗られている。また口縁端部の軸は摩滅し胎土が露出している。254～257は播鉢である。254は在地系の軟質陶器、中世の所産と考えられる。内面の使用は著しく、すり目は浅くなっている。底部はなく意図的に欠いた可能性が高い。255は瀬戸・美濃の錆軸播鉢である。口縁は無装飾で、口縁部は一度折れる。見込みの駒目は環状に閉じている。256・257の製作地は堺・明石である。内面の突帯は鋭く、器壁は粗い。

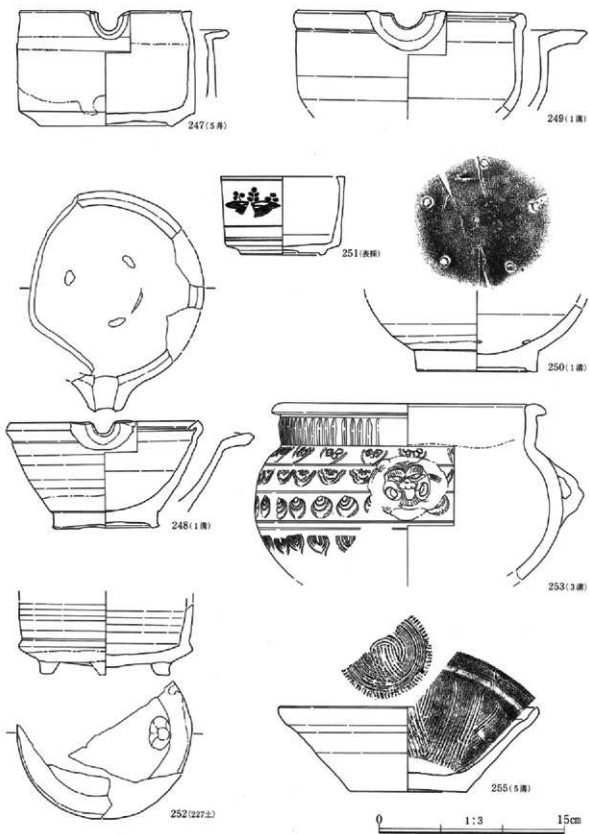


第138図 陶磁器猪口・鉢類実測図(238～242)

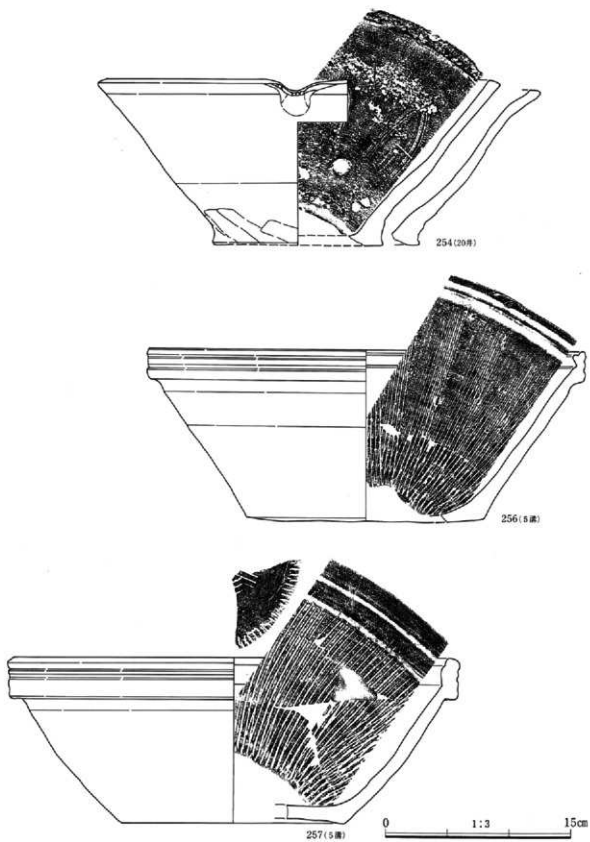




第139図 陶磁器鉢・鉢鉢実測図(237~246)



第140図 陶磁器片口・香炉・火鉢実測図(247~255)



第141図 陶磁器撞鉢実測図(254・256・257)

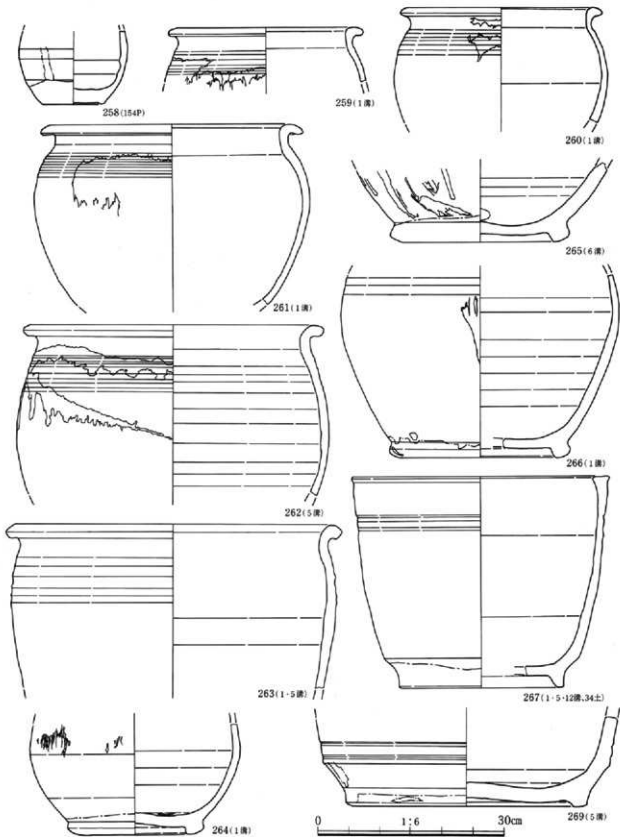
第86表 陶磁器・猪口・段重・練鉢・片口・香炉・種鉢類群表(第138~141、口絵7・8 P.L.41)

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値(mm)		成形	胎付	軸差	文様	推定産地	備考
					口径	底径						
237	6溝	磁器	中鉢			172	80	70			肥前	蛇の目四角高台、八角形
238	1溝	磁器	猪口	楕形		70	45	59	胎付	外) 双槌	肥前	腰輪高台
239	1溝	磁器	猪口	楕形		70	48	54	胎付	見) 鷲、外) 草	瀬戸・美濃	蛇の目四角高台
240	3溝	磁器	猪口	楕形		80	62	58	胎付	内) 練四方棒、外) 花織	肥前	蛇の目四角高台
241	表採	磁器	猪口	楕形		90	56	61	胎付	高台内刷文	肥前	腰輪高台
242	1溝	磁器	段重	腰折形		130	88	-	胎付	外) 蕪	肥前	口縁端部内面無軸
243	5溝	陶器	大鉢	浅丸彫小高台		302	132	103	胎付		肥前	内面筋軸
244	5溝	陶器	大鉢	浅丸彫小高台		-	120	-	胎付		瀬戸・美濃	高台胎以下無軸
245	5溝	陶器	練鉢			-	124	-	胎付	見) 目取3ヶ所	瀬戸・美濃	高台胎以下無軸
246	1溝	陶器	練鉢			-	135	-	胎付	見) 目取3ヶ所	瀬戸・美濃	高台胎以下無軸
247	5井戸	陶器	片口	口縁切込注口、 半筒形		138	107	95	胎付		瀬戸・美濃	高台胎以下無軸
248	1溝	陶器	片口	口縁切込注口、 平形		160	87	87	胎付	見) 目取3ヶ所	瀬戸・美濃	口縁部外面から体部外面無軸、 口縁端部無軸
249	1溝	陶器	片口	口縁切込注口、 平形		185	-	81	胎付		瀬戸・美濃	高台胎以下無軸
250	1溝	陶器	片口鉢	胴部丸形、 幅高台		-	97	-	胎付	見) 目取5ヶ所	瀬戸・美濃	高台胎無軸
251	表採	陶器	香炉、 火入丸	半筒形、 平筒形		100	68	65	胎付	外) 側	肥前	蛇の目四角高台、内面口縁部下 無軸
252	227土坑	陶器	香炉	半筒形、三足		-	(140)	(58)	胎付	見) 目取2ヶ所残る、外) 花織	瀬戸・美濃	内面筋軸、底部外面無軸
253	3溝	陶器	火鉢	楕形		220	-	-	胎付	外) 面練軸、外) 花文、獅子揃み	瀬戸・美濃	口縁部胎部減し粘土垂出する、 外面筋軸、内面口縁部下無軸 を組む世

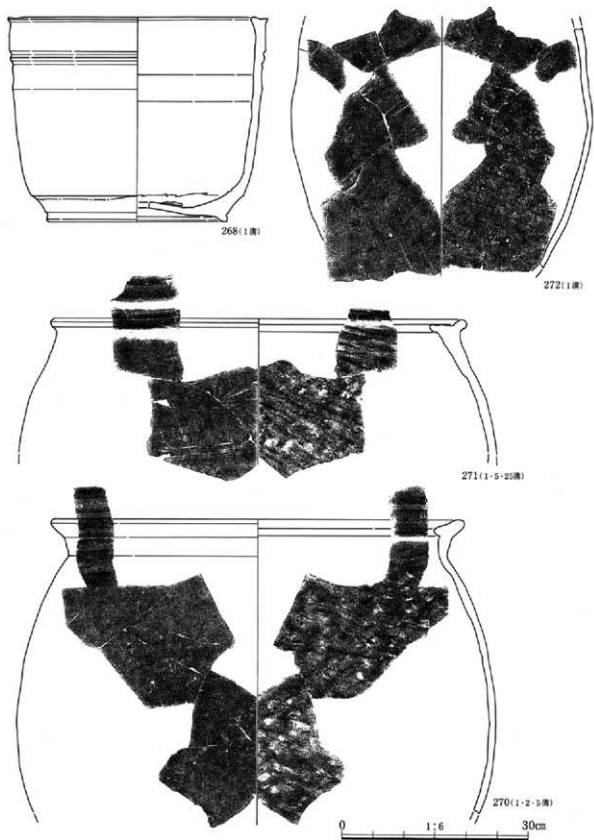
番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値(mm)		成形	絵付	軸数	文様	推定産地	備考
					口径	底径						
254	20井戸	陶器	楕鉢		321	136			軟質陶器		在地系	内面使用著しい。すり目あり、底部は差別的に欠けている可能性高い
255	5溝	陶器	楕鉢		210	94			楕軸		瀬戸・美濃	
256	5溝	陶器	楕鉢		350	190					堺・明石	内面の美濃藍い、器壁滑り。無軸
257	5溝	陶器	楕鉢		360	180	轆轤				堺・明石	無軸

第87表 陶器・美濃器表(第142・143図 PL.41・42)

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値(mm)		成形	絵付	軸数	文様	推定産地	備考
					口径	底径						
258	154ビ>ト	陶器	小差?	割丸形	-	50	-	87			瀬戸・美濃	内面轆轤目立
259	1溝	陶器	中差	割丸形	(156)	-	(52)		鉄軸	見) 目取、外) 仄軸流し	瀬戸・美濃	
260	1溝	陶器	中差	割丸形	(160)	-	(85)		鉄軸	外) 仄軸流し	瀬戸・美濃	
261	1溝	陶器	中差	割丸形	(210)	-	(147)		鉄軸	外) 仄軸流し	瀬戸・美濃	
262	5溝	陶器	中差	割丸形	(240)	-	(138)	紐作り	鉄軸	外) 仄軸流し	瀬戸・美濃	流し掛け
263	1溝	陶器	中差	割丸形	(270)	-	(135)		鉄軸		瀬戸・美濃	1溝・5溝接合
264	1溝	陶器	中差	割丸形	-	110	(90)		鉄軸	見) 目取(4ヶ所、外) 仄軸流し	瀬戸・美濃	高台盤以下無軸
265	6溝	陶器	中差	割部丸形・輪高台	-	142	(65)		鉄軸	見) 目取(4ヶ所)	瀬戸・美濃	高台盤以下無軸
266	1溝	陶器	中差	割丸形	-	(145)	(149)		鉄軸	見) 目取有、外) 黒軸流し	瀬戸・美濃	
267	34土坑	陶器	中差	半割形	(206)	(132)	172		鉄軸		瀬戸・美濃	高台盤以下無軸。 1溝・5溝・12溝・34土坑接合
268	1溝	陶器	中差	半割形	(208)	(145)	167	紐作り	鉄軸	見) 目取有	瀬戸・美濃	高台盤以下無軸
269	5溝	陶器	中差	半割形	-	(192)	(74)	紐作り	鉄軸		瀬戸・美濃	高台盤以下の軸を拭い取る



第142図 陶器実測図(1) (258~267・269)



第143図 陶器実測図(2) (268・270~272)

## ④甕 (第142・143図、P.L. 41・42)

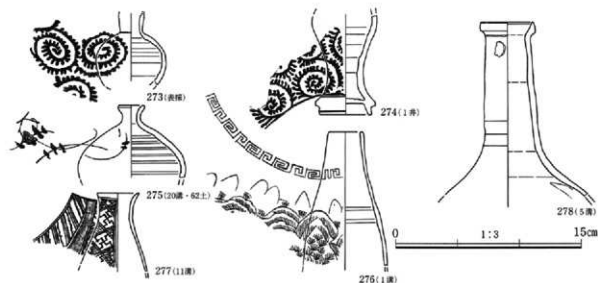
出土遺構・掲載量は、1号溝10点、5号溝2点、6号溝1点、34号土坑1点、154号ピット1点で、263は1号溝と5号溝で接合、267は1号・5号・12号溝と34号土坑で接合、270は1号・2号・5号溝で接合、271は1号・5号・25号溝で接合する。掲載数は15点である。

甕は大きさにより小甕（手軽に運搬できる）、中甕（原則として置いておく貯蔵用）、大甕（動かすことのない）に分類した。全て陶器であり、成形は258が轆轤のほかは紐作りである。製作地は258～269の小・中甕は瀬戸・美濃で、270～272の大甕は常滑である。258は内面全面と外面上半のみ鉄軸が施されている。その上に部分的に黒軸を流し掛けている。内面の轆轤痕が目立つ。259～266は高台を有し、胴部が丸く張り出し、頸部がいったんしまった後、口縁が外に捻り返しになる。高台部を除き全面に柿軸を施し、その上に部分的に鉄軸を流し掛ける。なお、266は黒軸流しである。底部片の264・265には見込みに4点の重ね積みの目痕がある。267～268は高台を有し、胴部が僅かに開きながら立ち上がる半胴甕である。高台部脇以下を除き全面に鉄軸を施す。269の高台脇以下の軸は拭き取られている。268の見込みに目痕がある。

## ⑤徳利 (第144・145図、口絵7・P.L. 41・42)

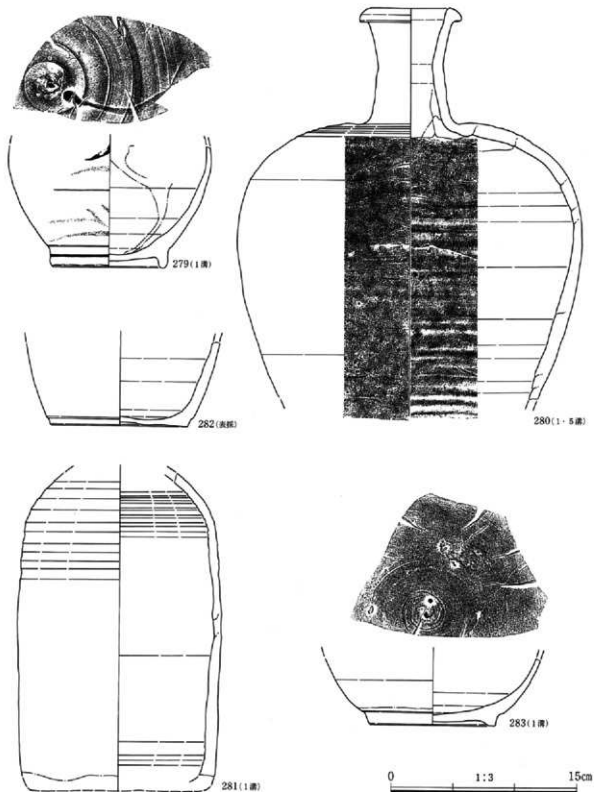
出土遺構・掲載量は、1号溝5点、5号溝2点、11号溝1点、1号井戸1点、62号土坑1点、一括2点である。なお、275は20号溝と62号土坑の接合、280は1号溝と5号溝の接合である。掲載数は12点である。

瓶は、容量・用途により分類する。小瓶（1合未満）、中瓶（1合～8合未満）、大瓶（8合以上）、髪油壺（胴径に比べて器高が低く、頸が非常に短い小瓶）、神酒徳利、燗徳利、徳利と分類した。273～279は磁器である。280～283は陶器である。製作地は273～277が肥前、278・279が波佐見系、281～283が瀬戸・美濃、280は不明である。273・274は神酒徳利である。273の胴部下は球状に近い膨らみを持つ。274は瓶子型の輪高台である。275は胴部が丸く張り、首が短い。276・277は燗徳利である。薄手で縦に細長い。278は首の長い徳利である。頸部内面まで掛け軸される。279は胴部は丸く張っている。281は柿軸の施された徳利である。282の底部外面は軸を拭き取っている。



第144図 陶磁器徳利実測図(1) (273～278)





第145図 陶磁器徳利実測図(2) (279~283)

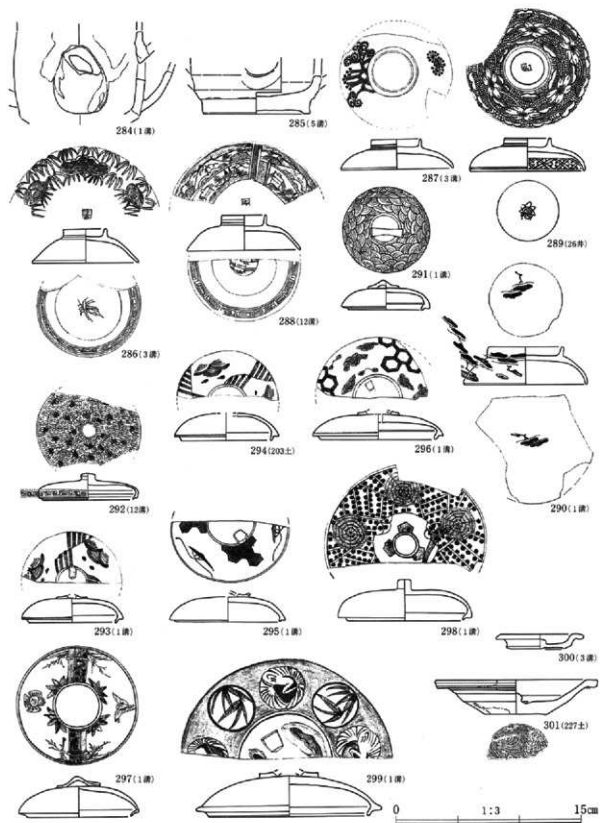
番号	出土位置	器型	分類	形状	計測値 (mm)		成形	釉薬	文様	推定産地	備考
					口径	底径					
270	1溝	陶器	大甕	口縁断面7字形	-	(480)	紐作り	無釉		常滑	1溝・2溝・5溝接合
271	1溝	陶器	大甕	口縁断面7字形	-	(220)	紐作り	無釉		常滑	1溝・5溝・25溝接合
272	1溝	陶器	大甕		-	(368)	紐作り	無釉		常滑	

第88表 陶磁器 徳利陳列表 (第144・145 口絵7 PL.41・42)

番号	出土位置	器型	分類	形状	計測値 (mm)		成形	釉薬	文様	推定産地	備考
					口径	底径					
273	表探	磁器	清酒徳利	胴丸形、無首	-	56	轆轤	透明	外) 胡唐草	肥前	
274	1井戸	磁器	清酒徳利	胴丸形、輪高合	-	82	轆轤	透明	外) 胡唐草	肥前	
275	62上杭	磁器	薬油甌	胴丸形、有首	22	-	86	透明	外) 磨	肥前	20溝・62上杭接合
276	1溝	磁器	徳利		28	-	(112)	透明	外) 雷文・山水	肥前	文様は茶摺による
277	11溝	磁器	徳利		34	-	(60)	透明		肥前	
278	5溝	磁器	徳利	胴首逆無影	42	-	(146)	透明		波佐見系	胴部内面まで釉掛かる
279	1溝	磁器	徳利	胴首逆無影	-	94	(100) 162	透明	外) 不明文様染付	波佐見系	内面無釉
280	1溝	陶器	徳利	胴首逆無影	82	-	(32) 276	鉄泥		不詳	1溝・5溝接合
281	1溝	陶器	徳利		-	(155) (266)		特釉	内面釉が薄く、筋轆風	瀬戸・美濃	
282	表探	陶器	徳利	半胴形	-	110	(69)	無釉		瀬戸・美濃	底部外面の釉を拭い取り
283	1溝	陶器	徳利		-	100	(55)	轆轤		瀬戸・美濃	内面、高白釉無釉

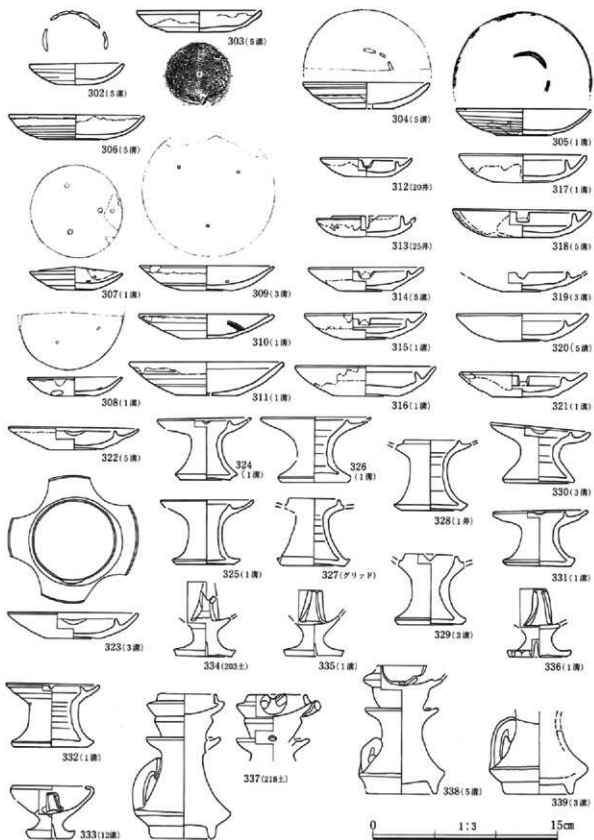
第89表 陶磁器水差・蓋観察表(第146図、口絵7・8)

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値(mm)		成形	胎付	釉薬	文様	産地	備考
					口径	底径						
284	1溝	陶器	水差	筒形	-	-	輪轆		灰釉	外) 襷部施流し	瀬戸・美濃	内面無釉
285	5溝	陶器	水差	筒形	-	86	(40)		灰釉	外) 襷部施流し	瀬戸・美濃	注口下部残る。把手下部欠損。 内面・高台縁以下無釉
286	3溝	磁器	瓶蓋	碗反	86	35	28			鉄) 不明	肥前	
287	3溝	磁器	瓶蓋		91	40	25				肥前	
288	12溝	磁器	瓶蓋	碗反	92	36	29			鉄) 不明	肥前	
289	25井戸	磁器	湯区銅蓋		93	38	27			鉄) 不明	瀬戸・美濃	
290	1溝	磁器	瓶蓋	広縁碗	100	60	31			外) 松	肥前	貫入あり
291	1溝	磁器	重蓋		71	25	24			外) 背海放	肥前	
292	12溝	磁器	重蓋		80	12	22	72		外) 雷文帯	肥前	
293	1溝	磁器	重蓋		82	-	-	70			肥前	
294	203土坑	磁器	重蓋		84	-	-	73			肥前	
295	1溝	磁器	重蓋		93	-	-	83			肥前	
296	1溝	磁器	重蓋		95	-	-	93			肥前	
297	1溝	磁器	重蓋		96	35	33	83		外) 竹・雀	肥前	
298	1溝	磁器	重蓋		107	11	34	92			肥前	
299	1溝	磁器	重蓋		150	-	-	134			肥前	
300	3溝	陶器	瓶蓋		70	10	12	43	鉄粉着色		瀬戸・美濃	天井部内面無釉
301	227土坑	陶器	瓶蓋		130	9	28	50			瀬戸・美濃	天井部外面無釉



第146図 陶磁器水差・蓋丈測図(284~301)

第3章 検出された遺構・遺物



第147図 陶磁器灯明皿・灯明受皿・乗燭実測図(302~339)

第90表 陶磁器 灯明皿・灯明受皿・乗燭觀察表 (147図 口絵6)

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値 (mm)			成形	釉付	釉薬	文様	産定産地	備考
					口径	底径	高さ						
302	5溝	陶器	灯明皿	平形	76	31	17	轆轤		錆	見) 重燒	瀬戸・美濃	底部後、口縁部外面以下輪を拭う
303	5溝	陶器	灯明皿	平形	100	52	18	轆轤		錆		北戸呂	口縁部油多く付着。底部回転糸切整
304	5溝	陶器	灯明皿	平形	101	45	22	轆轤		錆	見) 重燒	瀬戸・美濃	
305	1溝	陶器	灯明皿	平形	108	44	21	轆轤		錆	見) 重燒	瀬戸・美濃	口縁部油付着。底部外面の輪を拭う
306	5溝	陶器	灯明皿	平形	109	50	20	轆轤		錆	見) 重燒	瀬戸・美濃	口縁部油付着
307	1溝	陶器	灯明皿	平形	75	31	19	轆轤		灰輪	目録3ヶ所	京・信楽系	
308	1溝	陶器	灯明皿	平形	76	31	16	轆轤		灰輪	目録3ヶ所	京・信楽系	口縁スス付着
309	3溝	陶器	灯明皿	平形	108	40	20	轆轤		灰輪	目録3ヶ所	京・信楽系	
310	1溝	陶器	灯明皿	平形	109	40	20	轆轤		灰輪	見) 4本一単位の樽目	京・信楽系	
311	1溝	陶器	灯明皿	平形	125	50	27	轆轤		灰輪		京・信楽系	口縁部油付着。外面口縁部下無輪
312	20井戸	陶器	灯明受皿	油溝切立状	74	34	15	48	轆轤	錆輪		瀬戸・美濃	外面口縁部以下の輪を拭う
313	25井戸	陶器	灯明受皿	油溝切立状	79	36	16	56	轆轤	錆輪		瀬戸・美濃	外面口縁部以下の輪を拭う
314	5溝	陶器	灯明受皿	油溝切立状	93	42	19	65	轆轤	錆輪		瀬戸・美濃	外面口縁部以下の輪を拭う
315	1溝	陶器	灯明受皿	油溝切立状	98	41	21	68	轆轤	錆輪		瀬戸・美濃	外面口縁部以下の輪を拭う
316	1溝	陶器	灯明受皿	油溝	100	47	21	70	轆轤	錆輪		瀬戸・美濃	外面口縁部以下の輪を拭う
317	1溝	陶器	灯明受皿	油溝	102	48	22	70	轆轤	錆輪		瀬戸・美濃	外面口縁部以下の輪を拭う
318	5溝	陶器	灯明受皿	油溝切立状	112	48	22	82	轆轤	錆輪		瀬戸・美濃	外面口縁部以下の輪を拭う
319	3溝	陶器	灯明受皿	油溝	-	34	-	72	轆轤	灰輪		京・信楽系	口縁部外面以下無輪
320	5溝	陶器	灯明受皿	油溝	106	40	22	68	轆轤	灰輪		京・信楽系	口縁部外面以下無輪

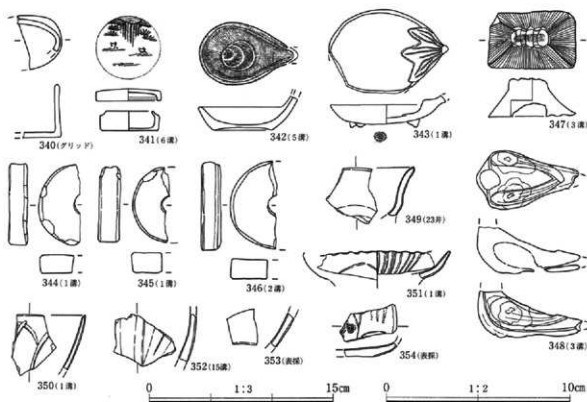
番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値 (mm)			軸部	文様	産地	備考
					口径	底径	高さ/最大径				
322	5溝	陶器 灯明受皿	油清半月状	油清半月状	105	42	18	64	甌	京・信楽系	口縁部外面以下無軸
323	3溝	陶器 灯明受皿	油清半月状	油清半月状	106	43	21	68	甌	京・信楽系	口縁部外面以下無軸
324	1溝	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	-	40	-	36	甌	不詳	右面転糸切無調整
325	1溝	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	76	46	52	36	甌	不詳	
326	1溝	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	-	53	53	50	甌	不詳	右面転糸切無調整
327	グリッド	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	-	49	-	43	甌	不詳	
328	1井戸	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	-	51	55		甌	不詳	右面転糸切無調整、焼成不良
329	3溝	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	-	52	-	42	甌	不詳	
330	3溝	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	80	55	46		甌	不詳	
331	1溝	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	76	50	44	40	甌	不詳	
332	1溝	陶器 灯明受皿	容器付、立鼓形	容器付、立鼓形	76	56	52	44	甌	不詳	右面転糸切無調整
333	12溝	陶器 乗機	台付たんころ形	台付たんころ形	54	33	43	68	甌	瀬戸・美濃	底部轉孔
334	203土坑	陶器 乗機	台付たんころ形	台付たんころ形	-	45	-		鉄軸	瀬戸・美濃?	底部轉孔
335	1溝	陶器 乗機	台付たんころ形	台付たんころ形	-	46	75		鉄軸	瀬戸・美濃	底部轉孔
336	1溝	陶器 乗機	台付たんころ形	台付たんころ形	-	70	-		鉄軸	瀬戸・美濃	底部轉孔
337	218土坑	陶器 乗機	手付瓶形	手付瓶形	43	48	118	74	鉄軸	不詳	油受け部の穿孔1ヶ所
338	5溝	陶器 乗機	手付瓶形	手付瓶形	49	57	105	67	鉄軸	不詳	油受け部の穿孔1ヶ所
339	3溝	陶器 乗機	手付瓶形	手付瓶形	-	57	-		鉄軸	不詳	内部油流る

第91表 陶磁器 小物類他観察表 (第148図、口絵6・8)

番号	出土位置	器類	分類	形状	計測値 (mm)			成形	結付	釉薬	文様	着定産地	備考
					口径	底径	高さ						
340	グリップド	陶器	髷水入れ	底楕円形	-	-	43	練造り			外) 外面鉄絵	瀬戸・美濃	
341	6溝	磁器	合子蓋		51	52	15	轆轤	染付	透明	外) 襷・船	肥前	やや焼成不良。貫入入る
341	6溝	磁器	合子身		45	-	16	轆轤		透明		肥前	やや焼成不良。底部外面無釉
342	5溝	磁器	数蓮華		-	49	-	押し型	青磁			不詳	底部外面無釉
343	1溝	陶器	蓮華置き	茄子	97	-	27				吉見押印	不詳	酸化茶。内面は白土掛け
344	1溝	陶器	戸車	車形	-	150	340	轆轤		灰釉		瀬戸・美濃	使用により釉摩滅
345	1溝	陶器	戸車	車形	-	170	300	轆轤		灰釉		瀬戸・美濃	使用により釉摩滅
346	2溝	陶器	戸車	車形	-	160	360	轆轤		灰釉		瀬戸・美濃	使用により釉摩滅
347	3溝	土製	酒屋道具	瓊	48	31	21	型押し 貼付	土師質	透明		不詳	黒根のみ、轆部分白土掛けの後 緑を塗る
348	3溝	土製	鳩笛		56	33	26	上下型 合せ	土師質	透明		不詳	中空、羽根部分に黒緑と白土で 花草状の紋様
349	23并戸	磁器			-	-	-	轆轤	青磁			中国製	口縁-体部片
350	1溝	磁器			-	-	-	轆轤	青磁			中国製	口縁片
351	1溝	磁器			117	-	22	轆轤	青磁			中国製	口縁-体部片
352	15溝	磁器	皿		-	-	-	轆轤	青磁			中国製	体部破片
353	表採	磁器			-	-	-	轆轤	青磁			中国製	体部破片
354	表採	磁器			-	-	-	轆轤	青磁			中国製	底部片



### 第3章 検出された遺構・遺物



第148図 陶磁器小物類他実測図(340~354)

#### ⑥水差・蓋 (第146図、口絵7・8)

水差の出土遺構・掲載量は1号溝・5号溝各1点ずつである。製作地はともに瀬戸・美濃の陶器である。織部写しで、緑釉を流し掛ける。

蓋の出土遺構・掲載量は、1号溝8点、3号溝3点、12号溝2点、26号井戸・203号土坑・227土坑各1点、計16点である。製作地は289・300・301が瀬戸・美濃で他は肥前である。286~299は磁器、300・301は陶器である。

#### ⑦灯明皿・灯明受皿・乗場 (第147図、口絵6)

302~311は灯明皿、312~332は灯明受皿、333~339は乗場である。出土遺構・掲載量は灯明皿は、1号溝5点、3号溝1点、5号溝4点、計10点である。灯明皿は全て陶器である。製作地302・304~306は瀬戸・美濃、303は志戸呂、307~311は京・信楽系である。見込みには重ね積み痕がついている。302・304~306には環状痕、307~309には三足ハマ痕がつく。310には4本一単位のクシ目がついている。灯明皿から垂れる油を受ける容器を灯明受皿と分類した。出土遺構は、1号溝9点、3号溝4点、5号溝4点、1号・20号・25号井戸各1点、グリッド1点の計21点である。製作地は312~318は瀬戸・美濃、319~323は京・信楽系、324~332は不明である。灯明受皿には、312~323の皿、324~332の容器付きがある。

333~339は油を溜める部分と火を点する部分を有する灯火具を乗場として分類した。出土遺構は1号溝2点、3号・5号溝・12号溝各1点、203号・218号土坑各1点計7点である。製作地は、333~336は瀬戸・美濃、337~339は不明である。乗場には、333~336のように容器の中央に芯立をつけるタイプと、337~339のように容器の口縁のヶ所に芯立をつけるタイプがある

## ⑧小物類他 (第148図、口絵6・8)

出土遺構・掲載量は1号溝5点、3号溝・6号溝各2点、2号溝・5号溝・15号溝各1点、23号井戸1点、グリッド1点、表採2点の計16点である。鬢水入れ。340。陶器製、製作地は瀬戸・美濃である。平面形は細長い楕円形を呈し、高台はない。外面に鉄絵の部分が見られる。

合子。341。身と蓋が6号溝から一括出土した。磁器、肥前製作である。身と蓋の大きさはほぼ同じ大きさで、きれいに合わさる。器形は口縁蓋受けの浅い円筒形を呈する。

運筆。342。磁器。製作地不明である。5号溝から出土した。

運筆置き。343。陶器。製作地不明。1号溝から出土した。裏底に「吉見」の押印がある。

戸車。344～346。陶器。製作地は瀬戸・美濃である。344・345は1号溝、346は2号溝から出土した。円盤型で中央に丸い穴が開けられている。3点とも1/2の残存である。

土製品。347、348。2点とも3号溝出土。347は箱庭道具の庵の屋根である。348は土笛の鳩笛である。

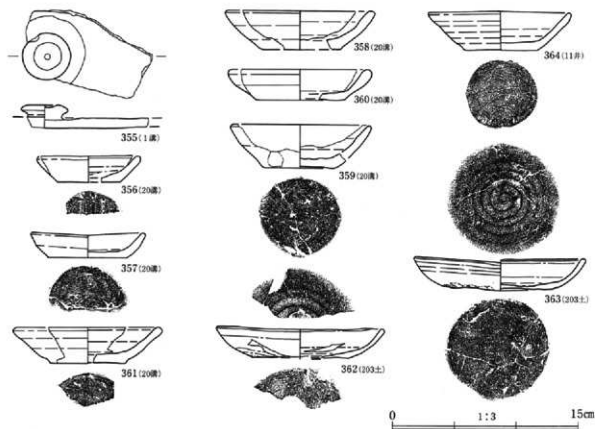
中国製磁器。349～354は龍泉窯系青磁である。349～351は口縁部片、354は底部片である。

## 2. 土器

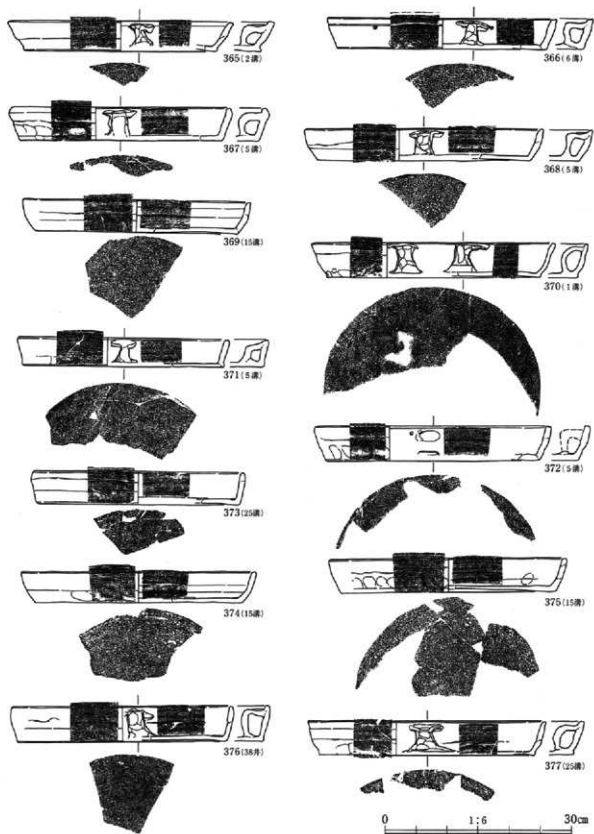
本遺跡から出土した近世関連の土器は蓋・皿・楕烙である。

## ①蓋・皿 (第149図、P.L.42)

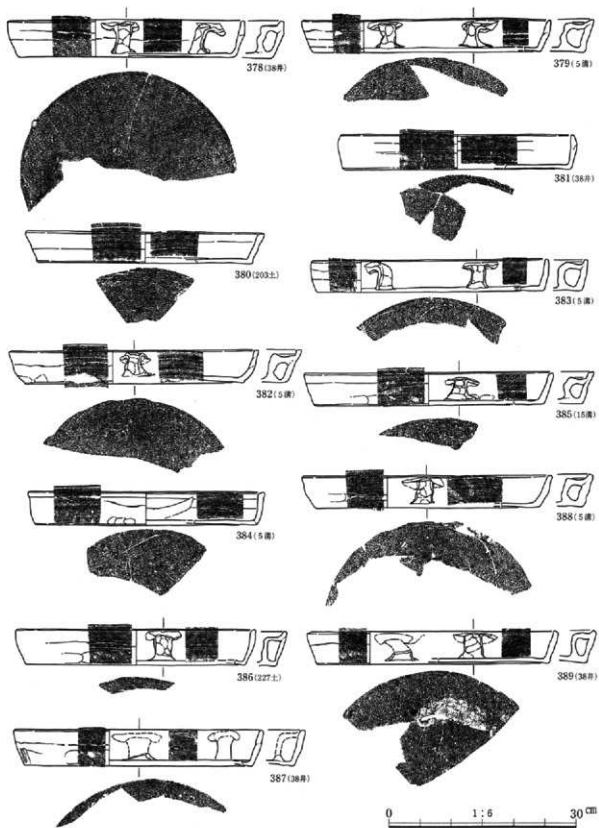
掲載した蓋は、1号溝1点である。火消し蓋と考えられる。底の平たい楕烙をさかさまに伏せて、中央に径3.8cmの円盤型の挿みをつける。



第149図 近世土器実測図(355～364)

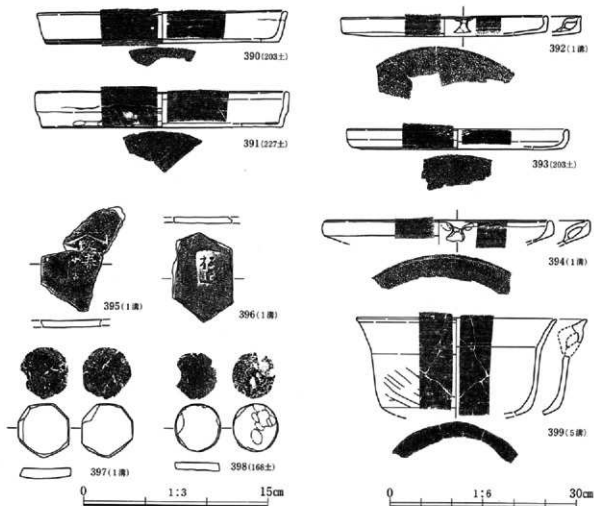


第150図 焙烙実測図(1) (365~377)



第151図 焙烙実測図(2) (378~389)

第3章 検出された遺構・遺物



第152図 焙烙実測図(3) (390~399)

第92表 近世土器観察表 (第149図 PL.42)

番号	出土位置	器形	計測値 (cm)			成形	色調	製作地	製作年代	備考
			口径	底径	器高					
355	1溝	壺	106	-	41	轆轤調整	鈍い黄緑 10YR7/3	在地系	江戸	天井は在地系焙烙底部と同様の作りで内面に平滑な面で、積みとの接合部周辺が積み足付時の面かで窪む。積みは左回転轆轤整形で上面が窪む。残) 積み、天井中央の一部残。
356	20溝	皿	(84)	(50)	36	轆轤調整	橙 5YR6/6	在地系	中世か	底部回転糸切り、台の板面あり。見込みに面でつけ痕。残) 口縁部~底部外縁1/4残。
357	20溝	皿	(93)	(62)	21+	轆轤調整	鈍い藍 5YR7/4	在地系	江戸	底部左回転糸切り後、外縁面でか。見込み中央と外縁が面により窪む。残) 口縁部7/8、体部3/4欠。
358	20溝	皿	(111)	-	32	轆轤調整	鈍い藍 5YR7/4	在地系	江戸	見込み外縁が面により窪む。残) 口縁部~底部外縁1/8残。
359	20溝	皿	(112)	58	45	轆轤調整	橙 5YR7/6	在地系	江戸	底部左回転糸切り後、外縁面でか。見込み中央と外縁が面により窪む。残) 口縁部7/8、体部3/4欠。
360	20溝	皿	(116)	(72)	25	轆轤調整	明赤褐 5YR5/8	在地系	江戸	底部左回転糸切り無調整。内外体部破面。見込み面。残) 1/5残。
361	20溝	皿	(120)	(60)	30	轆轤調整	鈍い橙 5YR6/4	在地系	江戸	底部回転糸切り後、面。見込み外縁と外面体部最下位が面により凹線状に窪む。残) 口縁部~体部1/8、底部1/4残。

## 第5節 中・近世以降の出土遺物

番号	出土位置	器形	計測値 (mm)			成形	色調	製作地	製作年代	備考
			口径	底径	器高					
362	203土	皿	(136)	(76)	23	轆轤調整	黄褐色 10YR5/6	在地系	江戸	外面 轆轤成形後口縁部横撫で、体部下位を中心の一部口縁部まで縦方向撫で、底部左回転糸切り痕撫で。内面 見込みに左回転轆轤成形痕を残し、口縁部～底部外縁横撫で。残) 口縁部～体部上半1/8欠。
363	203土	皿	136	81	25+	轆轤調整	黄褐色 10YR5/6	在地系	江戸	外面 轆轤成形後口縁部横撫で、体部下位を中心の一部口縁部まで縦方向撫で、底部左回転糸切り痕撫で。内面 見込みに左回転轆轤成形痕を残し、口縁部～底部外縁横撫で。残) 口縁部～体部上半1/8欠。
364	17井	皿	114	58	32	轆轤調整	鈍い褐色 7.5YR6/3	在地系	江戸	轆轤整形、底部左回転糸切り未調整。残) 口縁部1/8欠。

第93表 培塔観察表(第150～152図 PL.42・43)

番号	出土位置	器形	計測値 (mm)			成形	色調	製作地	製作年代	備考
			口径	底径	器高					
365	2溝	有耳・深め	360	308	49	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。体部外面中位紐作り痕残す
366	6溝	有耳・深め	364	334	50	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕。体部外面中位紐作り痕
367	5溝	有耳・深め	357	320	54	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。体部外面中位紐作り痕残す。外面保付着
368	5溝	有耳・深め	380	337	52	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。体部外面中位紐作り痕残す
369	15溝	耳不明・深め	374	320	52	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に紐作り痕
370	1溝	有耳・深め	380	340	56	型作り後、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。横し地成
371	5溝	有耳・深め	340	324	46	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。体部外面中位紐作り痕残す。器高や低い
372	5溝	有耳・深め	376	340	56	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	底部焼きによる鈍い褐色。6溝12溝重合。体部外面下位型作り痕。体部外面中位紐作り痕。補修孔一対あり
373	25溝	耳不明・深め	340	324	53	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に紐作り痕
374	15溝	耳不明・深め	374	330	50	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	内外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に紐作り痕
375	15溝	耳不明・深め	379	340	54	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕ほとんど整形する
376	38井	有耳・深め	354	330	57	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に紐作り痕
377	25溝	有耳・深め	378	342	55	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に紐作り痕
378	38井	有耳・深め	378	340	60	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位内外面に紐作り痕
379	5溝	有耳・深め	397	360	54	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。体部外面中位紐作り痕残す。体部内面中位ゆるい段を施す
380	203土	耳不明・深め	380	344	50	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面の成形痕が丁寧にナゲ消す
381	38井	耳不明・深め	370	360	57	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に紐作り痕
382	5溝	有耳・深め	400	348	55	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。体部外面中位紐作り痕残す
383	5溝	有耳・深め	380	362	52	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。体部外面中位紐作り痕残す。体部外面保付着
384	5溝	耳不明・深め	376	353	54	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕をわずかに残す。口縁端部外反する
385	15溝	有耳・深め	400	364	53	型作り、轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に紐作り痕

### 第3章 検出された遺構・遺物

番号	出土位置	器形	計測値 (mm)			成形	色調	製作地	製作年代	備考
			口径	底径	器高					
386	227土	有耳・深め	392	396	57	型作り、 轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕。体部外面中位継作り痕
387	38井	有耳・深め	398	370	58	型作り、 轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に継作り痕
388	5溝	有耳・深め	400	357	53	型作り、 轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕残す。体部外面中位継作り痕残す
389	38井	有耳・深め	400	370	52	型作り、 轆轤調整		在地系	江戸	外面スス付着。体部外面下位成形痕。中位に継作り痕
390	203土	耳不明・深め	400	372	50	型作り、 轆轤調整		在地系	江戸	補修孔1ヶ所残る。体部外面成形痕ナア消す
391	227土	耳不明・深め	404	380	58	型作り、 轆轤調整		在地系	江戸	体部外面下位型作り痕。体部外面中位継作り痕
392	1溝	有耳・浅め・胴丸形	330	326	33	型作り、 轆轤調整		在地系	幕末～近代	丸底気味。体部と底部の境明確。体部外面係付着
393	203土	耳不明・浅め・胴丸形	352	334	33	型作り、 轆轤調整		在地系	幕末～近代	丸底。外面の底部と体部境は明確
394	1溝	有耳・浅め・胴丸形	370	-	38	型作り、 轆轤調整		不詳	近・現代	丸底。体部外面係付着。底部外面縁線凹線の上に凹む
395	1溝	底部片	-	-	-	型作り後、 轆轤調整		在地系	近・現代	底部内面に刷印。酸化炭焼成。丸底か
396	1溝	底部片	-	-	-	型作り後、 轆轤調整		在地系	近・現代	底部内面に刷印。酸化炭焼成
397	1溝	円盤状	径41	厚8	重さ 16.6g	型作り後、 轆轤調整	鈍い緑 7.5YR7/4	在地系	近・現代	焙烙底面を円形に欠き磨く
398	168土	円盤状	径36	厚6.5	重さ 9.7g	型作り後、 轆轤調整	鈍い緑 7.5YR6/4	在地系	近・現代	焙烙底面を円形に欠き磨く
399	5溝	膝折形・有耳・深い	320	-	160	轆轤・貼付		在地系	中世	外面すす付着。丸底

掲載した皿は、20号溝から6点、203号土坑2点、11号井戸1点、計9点である。平形の無高台の皿である。

#### ②焙烙・内耳鍋 (第150～152図、P.L.42・43)

出土遺構・掲載量は、1号溝6点、2号溝1点、5号溝10点、6号溝1点、15号溝4点、25号溝2点、38号井戸5点、168号土坑1点、203号土坑3点、227号土坑2点の計35点である。焙烙の形状として内面三方に耳があるタイプと、耳のないタイプ、胴部一ヶ所に把手の付くタイプがある。本遺跡のタイプは耳のあるタイプと、耳のないタイプがみられるが、耳のない焙烙は本来耳のあるタイプが耳部分が欠損したために耳がないものと考えられる。365～391は、器高が4.6cm～6.0cmで平均5.4cmを測り、底部は平坦である。推定口径は34.0cm～40.4cm、平均39.2cmを測る。耳の付け方は内壁と底部に跨って付けられている。372・390に補修孔がある。392～394は器高の低い耳のあるタイプで、393は耳部分欠損と考えられる。器高が3.0cm前後と浅く、底部は392は平坦で393・394は丸みを帯びる。耳の付け方は深いタイプと同様に内壁と底部に跨って付けられている。395・396は銘の入った底部片である。397・398は焙烙底部を円盤状に整形したものである。

399は、中世に所産する内耳鍋である。

## 3. 近代以降出土遺物

本遺跡より出土した遺物の中には近代以降の遺物も数多くある。その中で形状の分かるものを抜粋した。陶磁器には戦争中の酒杯や生産者番号の施されたものなどがある。また、土器については、七輪や炉など近い過去であるがその使用等が曖昧な遺物もある。今後の資料として本報告書では掲載し、今後の研究の一助としたい。出土遺物は、1号溝から多数出土している。

## 1 陶磁器等 (第153～156図、口絵7・8、P.L. 43)

①碗 出土遺構・掲載量は1号溝9点、5号溝・12号溝・4号土坑各1点、33号井戸2点の計14点で、全て磁器である。製作地は400～409が瀬戸・美濃、410は美濃、411は不明である。400は4号土坑出土の見込みに「凱旋記念歩十五」の銘のある酒杯である。401～404は端反型、405は丸型で、口縁内側に四方棒文が染め付けされる。見込みに不明な文が施されている。406には焼き継ぎがある。408・409は銅板プリントによる染め付けである。408は内外面同じ文様が施され、裏底に「陶〇團製」の銘が染め付けられている。410の裏底には「岐123」の生産者番号がある。416・417は各10客が1列に重なり合って33号井戸上層に出土した。

②皿 出土遺構・掲載量は1号溝1点、5号溝2点である。全て磁器である。製作地は412は不明、413・414は肥前か。412は銅板プリントで、口縁端部無軸の紅皿である。413・414は型打による文様と具須が施されている。

③鉢 出土遺構・掲載量は1号溝3点、3号溝1点、5号溝1点、表採3点の計8点である。415が磁器の他は陶器である。製作地は415は不明であるが、416～422は益子・笠間である。415は口縁部無軸の蓋の付く鉢である。外面の一部に銅銭軸。418・419は煉鉢である。見込みに重ね積みの目痕が10から5程度ある。420・421は片口である。420の口縁部には鉄軸が施されている。421の見込みに目痕が5点以上ある。422は片口か。423は筒型を呈する火入れか。見込みに目痕7ヶ所と目痕円形外に1ヶ所ある。424は片口擂鉢である。器形は、口縁部に三段の稜線を巡らせ、口縁内に1条の凸帯を施す。

④甕 出土遺構・掲載量は1号溝4点、12号溝1点である。なお、427は1号溝と35号溝の接合資料である。全て陶器である。製作地は益子・笠間である。425は口縁部に灰軸を内面に棒軸を施し、胴部に青軸流し掛けを施す。426～429は全面に棒軸を施し、その上に部分的に黒軸を流し掛ける。

⑤瓶 出土遺構は1号溝2点である。430は徳利の底部と思われる。431は湯たんぼである。白軸が施される。上部端に径2.1cmの口が開く。お湯を入れ、口に栓をして布で巻き使用する。

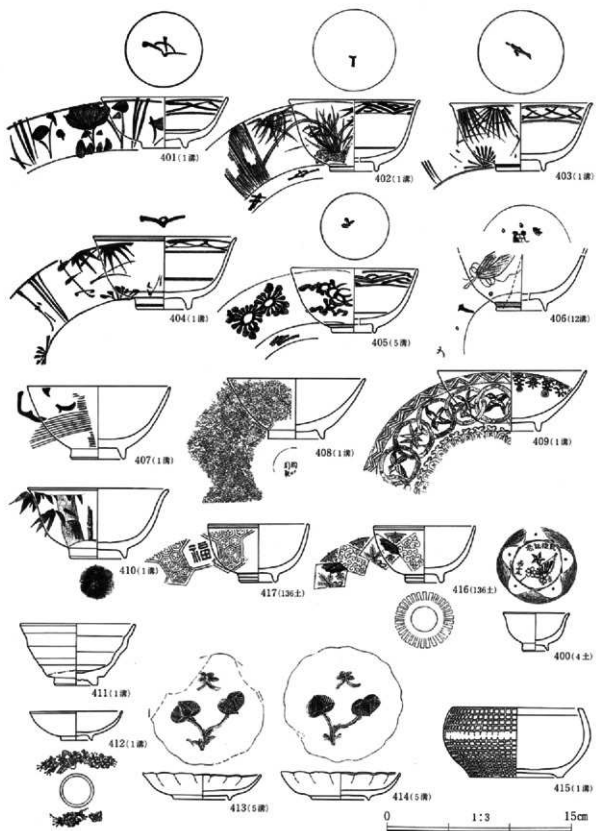
⑥土瓶・急須 出土遺構は土瓶432か26号井戸、急須は1号溝1点、その他1点、計3点の出土である。製作地は432は益子・笠間。

⑦鍋 出土遺構は1号溝3点である。435・436は行平、437は土鍋である。

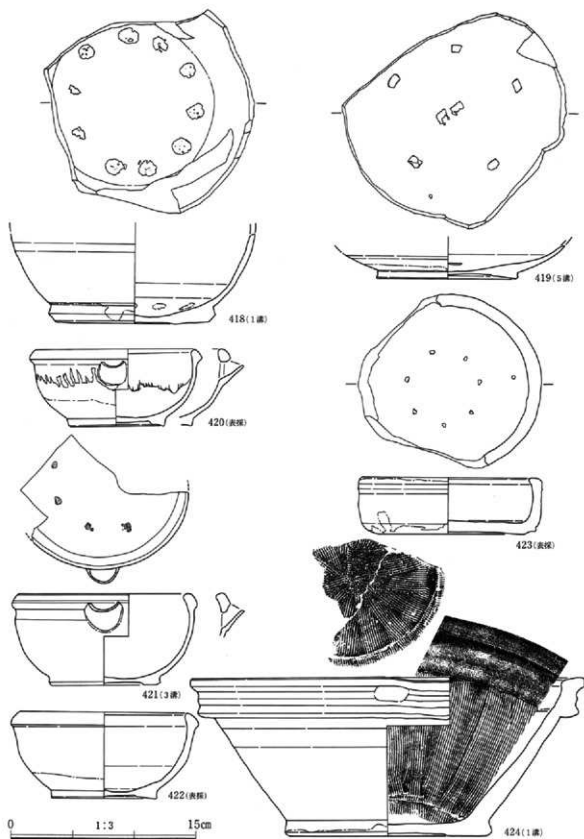
⑧蓋 出土遺構は1号溝3点、2号溝・12号溝各1点の計5点である。438～440は急須蓋、441は土瓶蓋、442は重蓋である。

⑨ガラス製品 1号溝1点、20号溝1点、表採2点、計4点の出土である。443～446はビンである。443・444は紺色半透明、型吹成形で「神楽」の文字が陽刻されている。文字の左面に薬量の目盛線5本が施される。445・446は透明、型吹成形透明で気泡が見られる。



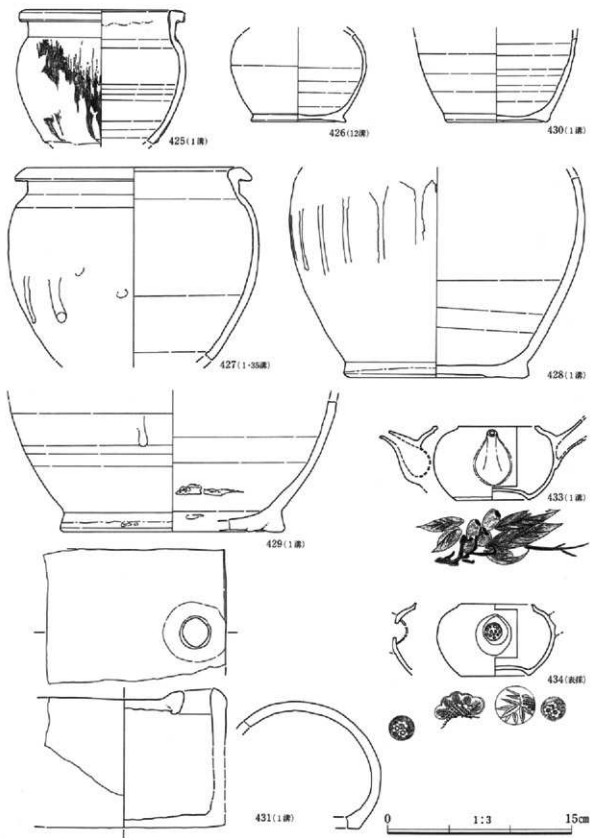


第153図 近代陶磁器碗・皿実測図(400～417)

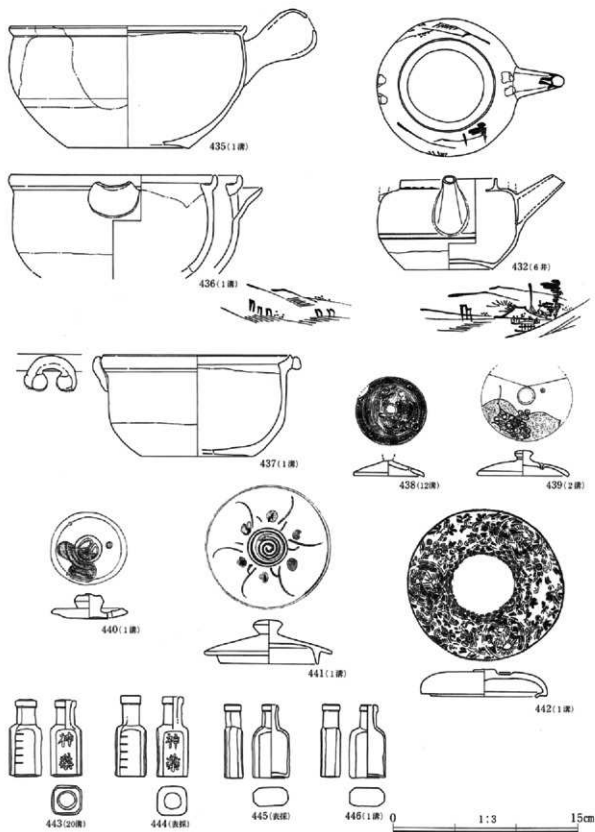


第154図 近代陶磁器鉢類実測図(418~424)

第3章 検出された遺構・遺物



第155図 近代陶磁器甕・湯たんぼ・急須実測図(425～431・433・434)



第156図 近代陶磁器行平・壺・ビン実測図(432・435~446)

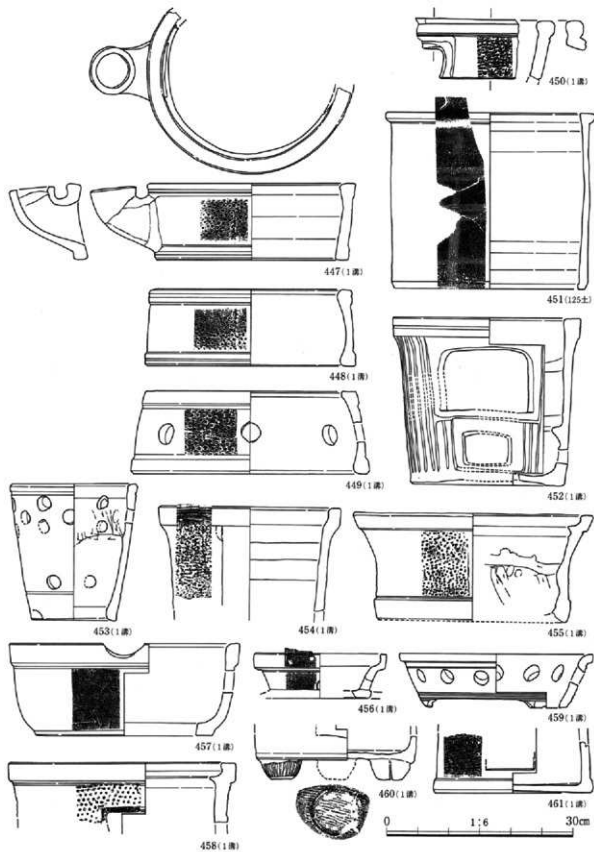
第94表 近代以降陶磁器他観察表 (第153~156、口絵7 PL. 43)

番号	品上	器種	分類	形状	計測値 (mm)		成形	絵付	輪要	文様	推定産地	時期	備考
					口径	高さ							
400	4上片	磁器	酒杯	鐘反型	54	29	31	轆轤	絵付	透明	内) 鳳凰記念会十五	近・現代	口縁内面は緑の灰皿。見込は上縁
401	1溝	磁器	中瓶	鐘反型	102	37	52	轆轤	絵付	透明	見) 不明外) 蓮	近代	
402	1溝	磁器	中瓶	鐘反型	106	40	59	轆轤	絵付	透明	内) 緑見) 不明	近代	
403	1溝	磁器	中瓶	鐘反型	114	40	56	轆轤	絵付	透明	内) 緑見) 不明外) 蓮	近代	
404	1溝	磁器	中瓶	鐘反型	116	49	60	轆轤	絵付	透明	内) 緑見) 不明	近代	
405	5溝	磁器	中瓶	丸型	102	36	53	轆轤	絵付	透明	内) 緑見) 不明	19c中~後	
406	12溝	磁器	中瓶	丸型	-	41	-	轆轤	絵付	透明	見) 不明	19c中~後	焼跡
407	1溝	磁器	中瓶	丸型	116	45	60	轆轤	絵付	透明	外) 梅	近・現代	
408	1溝	磁器	中瓶	平型	112	45	50	轆轤	脚版フリント	透明	内) 内側) 草唐草(巻) 陶○蓮葉	近・現代	
409	1溝	磁器	中瓶	平型	120	46	50	轆轤	脚版フリント	透明	内) 緑唐草(外) 丸文鳥獣	近・現代	
410	1溝	磁器	中瓶	鐘反型	113	44	56	轆轤	吹型	透明	外) 竹節) 竜23	近・現代	
411	1溝	磁器	中瓶	鐘反型	94	36	51	轆轤		白濁した轆	不詳	不明	[箱123] 生産者番号 高台跡以下無軸
412	1溝	磁器	中瓶	丸型成袋	74	25	24	轆轤	脚版フリント	透明	外) 牡丹・蓮	近・現代	口縁部以下無軸
413	5溝	磁器	小皿	輪花16	96	46	21	型打	絵付	透明	肥前?	19c中~後	打割による文様は乳須を軸とする
414	5溝	磁器	小皿	輪花16	96	46	22	型打	絵付	透明	内) 草花	19c中~後	打割による文様は乳須を軸とする
415	1溝	磁器	蓋物	脚丸型	105	74	57	118	轆轤	透明	不詳	近・現代	外面1部に脚轆轤
416	33溝	磁器	小瓶	半球型	82	47	31	轆轤	ゴム印	透明	外) 松竹梅草毒	昭和	ゴム印による文
417	33溝	磁器	小瓶	半球型	82	47	31	轆轤	ゴム印	透明	外) 亀甲型	昭和	ゴム印による文
418	1溝	陶器	鉢鉢		-	122	(73)	轆轤		灰軸	見) 日傘10箇所	近・現代	内面無軸
419	5溝	陶器	鉢鉢		-	114	(56)	轆轤		灰軸	見) 日傘5箇所	近・現代	高台跡以下無軸
420	表採	陶器	片口	口縁部下 注口	136	77	63	轆轤		灰軸	見) 益子・笠置	近・現代	口縁部灰軸を削ける高台跡以下 無軸
421	3溝	陶器	片口	口縁切込 注口	141	90	75	轆轤		灰軸	見) 日傘5以上	近・現代	
422	表採	陶器	片口?	注口	150	85	70	轆轤		灰軸	見) 益子・笠置	近・現代	高台跡以下無軸
423	表採	陶器	不詳	半球型	146	134	46	轆轤		灰軸	見) 日傘7ヶ所	近・現代	高台跡と外底無軸。内面無軸。 底部外面日傘を削る
424	1溝	陶器	鉢鉢	片口、口 縁部三辺	315	165	130	轆轤		灰軸	外) 菊 白) 白に青輪風し	近代	灰軸(青色)内面口縁下と底部外 面無軸
425	1溝	陶器	小壺	脚丸形	(134)	-	(110)			内面無軸、口 縁部灰軸	見) 益子・笠置	近・現代	
426	12溝	陶器	小壺	脚丸形	-	76	(72)			鉢	外) 煎飯流し	近・現代	底部内面無軸
427	1溝	陶器	中壺	脚丸形	(191)	-	(160)			鉢	見) 煎飯流し	近・現代	1溝・笠置接合
428	1溝	陶器	中壺	脚丸形	-	149	(165)			鉢	見) 日傘(外)	近・現代	煎飯流し

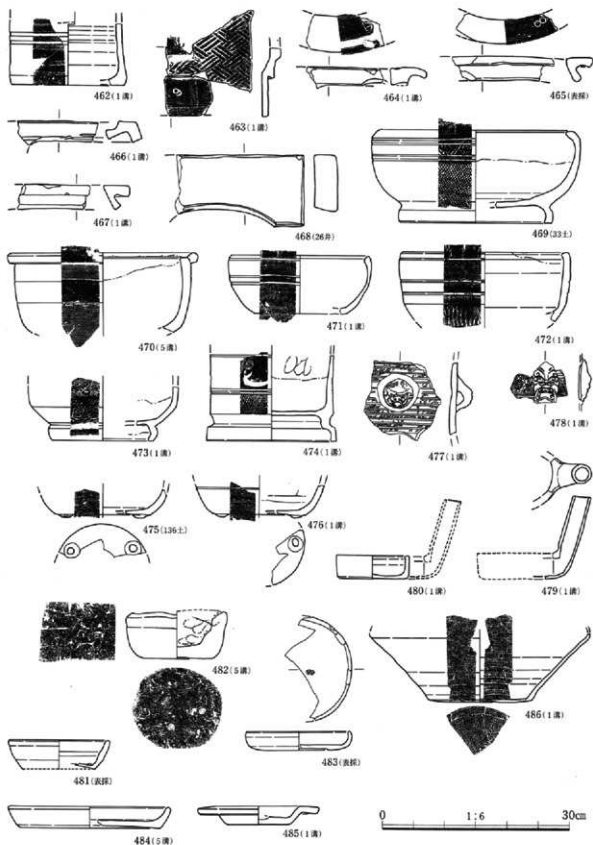
番号	出土位置	器種	分類	形状	計測値(mm)			口径	底径	器高	最大径	成形	紋付	釉薬	文様	推定産地	時期	備考
					口径	底径	器高											
429	1溝	陶器	中蓋	餅丸形	-	(180)	(108)	-	-	-	-	轆轤	緑釉	見、目紙外、黒輪底し	益子・笠原	近・現代	餅丸形、内面縁部多く、底面外縁部	
430	1溝	陶器	餅丸?	枕形	-	84	(69)	-	-	-	-	轆轤	白釉	緑釉	不詳	近・現代	内面黒釉	
431	1溝	陶器	湯たんぼ	枕形	-	-	(105)	-	-	-	-	轆轤	白釉	緑釉	不詳	近・現代	外面白土掛けの轆轤付、底面縁部有	
432	26号戸	陶器	土瓶	横手形	77	70	75	150	-	-	-	轆轤貼付	赤付	外、山水文	益子・笠原	近代	外面白土掛けの轆轤付、底面縁部有	
433	1溝	磁器	急須	横手形	65	60	-	-	-	-	-	轆轤貼付	赤付	外、びわ	不詳	近・現代	轆轤貼付	
434	表探	磁器	急須	横手形	57	55	59	-	-	-	-	上塗	赤付	外、松竹梅丸文	不詳	近・現代	轆轤貼付	
435	1溝	陶器	行平	丸型	190	100	100	-	-	-	-	轆轤型 合貼付	赤付		益子・笠原	近・現代	轆轤貼付、底面外縁部有	
436	1溝	陶器	行平	丸型	187	-	80	-	-	-	-	轆轤型 合貼付	赤付		不詳	近・現代	轆轤貼付、底面外縁部有	
437	1溝	陶器	土瓶	丸型、耳付	155	-	83	-	-	-	-	轆轤	赤付		不詳	近・現代	轆轤貼付、底面外縁部有	
438	12溝	磁器	急須蓋		57	-	(12)	-	-	-	-	轆轤	赤付		不詳	近・現代	轆轤貼付、底面外縁部有	
439	2溝	陶器	急須蓋		74	15	21	-	-	-	-	赤線・一筋金 影	赤付	外、梅	不詳	近・現代	天井部白土掛けの後縁部と白土による施文	
440	1溝	陶器	急須蓋		62	-	20	36	-	-	-	赤線・一筋金 影	赤付		不詳	近・現代	天井部外面白土掛けの後縁部と透明釉	
441	1溝	磁器	土瓶蓋		103	23	35	80	-	-	-	型紙削	赤付		益子・笠原	近・現代	天井部白土掛けの後縁部	
442	1溝	磁器	重蓋		100	18	23	84	-	-	-	型紙削	赤付		不詳	近・現代	天井部白土掛けの後縁部	
443	20溝	ガラス	ビン		17	25	62	-	-	-	-	彩色半透明	赤付	神蓋	不詳	近・現代	口縁部調整	
444	表探	ガラス	ビン		16	24	65	-	-	-	-	彩色半透明	赤付	神蓋	不詳	近・現代	口縁部調整	
445	表探	ガラス	ビン		13	29	60	-	-	-	-	透明	赤付	透明	益子・笠原	近・現代	気付き、口縁部調整	
446	1溝	ガラス	ビン		15	29	60	-	-	-	-	透明	赤付	透明	益子・笠原	近・現代	気付き、口縁部調整	

## 2. 土器 (第157・158図、PL.43~45)

カマド、七輪、火鉢等の土器製品が1号溝を中心に出土した。出土遺物は1号溝30点、5号溝3点、26号井戸・33号土坑・125号土坑・136号土坑各1点、表探3点の計40点である。447~450は組み合わせ式の移動カマド。447が最上段、448は中段、449は下段と考えられる。452~463は七輪、464~467釜輪部か。468はカマドかコンロ上部の部材。469~474は火鉢。477・478は火鉢胴部側面に付けられた獅子の把っ手。479・480は火入れ。481は香炉か。482はひで鉢か。483~485は蓋。486は土鍋である。



第157図 近代土器実測図(1) (447~461)



第158図 近代土器実測図(2) (462~486)



第95表 近代以降土器観察表(第157・158図 PL.43・44~45)

番号	出土位置	器類	器種	器形	法 量 (mm)			成形	胎質	製作場所	製作年代	備 考
					口径	底径	器高					
447	1溝	伊	カマド		322	305	125	腰丸貼付	土器	在処系	近・現代	組合せ式の腰丸貼。外型による製造り
448	1溝	伊	カマド		335	322	125	腰丸貼付	土器	在処系	近・現代	組合せ式の中央部。外型による製造り
449	1溝	伊	カマド		380	335	135	腰丸貼付	土器	在処系	近・現代	組合せ式の下部。外型による製造り
450	1溝	伊	カマド		400	-	(97)	外型作り	土器	在処系	近・現代	外型製赤褐色に施る。下腹丸口部片
451	125上	伊	カマド		334	304	264	轆轤	土器	在処系	近・現代	外型製アレン目
452	1溝	林	七厘	頸口影	300	245	271	火力調整器と円形影	土器	在処系	近・現代	外型による製造り後、轆轤調整
453	1溝	林	七厘	朝顔影	204	135	223	腰丸貼付	土器	在処系	近・現代	内型製朝顔部
454	1溝	林	七厘	朝顔影	262	-	(170)	轆轤	土器	在処系	近・現代	外型による製造り後、轆轤調整
455	1溝	林	七厘	朝顔影	382	303	173	轆轤	土器	在処系	近・現代	高台部?内側に強い線痕あり転用か
456	1溝	林	七厘	朝顔影	212	-	77	円形影	土器	在処系	近・現代	組合せ式カマドの下部か
457	1溝	林	七厘五輪カマド		368	287	150	火力調整器付	土器	在処系	近・現代	腰丸口と推定される切り口あり。内面磨表めれる
458	1溝	林	七厘		362	-	(97)	外型作り	土器	在処系	近・現代	腰丸口と推定される切り口あり。内面磨表めれる
459	1溝	林	七厘五輪		310	225	87	空丸貼付	土器	在処系	近・現代	外型による製造り後、轆轤調整
460	1溝	林	七厘		-	250	(72)	轆轤、三足貼付	土器	在処系	江戸~	火力調整器下部残る。磨化実
461	1溝	林	七厘	頸口影	-	246	(96)	轆轤、火力調整器方	土器	在処系	近・現代	磨研し文様。外型による磨つくり。通し焼成
462	1溝	林	七厘	頸口影	-	180	108	轆轤、方形窓付	土器	在処系	近・現代	磨研し文様。磨し焼成
463	1溝	林	七厘	頸口影	-	-	-	轆轤	土器	三河?	近・現代	火力調整器。外型による製造り。筋土から三河土器の可能性高い
464	1溝	伊	カマド?		460	-	28	不明円印	土器	在処系	近・現代	カマド掛け口部片か。窓口と推定される切込みあり
465	表様	伊	釜輪		356	304	40	不明円印	土器	在処系	江戸~	内面スス付着
466	1溝	伊	カマド?		340	-	38		土器	在処系	近・現代	カマド掛け口部片か。窓口と推定される切込みあり
467	1溝	伊	釜輪		390	346	40		土器	在処系	江戸~	
468	25井	コンロ・カマド	部付	長輪 肩輪	幅116 88	横 (200)	36		土器	在処系	江戸~	カマドココンロ上部の部材と思われる。組合せて掛け口を構成すると思われる
469	32土	林	火鉢		305	240	151		土器	在処系	近・現代	磨研し文様。外型による製造り。磨し焼成。光沢あり。取っ手残
470	5溝	林	火鉢		304	-	(130)		土器	在処系	近・現代	磨し焼成。在江あり
471	1溝	林	火鉢		229	145	96		土器	在処系	近・現代	同輪軸文具による焼成。磨し焼成。光沢あり
472	1溝	林	火鉢		268	-	(120)	外型作り	土器	在処系	近・現代	磨研し文様。磨し焼成。外側部分向に磨き
473	1溝	林	火鉢		268	-	160	轆轤	土器	在処系	近・現代	磨研し文様。外側面に磨ついていると思われる。外側磨き

番号	出土位置	器類	器種	器形	法 量 (mm)		成形	胎質	製 作		備 考
					口径	底径			器高	最大径	
474	1階	鉢	火鉢	半圓形	-	208	(145)	土砂	在地系	近・現代	精製し文様、外周溝み有る、焼し焼底、先代あり。高台部成形あり
475	136土	鉢	火鉢		-	152	(46)	土砂	在地系	近・現代	獅子の尻子形付
476	1階	不詳	不詳		-	150	(55)	土砂	雜入系	近・現代	焼し焼底であるが、器表に磨り跡をして黒色に仕上げていると見られる
477	1階	鉢	火鉢	割部破片	-	-	-	土砂	在地系	江戸～ 近現代	外周による磨り。焼し焼底
478	1階	鉢	火鉢	割部破片	-	-	-	土砂	在地系	江戸～ 近現代	外周による磨り。焼し焼底
479	1階		火おくり	持手部	-	(136)	(137)	土砂	三河?	近・現代	胎土から三河土器の可能性高い
480	1階		火おくり	底入部	116	114	33	土砂	雜入系	近・現代	
481	表探	鉢	香炉?		160	115	(47)		在地系	江戸～近 代	口縁部部破滅
482	5階	鉢	ひで鉢?		162	120	79	土砂	在地系	江戸～ 近現代	ルッが状をなし、調製は悪い、軽い2次焼。ひで鉢か。スヤ入り粘土
483	表探	蓋?	蓋蓋?		170	90	31	瓦質	雜入系?	不詳	内面に花卉状の彫り付文、磨滅し家に磨き
484	5階	蓋	火消座蓋		260	220	34	土砂質	在地系	江戸～近 代	胎土と同じ製法で、直造りしてつまみを削り付ける。つまみ欠損
485	1階	蓋	火消座蓋		194	100	30	土砂	在地系	近・現代	胎土質、下部被熱、磨し磨式、焼し焼底、先代あり
486	1階	鍋	土鍋		-	164	115	土砂質	在地系	近・現代	外周スヤ付着、口縁部内凹、焼し焼底

#### 4. 出土瓦類に就いて (第159~189図、P.L.45~52)

はじめに

当遺跡出土の瓦類は、遺物用コンテナケースに密に収納し25箱出土している。これらの瓦に就いて、編集者の田村より、実測個体の選定と、出土瓦の所見を求められたので本稿を草する次第である。

##### 1. 掲載瓦の選定

当該事業は、整理期間算定の誤算により全く不十分な整理期間の中で実施せざるを得なかった。この事により、瓦への割譲時間も限界の時間付きで実施せざるを得なかった。このため、接合は極力大形破片に接合する破片資料を接合するに止まり、多くに就いては割愛せざるを得なかった。このことから、掲載した実測図は、代表例のみの揭示で、当該遺跡の実態を反映し得てはいない。

##### 2. 出土した瓦類

出土した瓦類は第159~189図に掲げた、鍍瓦(本瓦)・男瓦(本瓦葺)・女瓦(本瓦葺)・雁振瓦・契斗瓦・立浪瓦・立物・棧瓦・軒棧瓦・蟻姑場瓦が出土している。しかし、出土量は上述したコンテナケース量でしか把握できず、各瓦種毎での数量把握までは至っていない。

##### 3. 出土位置

調査区内は溝状遺構の占有面積が出土遺構の中でも大半を占めている。とりわけ第1号溝は調査区内において、屋敷の区画溝として大規模な遺構である。瓦の大半はこの第1号溝内から出土している。出土層位は上層から確認面の中で出土しており、溝が主たる機能を停止した段階で廃棄されたものと考えられる。この第1号溝のほかでは第2・5号溝や土坑から少量の出土がある(観察表参照)。

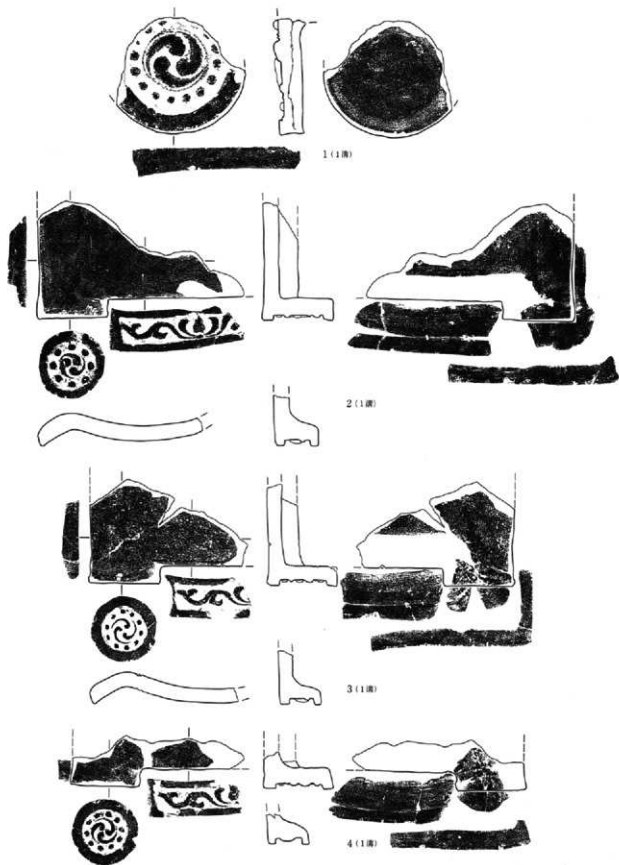
##### 4. 観察

観察は別表に一覧化した。この観察表中で、胎土をA-Eの5分類で分別した。各胎土は以下の通りである。A類：還元焰焼成で比較的焼き締まっているため夾雑物が少なく感じられる。やや粗い素地である。B類：A類に似ているがA類より素地が粗く粗粒の白色粒子を含む。C類：素地土はB類に類似乃至同一。酸化焰焼成により赤褐色粒子が目立つ。B類の酸化焰焼成と考えられる。D類：可塑性の乏しい生地土と思われる。微量の黒色粒子を含む。E類：非常に緻密であるが可塑性はやや劣ると思われる。夾雑物は殆ど認められない。

##### 5. 所見

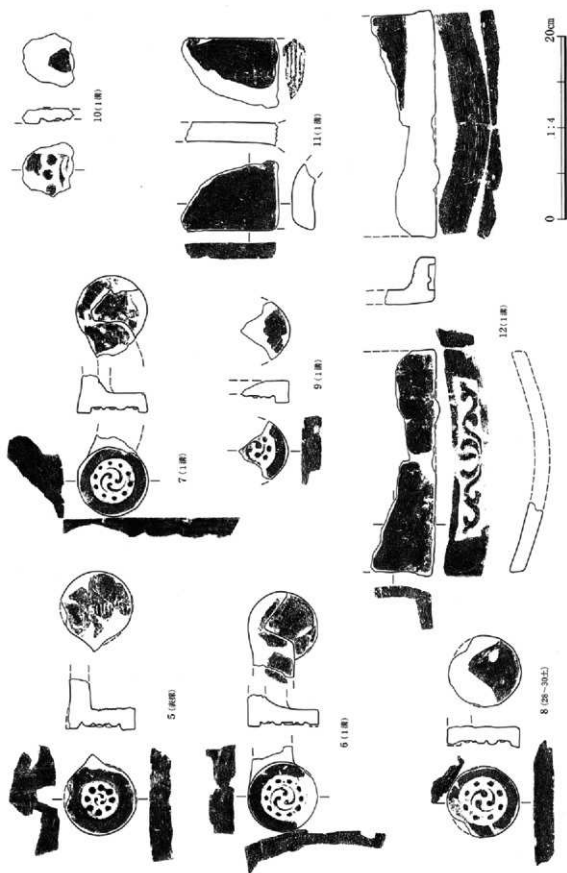
軒先の瓦類は合計10範種(鍍2・軒棧8範種)があり、軒棧瓦には巴部だけが異なる棧1(瓦2)・棧2(瓦3・4一表中に表示)(宇部分が同范)があり、更に、本瓦葺の宇瓦(瓦12)が同范関係にある。胎土分類では、Bが68%・Cが18%ある。Cの胎土はBの還元焰焼成が酸化焰焼成の段階で焼し処理された状態である。このことから、B・Cは同一素地土から作られた瓦であることが判断され(B・C群)、双方の合計86%が建物を葺いた瓦であることが推定される。多種の胎土ではAが2.5%・Dが1.6%・Eが8.2%であり、部分的な補修等によるものと考えられる。B・C群の中で、伏間瓦は大きさから、大棟に葺かれ、冠瓦が降棟に用いられたと考えられる。一方、出土瓦類には、隅切瓦類の出土層位が見られなかった。

これらのことから、棧瓦と本瓦を併用する瓦葺建物で、隅切瓦がないことから切妻建物が推定されるが、出土瓦が葺かれた全てでないことを考慮すれば、入母屋建物であったことは完全に否定し得ない。また一建物がすべて瓦で葺かれていたことも断定できる所見は得られなかった。時期に就いては、棧瓦の棧の切り込みが深いことから(瓦46)、上限として近世末から近代初期と考えられる。(木津博明)

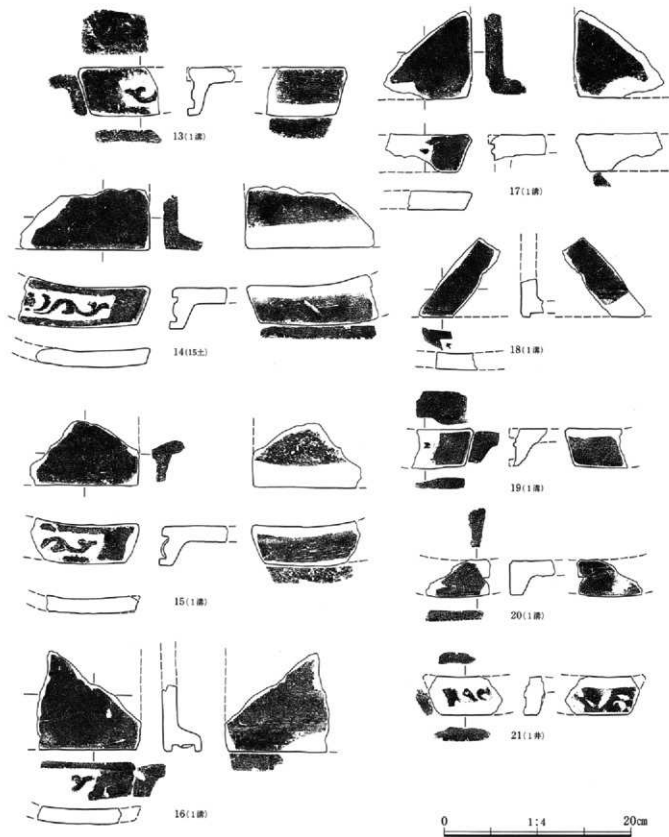


第159図 瓦実測図(1) (1~4)

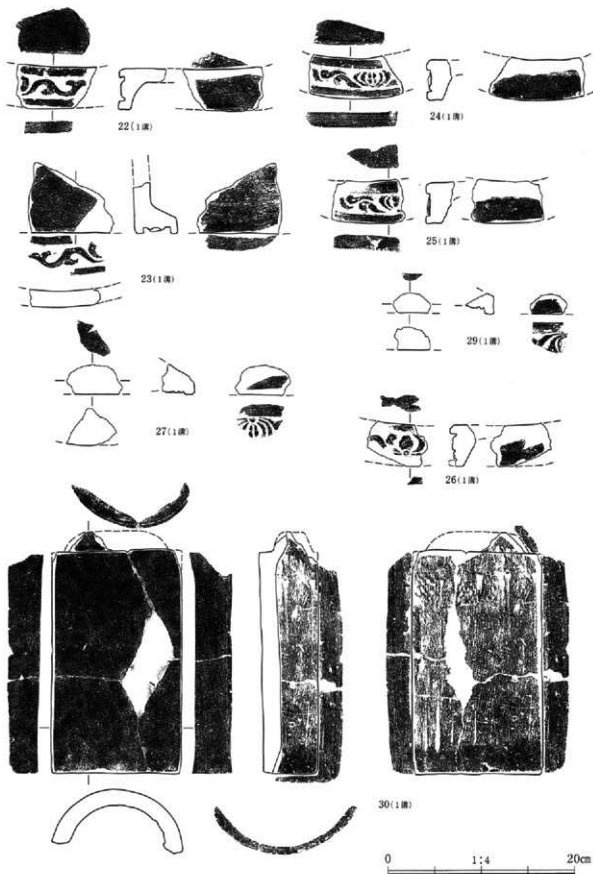
0 1:4 20cm



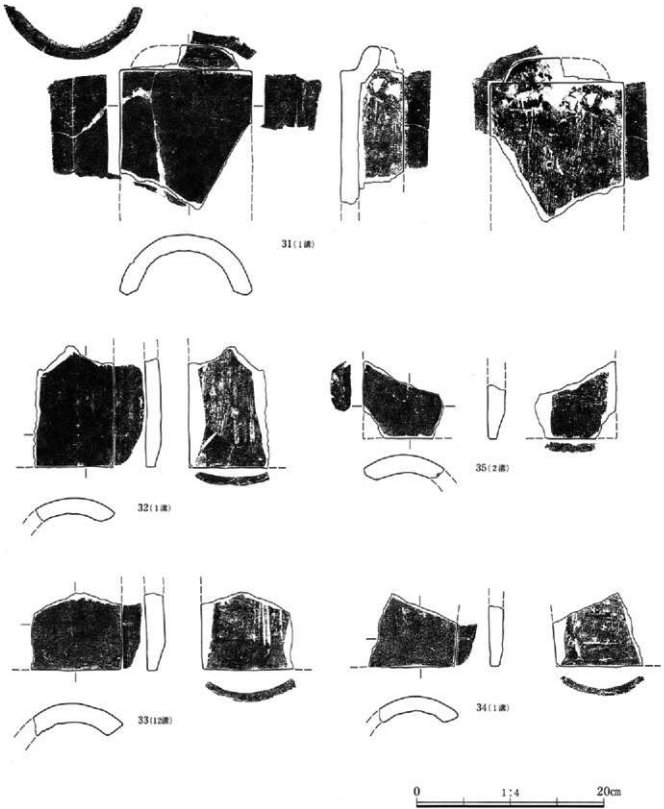
第160図 瓦実測図(2) (5~12)



第161圖 瓦実測図(3) (13~21)

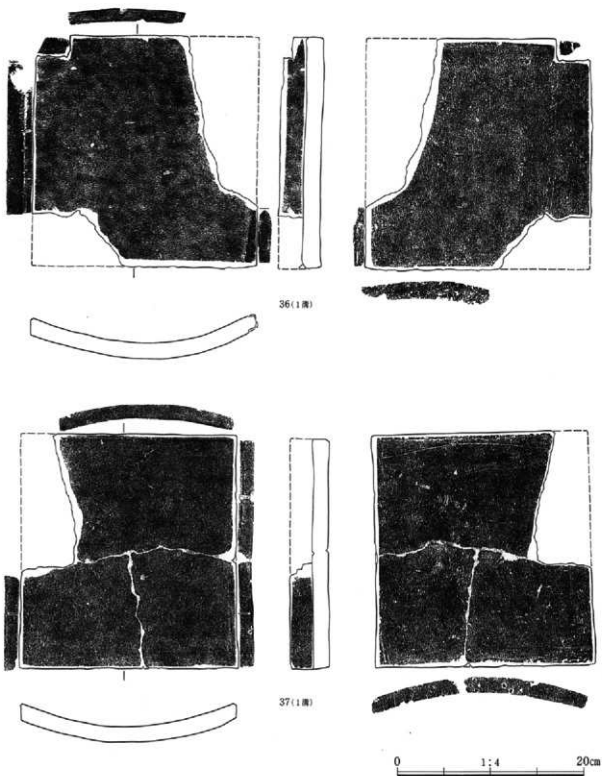


第162図 瓦実測図(4) (22~27・29・30)

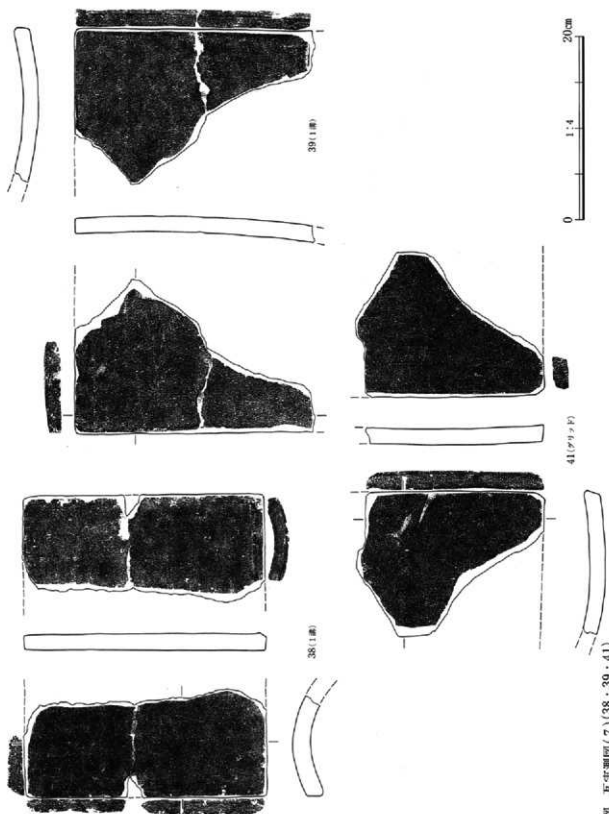


第163図 瓦実測図(5) (31~35)

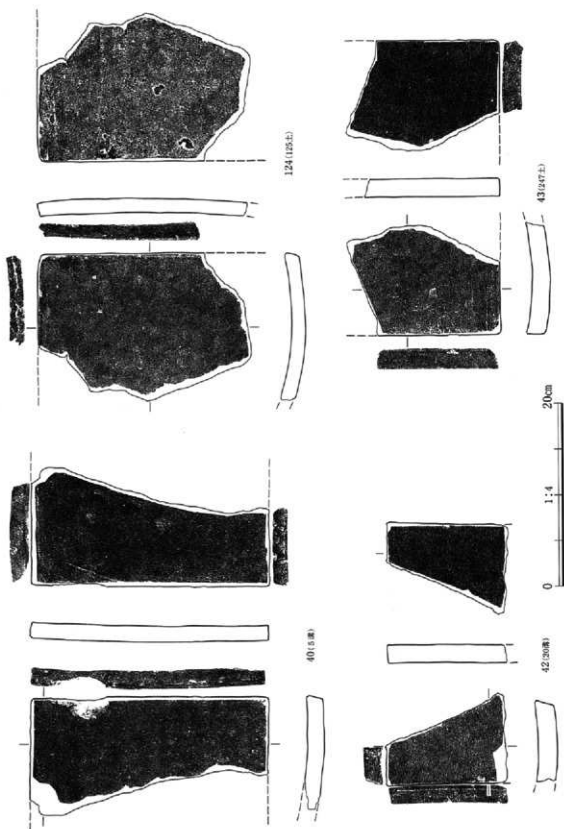




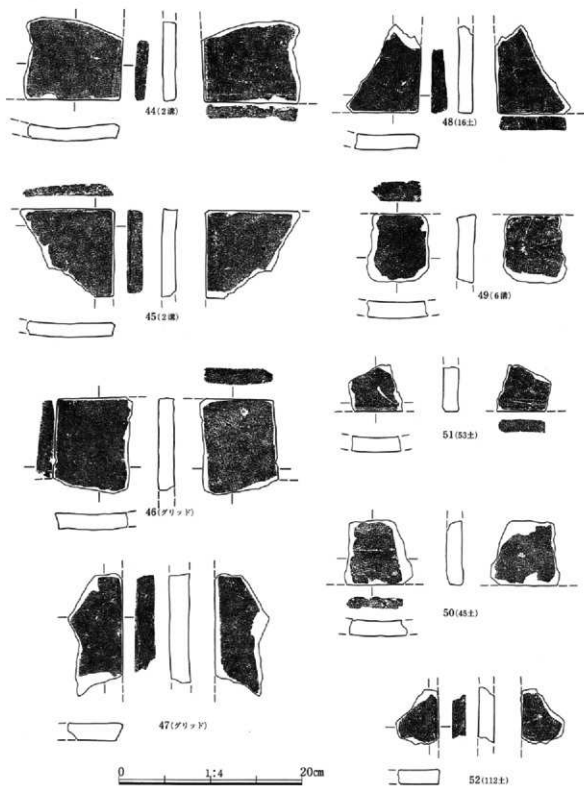
第164図 瓦実測図(6) (36・37)



第165図 瓦実測図(7)(38・39・41)

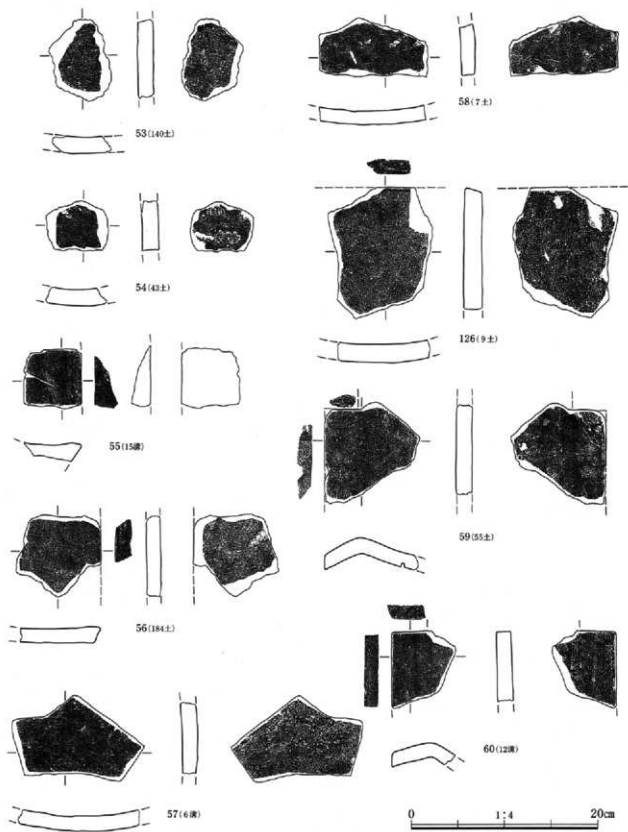


第166図 瓦英測図(8) (40・42・43・124)

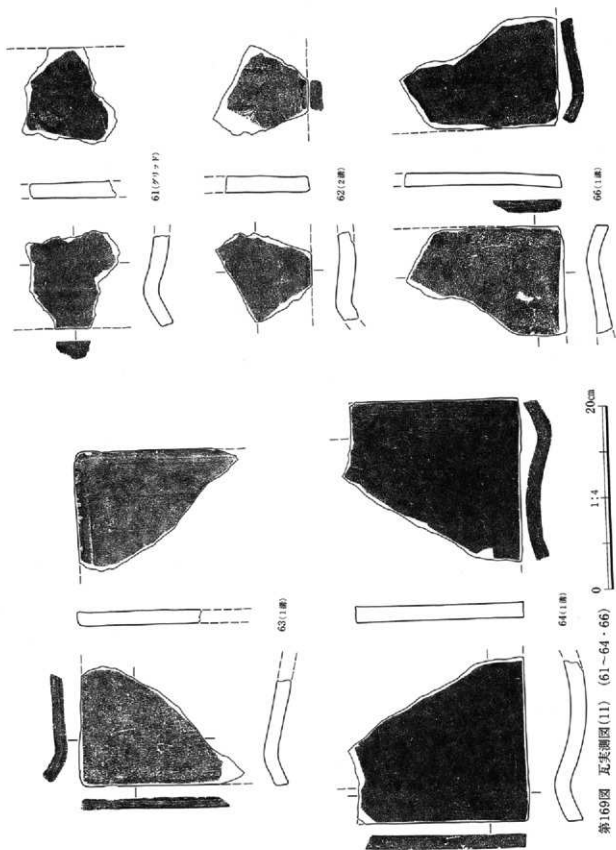


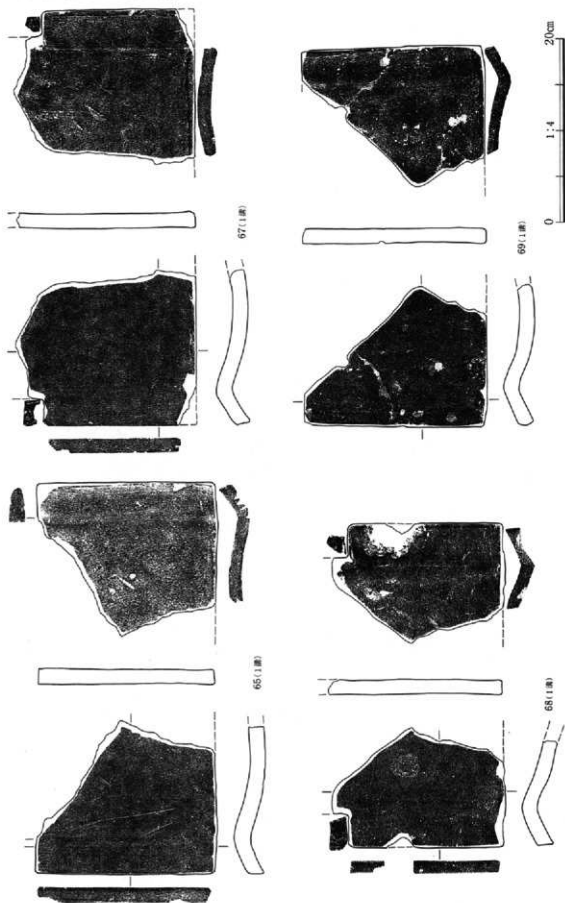
第167図 瓦実測図(9) (44~52)

第3章 検出された遺構・遺物

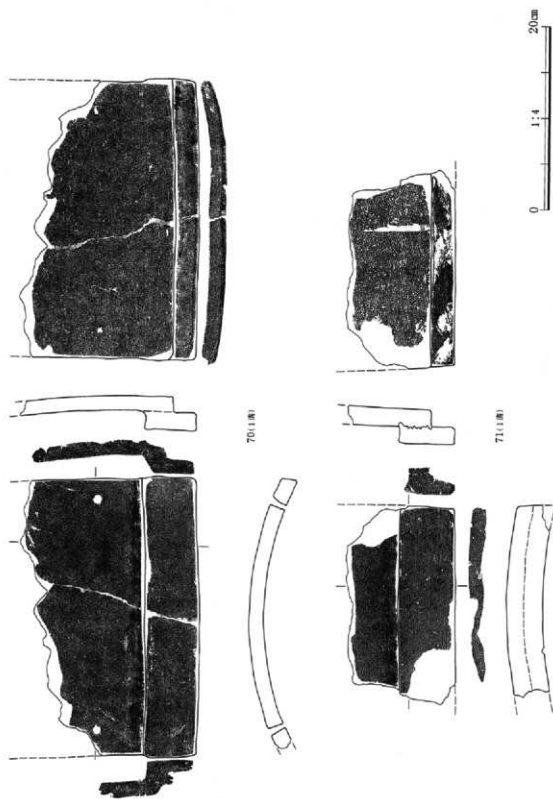


第168図 瓦実測図(10) (53~60・126)



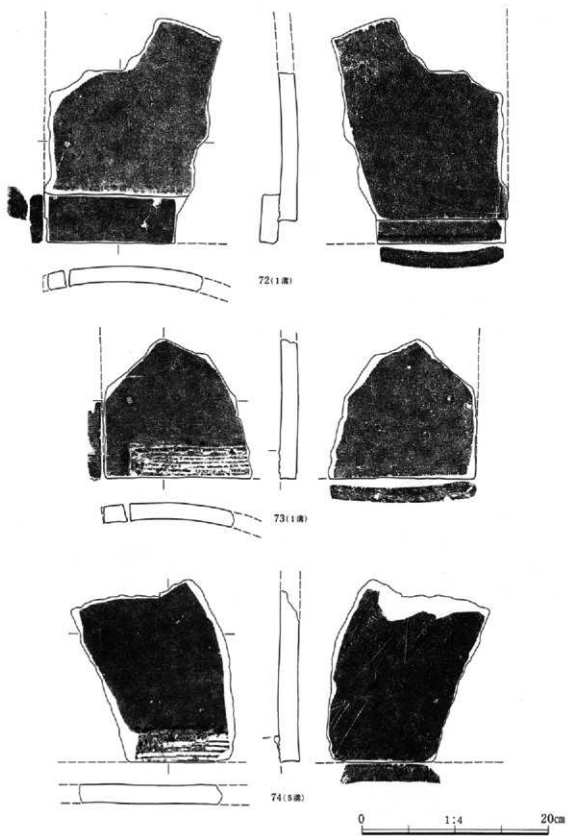


第170図 瓦実測図(12) (65・67-69)

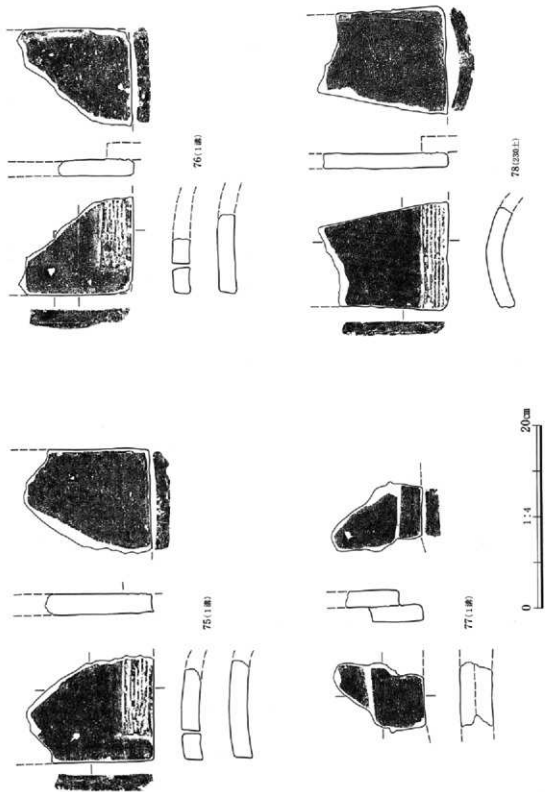


第171図 瓦実測図(13) (70・71)



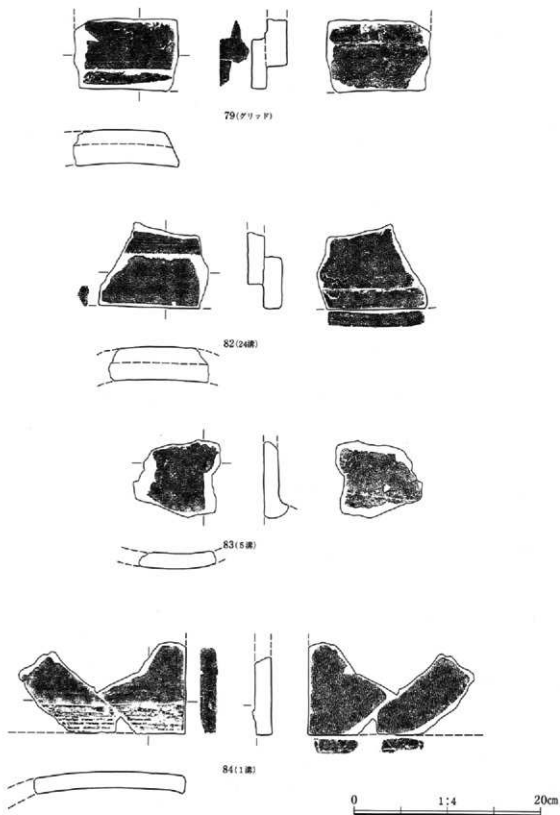


第172図 瓦実測図(14) (72~74)

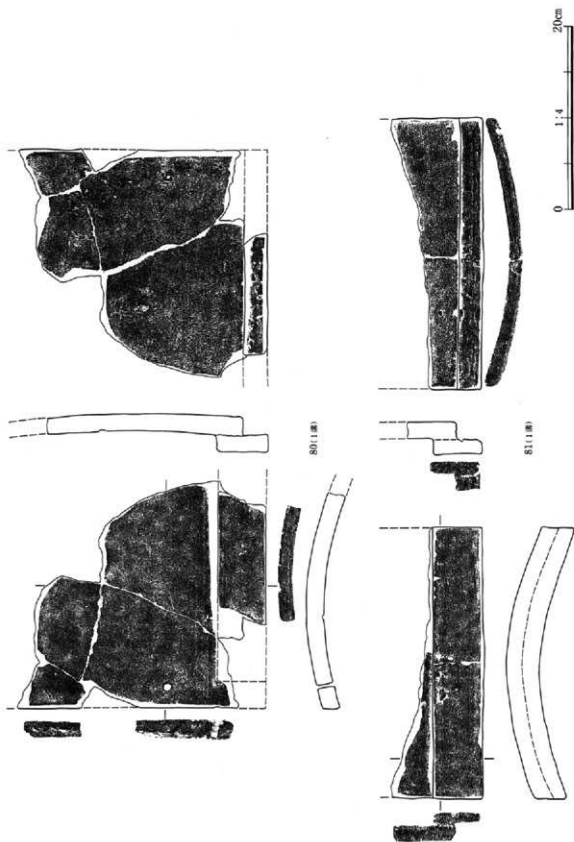


第173圖 瓦実副図(15) (75~78)

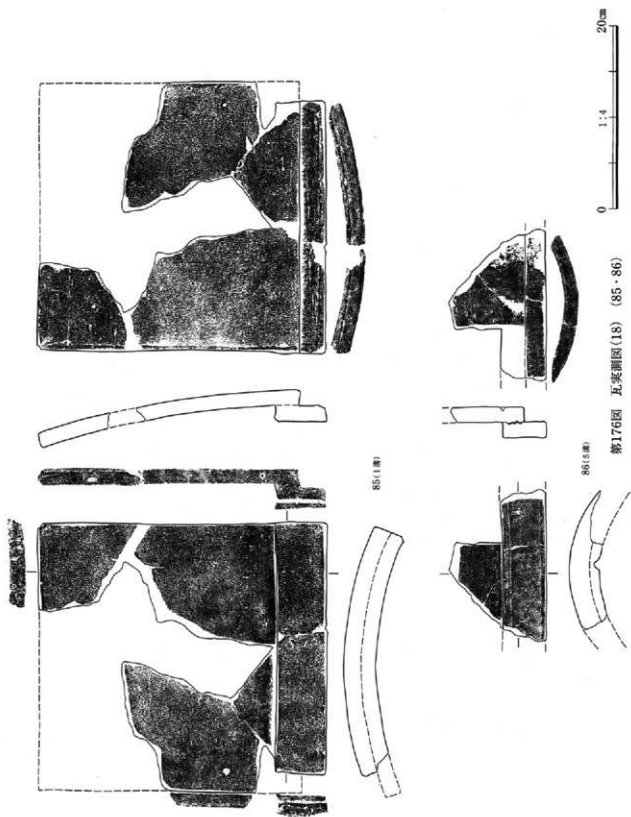
第3章 検出された遺構・遺物

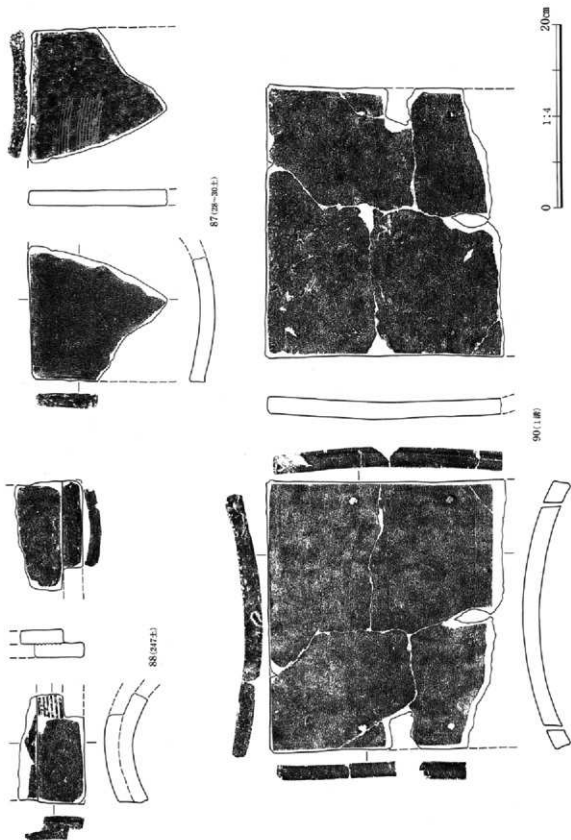


第174図 瓦実測図(16) (79・82~84)

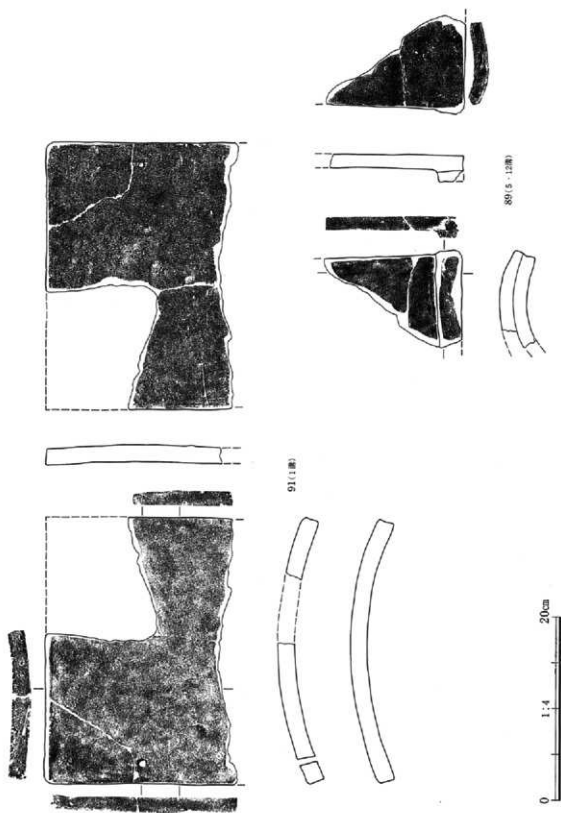


第175図 瓦実測図(17) (80・81)

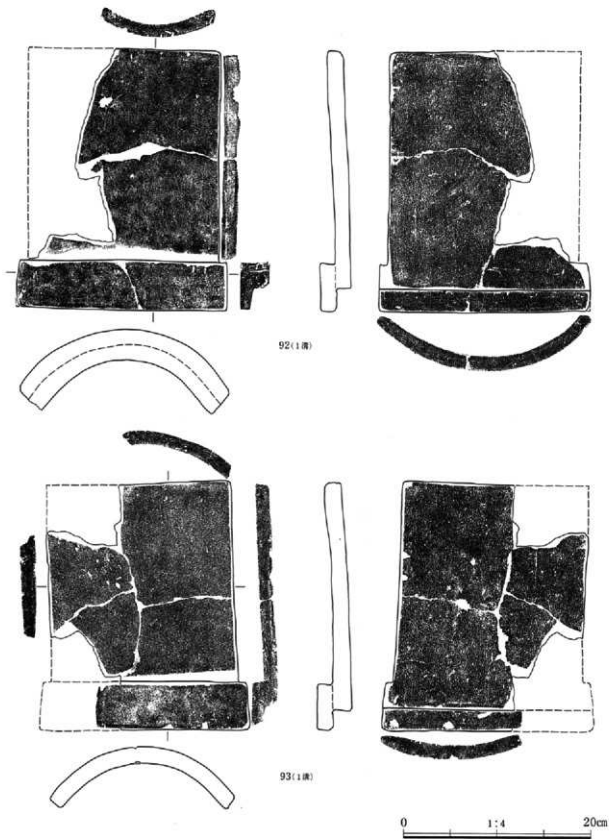




第177図 瓦美瀬原(19) (87・88・90)

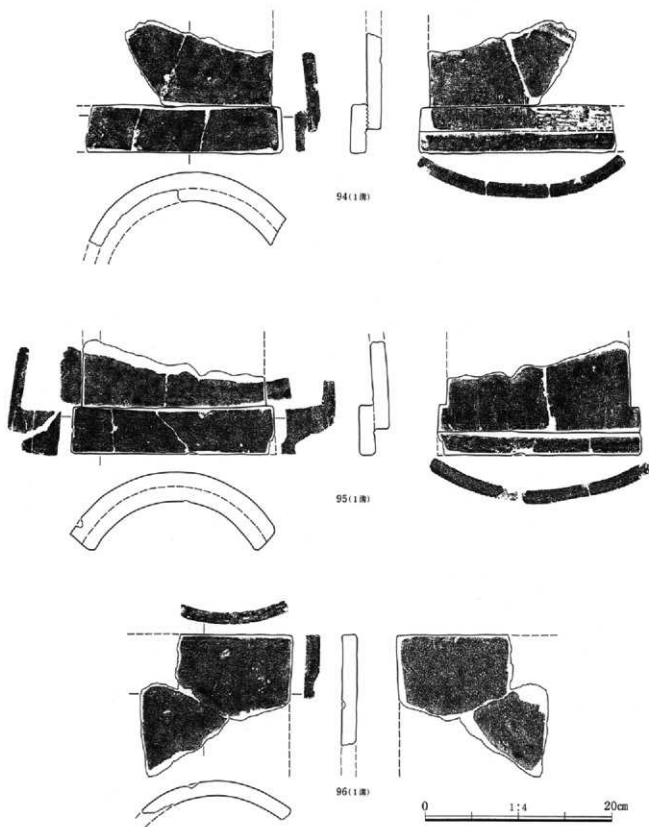


第178図 瓦実測図(20) (89・91)

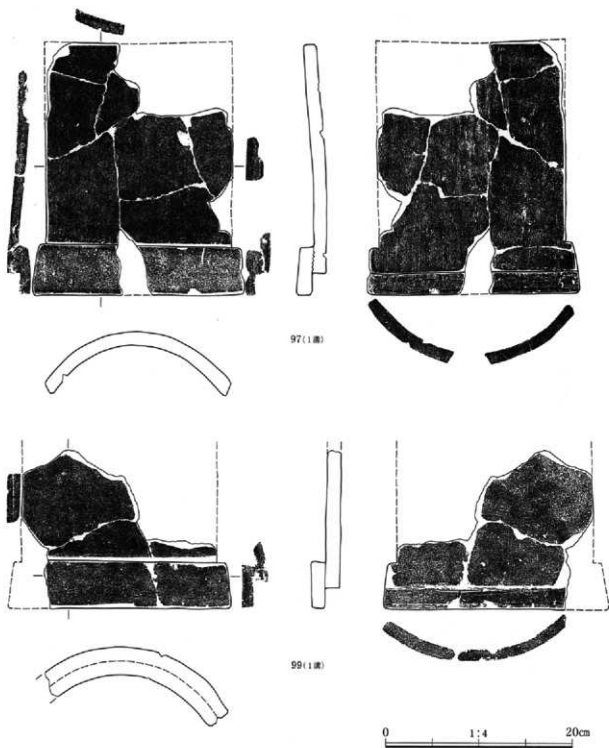


第179図 瓦実測図(21) (92・93)

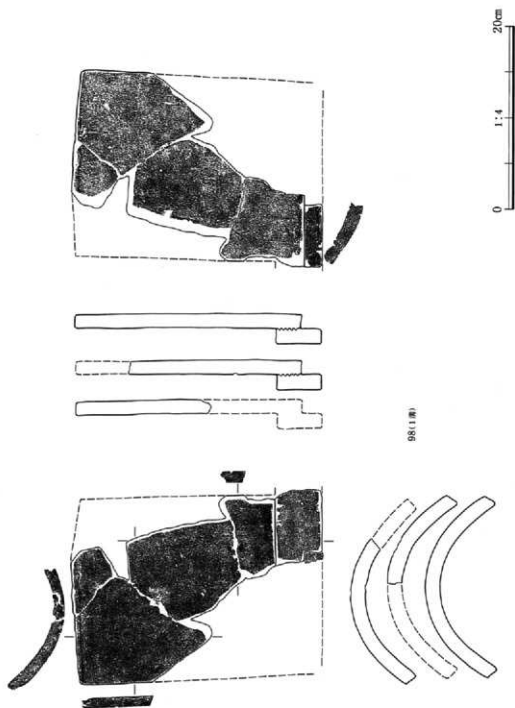




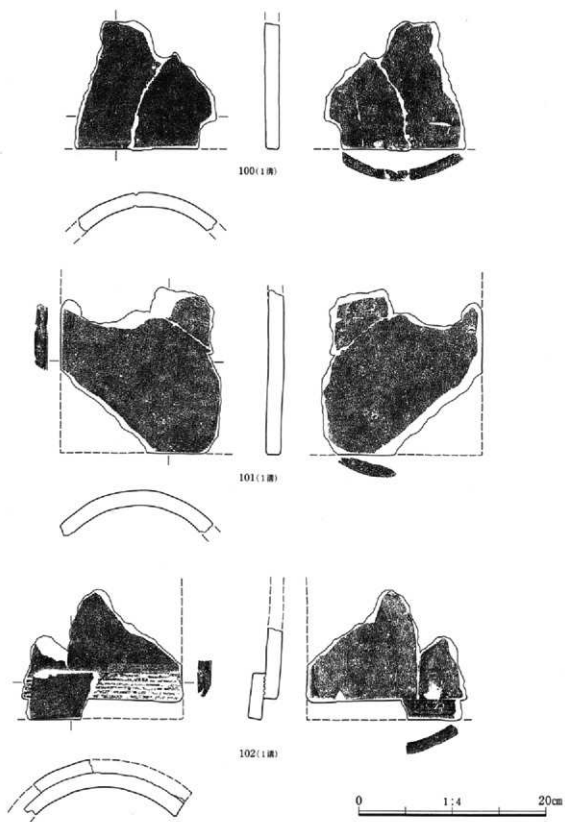
第180図 瓦実測図(22) (94-96)



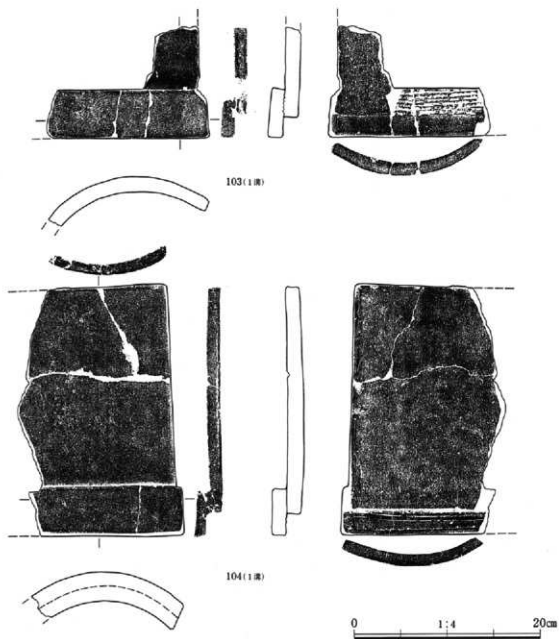
第181図 瓦実測図(23) (97・99)



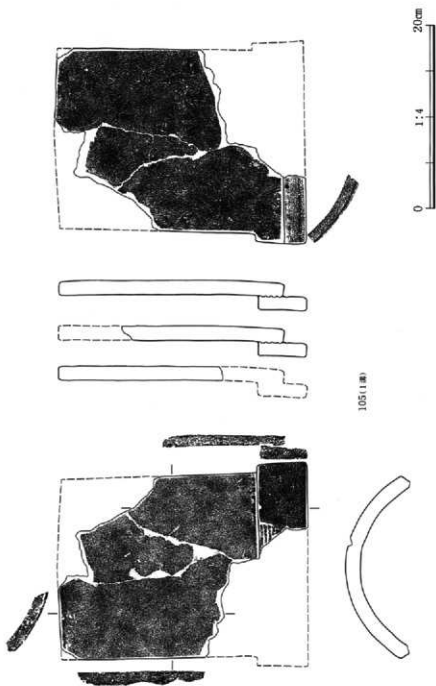
第182図 瓦実測図(24) (98)



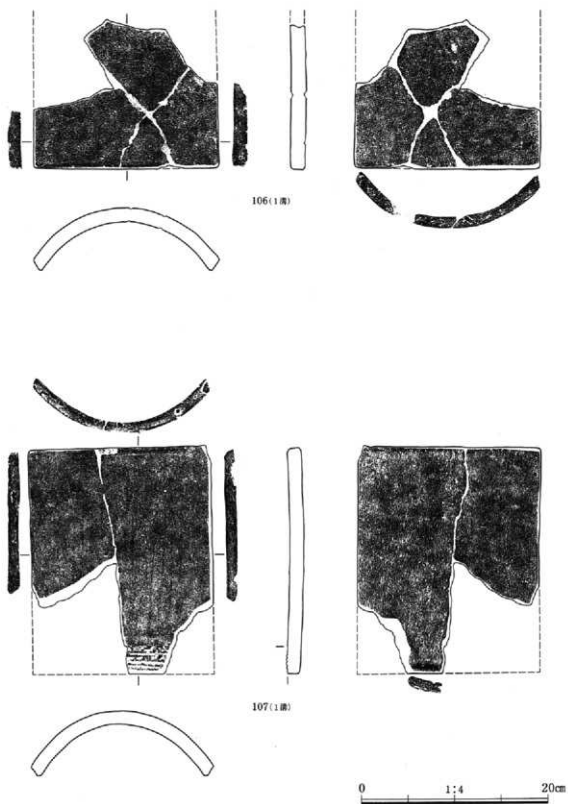
第183図 瓦実測図(25) (100~102)



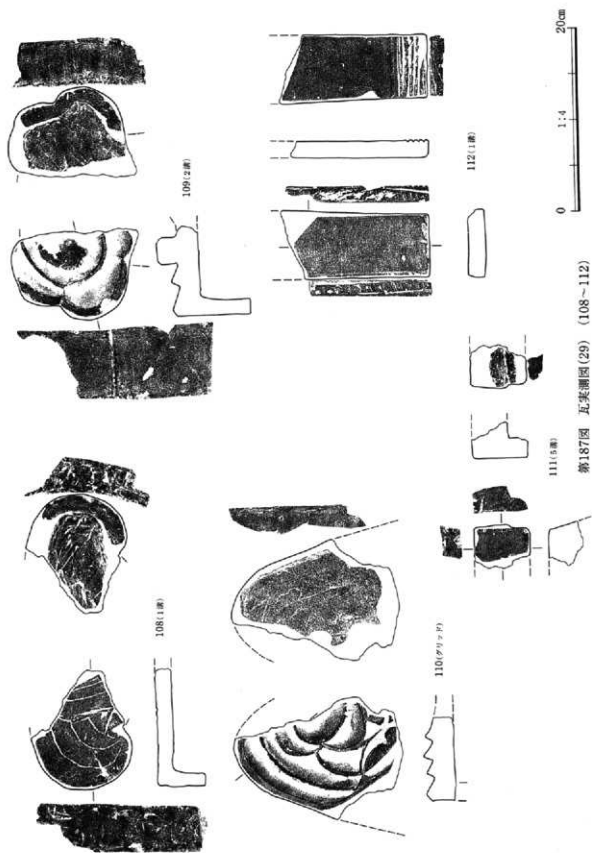
第184図 瓦実測図(26) (103・104)



第185図 瓦実測図(27) (105)

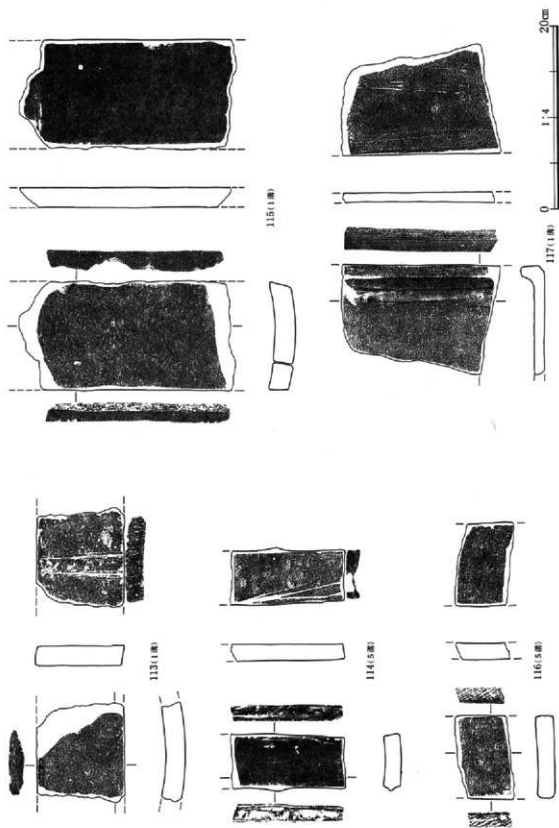


第186図 瓦実測図(28) (106・107)

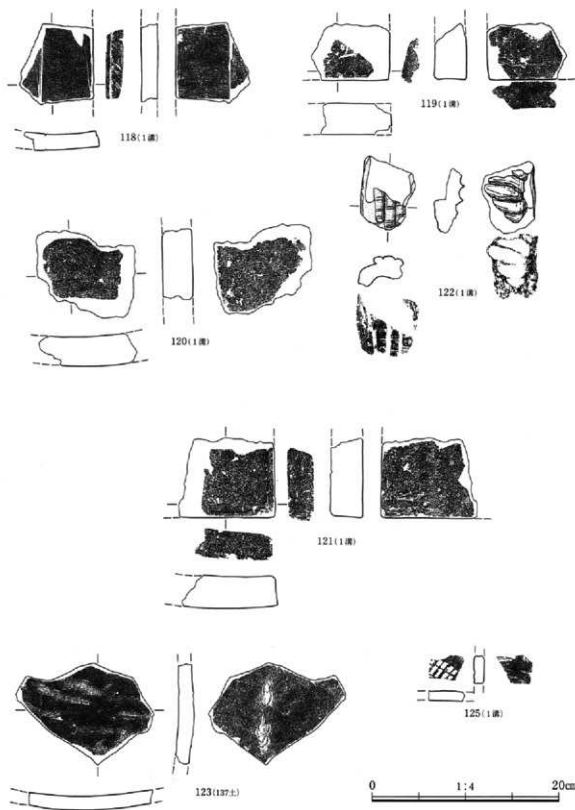


第187図 瓦実測図(29) (108~112)





第188図 瓦片圖(30) (113~117)



第189図 瓦実測図(31) (118~123・125)

第3章 検出された遺構・遺物

第96表 互観察表 (第159~189回 P.L.45~51)

通号	瓦種	生産地	作り	成形	整形	整形	面取り	粘割	胎土	焼成	色調	厚さ	布目	出土位置	備考			
					整形	明具	無	なし		焼成	色調	厚さ						
1	鍔瓦	不詳	手付	型	なし		なし		A	暹	暗灰	2.90	なし	1号溝	遺1			
2	軒棧	*	*	*	*	*	2	*	B	*	並	黄灰	1.60	*	1号溝	棧1		
3	*	*	*	*	*	*	2	*	C	*	灰濁	1.50	*	1号溝	棧2			
4	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	2.30	*	1号溝	棧2			
5	*	*	*	*	*	*	—	*	D	*	糖	灰	1.90	*	1号溝	棧(3)		
6	*	*	*	*	*	*	—	*	A	*	暗灰	2.05	*	1号溝	棧(2)			
7	*	*	*	*	*	*	—	*	C	*	並	灰濁	1.80	*	1号溝	*		
8	*	*	*	*	*	*	—	*	B	*	灰白	1.90	*	28・29・30号土坑	棧(4)			
9	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	暗灰	1.80	*	1号溝	棧(5)			
10	鍔瓦	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	1.45	*	1号溝	遺2			
11	軒棧	埼玉	—	*	ミガキ	*	2	—	E	*	硬	灰	2.10	*	1号溝	*		
12	字瓦	不詳	*	*	*	*	—	*	B	*	軟	灰白	2.10	*	1号溝	字1		
13	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	1.50	*	1号溝	*			
14	字瓦	か	*	*	*	*	—	*	*	*	*	2.00	*	15号土坑	*			
15	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	1.90	*	1号溝	*			
16	*	*	*	*	*	*	—	*	C	*	*	1.60	*	1号溝	*			
17	*	*	*	*	*	*	—	*	B	*	*	2.10	*	1号溝	*			
18	軒棧	*	*	*	*	*	—	*	A	*	糖	黒灰	1.70	*	1号溝	棧8か		
19	字瓦	か	*	*	*	*	—	*	B	*	軟	*	2.20	*	1号溝	字1		
20	*	*	*	*	*	ミガキ	*	—	*	*	並	*	1.90	*	1号溝	*		
21	棧軒	*	*	*	*	*	—	*	*	*	軟	灰濁	1.90	*	1号溝	棧6		
22	字瓦	か	*	*	*	*	—	*	*	*	*	1.80	*	1号溝	棧1			
23	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	黒灰	1.70	*	1号溝	*		
24	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	2.00	*	1号溝	棧7			
25	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	2.20	*	1号溝	*			
26	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	*	2.10	*	1号溝	字1			
27	*	*	*	*	*	*	—	*	*	*	糖	4.00	*	1号溝	棧8か			
28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
29	字瓦	不詳	*	*	*	*	—	*	B	*	硬	黒灰	3.20	なし	1号溝	棧8か		
30	男瓦	*	半載	横載	縦載	なし	2	2	*	*	軟	灰濁	2.00	*	1号溝	*		
31	*	*	*	*	*	*	2	2	*	*	*	濁	灰	1.90	利子	1号溝	*	
32	*	*	*	*	*	*	2	2	*	*	*	1.60	利子	1号溝	*	*		
33	*	*	*	*	*	*	1	2	*	E	*	糖	黒灰	1.95	利子	21号溝	キラコ	
34	*	*	*	*	*	*	1	2	*	C	*	濁	軟	灰	1.50	審	1号溝	*
35	*	*	*	*	*	*	1	2	*	B	*	軟	1.80	なし	2号溝	*		
36	女瓦	*	一枚	白	横載	*	2	1	*	*	*	黒濁	1.80	*	1号溝	棧付		
37	*	*	*	*	ミガキ	*	1	1	*	*	*	灰	1.70	*	1号溝	*		
38	*	*	*	*	横載	*	2	2	*	*	*	黒灰	1.80	*	1号溝	*		
39	*	*	*	*	*	*	2	1	*	*	*	1.80	*	1号溝	*			
40	*	*	*	*	*	*	2	2	*	*	*	1.80	*	5号溝	*			
41	*	*	*	*	*	*	2	—	*	C	*	1.70	*	050.062	*			
42	*	*	*	*	*	*	2	1	*	B	*	硬	2.00	*	20号溝	*		
43	*	*	*	*	*	*	3	1	*	*	*	軟	1.90	*	247号土坑	*		
44	棧瓦	か	*	*	*	*	2	1	*	*	*	1.40	*	2号溝	*			
45	*	*	*	*	*	*	2	2	*	C	*	1.50	*	2号溝	*			
46	棧瓦	*	*	*	*	*	2	1	*	B	*	並	1.20	*	040.610.20	*		
47	棧瓦	か	埼玉	*	*	*	2	—	D	*	糖	灰白	2.10	*	025.690.7	*		
48	*	不詳	*	*	*	*	2	1	*	B	*	軟	灰	1.50	*	16土坑	*	
49	*	*	*	*	*	*	—	1	*	*	*	暗灰	1.70	*	6号溝	*		
50	*	*	*	*	*	*	—	1	*	*	*	黒灰	1.70	*	45号土坑	*		
51	*	*	*	*	*	*	—	3	*	*	*	灰	1.60	*	53号土坑	*		
52	*	*	*	*	*	*	2	—	*	*	*	黒灰	1.60	*	112号土坑	*		
53	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	*	暗灰	1.70	*	140号土坑	*		
54	*	*	*	*	*	*	—	—	C	*	並	黄體	1.70	*	43号土坑	*		
55	*	*	*	*	*	*	2	—	E	*	濁	黒灰	1.20	*	15号溝	*		
56	*	*	*	*	*	*	2	—	B	*	軟	黄體	1.50	*	184号土坑	*		
57	軟陶	大妻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.70	*	6号溝	*			
58	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	1.50	*	7号土坑	*			
59	棧瓦	不詳	一枚	白	ミガキ	*	1	—	*	B	*	軟	黒灰	1.70	*	55号土坑	*	
60	*	*	*	*	*	*	1	—	*	*	並	1.60	*	12号溝	*			
61	*	*	*	*	*	*	1	—	*	*	軟	1.65	*	030-065	*			
62	*	*	*	*	*	*	—	2	*	*	*	1.80	*	2号溝	*			
63	10瓦	*	*	*	横載	*	1	1	*	C	*	軟	濁	灰	1.50	*	1号溝	*

凡例 一枚=一枚作り 半載=半載作り 埼玉=埼玉北部か

## 第5節 中・近世以降の出土遺物

通番	瓦種	生産地	作り	成形	整形 器具	面取り 種類	粘潤	胎土	焼 成 温度	色調	厚さ (cm)	布目	出土位置	摘要
64	棧瓦	不詳	一	台	ミガキ なし	3 3	なし	B	硬 軟	暗灰	1.65	なし	1号溝	
65	*	*	*	*	*	2 3	*	*	差	*	1.60	*	1号溝	
66	十能瓦	*	*	*	横溝撫 磨き	1 1	*	C	軟	黒灰	1.30	*	1号溝	
67	棧瓦	*	*	*	*	2 2	*	*	*	黒灰	1.60	*	1号溝	
68	*	*	*	*	ミガキ	1 2	*	B	差	*	1.50	*	1号溝	
69	*	*	*	*	*	1 3	*	*	*	*	1.60	*	1号溝	
70	伏間瓦	*	*	*	*	1 4	*	*	*	*	1.55	*	1号溝	
71	*	*	*	*	*	2 3	*	E	硬	暗灰	2.00	*	1号溝	
72	*	*	*	*	*	2 3	*	B	軟	黒灰	1.70	*	1号溝	
73	*	*	*	*	*	1	—	*	*	灰	1.80	*	1号溝	
74	*	*	*	*	*	—	—	E	硬	黒灰	2.10	*	5号溝	
75	*	*	*	*	*	1	—	B	*	暗灰	2.20	*	1号溝	
76	*	*	*	*	*	2	—	*	*	*	1.80	*	1号溝	
77	*	*	*	*	*	—	2	*	*	黒灰	1.70	*	1号溝	
78	*	*	*	*	*	1	—	C	軟	黄橙	1.60	*	230号土坑	
79	*	*	*	*	*	—	3	B	差	黒灰	2.10	*	060-630	
80	*	*	*	*	*	2	2	C	軟	灰褐	1.90	*	1号溝	
81	*	*	*	*	*	1	2	*	*	灰褐	1.80	*	1号溝	
82	*	*	*	*	*	—	3	B	差	暗灰	1.90	*	24号溝	
83	*	*	*	*	*	—	—	C	軟	灰褐	1.60	*	5号溝	
84	*	*	*	*	*	2	—	B	差	暗灰	1.70	*	1号溝	
85	*	*	*	*	*	2	2	C	軟	黄橙	1.60	*	1号溝	
86	*	*	*	*	*	—	3	B	*	黒灰	1.20	*	5号溝	
87	棧瓦	*	*	*	*	2	1	*	*	*	1.60	*	28. 29. 30号土坑	
88	伏間瓦	*	*	*	*	3	3	C	軟	黒褐	1.50	*	247号土坑	
89	*	*	*	*	*	1	—	E	差	黒灰	1.50	*	5. 21号溝	火中
90	*	*	*	*	*	3	2	C	軟	暗灰	1.90	*	1号溝	
91	冠瓦	*	*	*	*	2	1	B	差	灰	1.80	*	1号溝	
92	*	*	*	*	*	2	2	*	*	灰黄	1.70	*	1号溝	
93	*	*	*	*	*	2	3	*	*	黒灰	1.80	*	1号溝	
94	*	*	*	*	*	2	3	C	軟	黒褐	1.50	*	1号溝	
95	*	*	*	*	*	2	3	B	差	暗灰	1.70	*	1号溝	
96	*	*	*	*	*	1	2	*	*	*	1.60	*	1号溝	
97	*	*	*	*	*	1	3	C	軟	暗灰	1.60	*	1号溝	
98	*	*	*	*	*	1	3	B	差	灰	1.60	*	1号溝	
99	*	*	*	*	*	1	2	*	*	黒灰	1.60	*	1号溝	
100	*	*	*	*	*	—	3	C	軟	黒褐	1.55	*	1号溝	
101	*	*	*	*	*	2	3	B	差	黒灰	1.70	*	1号溝	
102	*	*	*	*	*	—	3	*	*	*	1.65	*	1号溝	
103	*	*	*	*	*	1	3	*	*	暗灰	1.60	*	1号溝	
104	*	*	*	*	*	2	3	*	差	灰黄	1.75	*	1号溝	
105	*	*	*	*	*	2	3	*	差	暗灰	1.60	*	1号溝	
106	*	*	*	*	*	2	3	*	*	黒灰	1.70	*	1号溝	
107	*	*	*	*	*	2	3	*	*	灰	1.50	*	1号溝	
108	丸瓦	*	*	*	*	—	—	*	差	黒灰	1.80	*	1号溝	
109	*	*	*	*	*	—	—	*	軟	暗灰	1.70	*	2号溝	
110	*	*	*	*	*	—	—	*	軟	*	3.30	*	グリッド	火中
111	甃斗	*	*	*	*	—	—	*	差	暗灰	2.30	*	5号溝	
112	*	*	*	*	*	—	—	E	硬	黒灰	1.80	*	1号溝	転用
113	道具	*	*	*	*	—	2	B	軟	灰	2.20	*	1号溝	
114	*	*	*	*	*	—	—	E	*	黒灰	1.80	*	5号溝	転用
115	*	*	*	*	*	—	—	*	*	暗	2.10	*	1号溝	転用
116	*	*	*	*	*	—	—	*	差	灰褐	1.80	*	5号溝	転用
117	十能	*	*	*	*	—	—	C	差	黒灰	1.00	*	1号溝	
118	甃斗	*	*	*	*	—	—	E	硬	*	1.80	*	1号溝	転用
119	埴か	*	*	*	*	—	—	B	軟	*	3.40	*	1号溝	
120	*	*	*	*	*	—	—	*	*	*	3.20	*	1号溝	
121	*	*	*	*	*	—	—	*	*	暗灰	3.50	*	1号溝	
122	立物	*	*	*	*	—	—	*	*	黒灰	3.10	*	1号溝	
123	細陶	大塚	—	—	—	—	—	—	—	—	1.60	—	137号土坑	
124	女瓦	—	—	台	横溝撫 磨き	2 1	*	*	*	黒褐	1.50	なし	125号土坑	
125	細陶	大塚	—	—	—	—	—	—	—	—	1.10	—	1号溝	
126	棧瓦か	*	*	*	*	—	2	B	*	黒灰	2.00	なし	9号土坑	

## 5. 石製品 (第190~209図、P.L. 52~57)

石製品として石臼・石鉢・砥石と板碑・五輪塔を含め掲載した。

### ①石臼 (第190~200図、P.L.52~55)

出土遺構・量は、5号溝3点、15号溝1点、20号溝7点、25号溝1点、7号井戸1点、12号井戸6点、17号井戸1点、18号井戸1点、20号井戸3点、21号井戸2点、23号井戸9点、38号井戸11点、120号土坑1点、146号土坑2点、180号土坑1点、グリッド3点、不明2点の計55点が出土した。本調査により出土した石臼全てである。

1~3は、茶臼あるいは欄臼である。物入りを中央に持つ、この部分から破損している。物入れのノミ痕が明瞭に残り、孔の直径は1.5~2cm程である。1の副溝間隔は0.8cmである。2は上臼である。白面と側面に直径2.5cm、深さ1cm程の円形の凹みがある。3は受けを持つ下臼である。白面はよく摺られ溝は不明である。受け部も良く摺られている。

5~7は挽き手取付が作り出しで張り出すものである。孔は直径3cm程で貫通している。5は白本体から10cm程張り出す。7は挽き手取付部の張出が見られる。白面はよく摺られ、溝は不明である。3個とも縁の有る上臼である。

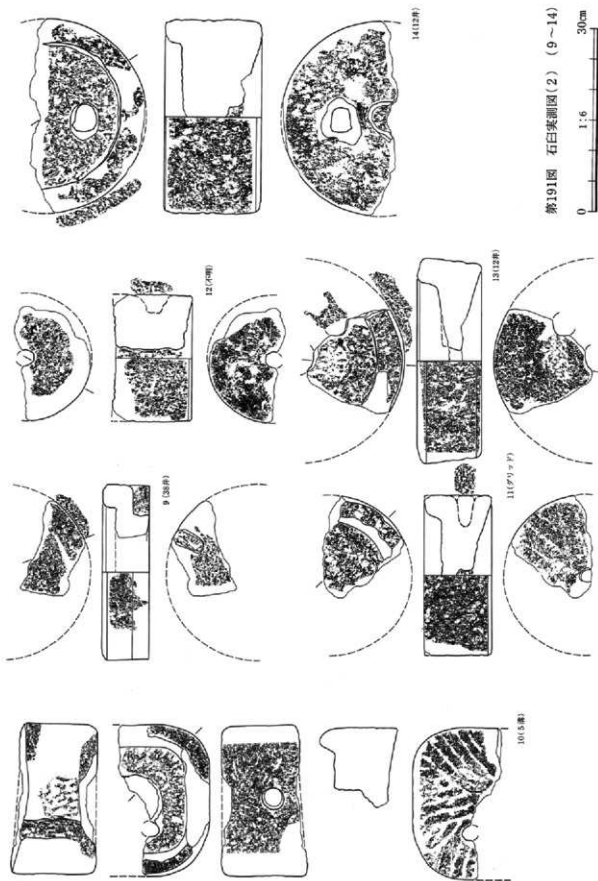
8~27は緑有りの上臼である。8~12、16・17は挽き手取付が横から打ち込むタイプである。10は一辺25cmの方形を呈する。上面中央に径8cm、深さ6cmのノミ痕の明瞭な窪みがあり、接するように径3cmのもの入れがある。白面は6分画6溝と見られる。もの入れ部に、ものくばりは見られない。挽き手取付の孔は、径3.5cm奥行き4cm程の筒型を呈する。縁部には0.9cmの幅で刻みが見られる。11は上面にノミ痕がある。白面は良く摺られ分画・溝数は不明であるが、一部副溝間隔2.5cm幅が見られる。挽き手取付の孔は直径2.5cm、奥行き5.5cmである。軸受孔は径2cm程である。12の挽き手取付の孔は径3cm、奥行き3cmと他より広く浅い。白面には幅1cm、深さ0.3cm程の「 $\square$ 」字状の溝状がある。面はよく摺られていて分画溝数は不明である。13の上面には10より浅いが、中央にノミ痕の明瞭な窪みがある。白面にはもの入れともくばりがある。14の白面は半径の約1/4のすり合わせ部が明瞭であり、中央部は荒い目立ちである。15の上部にはノミ痕がある。16は全面にススの付着がある。白面は半径の2/3がすり合わせ部と幅広くよく摺られ分画・溝は磨消している。挽き手取付の孔は4×3.5の方形を呈し奥行き4.5cmを測る。17はほぼ完形の上臼である。側面に挽き手取付の孔がある。白面はよく摺られ、分画・溝、ものくばりは不明である。18はススの付着がある。もの入れの縦位のノミ痕が明瞭に残る。白面の副溝は浅く、幅2cm程があるが分画・溝数は不明である。19の白面のすり合わせ部は半径の1/5、3.5cm程で、内側は溝幅2cmともくばりが見られる荒い目立ちである。分画・溝数は不明である。20~26は白面の半径の1/3程度がすり合わせ部で中央に荒くなる。21の上面に幅1.8cm幅で斜にノミ痕があり、縁口唇部にも刻みがある。

34・35・46・49・53・55は上臼である。34にものくばりがある。35の上面は縁が欠けたようで拓本部分のみ平滑である。共に白面の副溝幅は2cm程で、溝は浅い。46は丸みを持つ浅い縁が有る。53は6分制6溝である。53の副溝間隔1.8cmを測る。

28~33・36~45・47・48・50~52・54は下臼である。28~30・50は石材が砂岩であり、目が密で白面はなめらかである。しかしもろく、欠け口から劣化してしまう。31は本遺跡最大の石臼である。33は全面にススが付着している。36は6分制5溝に見られる39は6分制6溝。溝間隔2cm。51・54の溝間隔は2.5cmを測る。他はよく摺られ、分画・溝数不明である。すり合わせ部は半径の1/3程度である。48は半径の1/2が平坦になりすり合わせ部が広い。

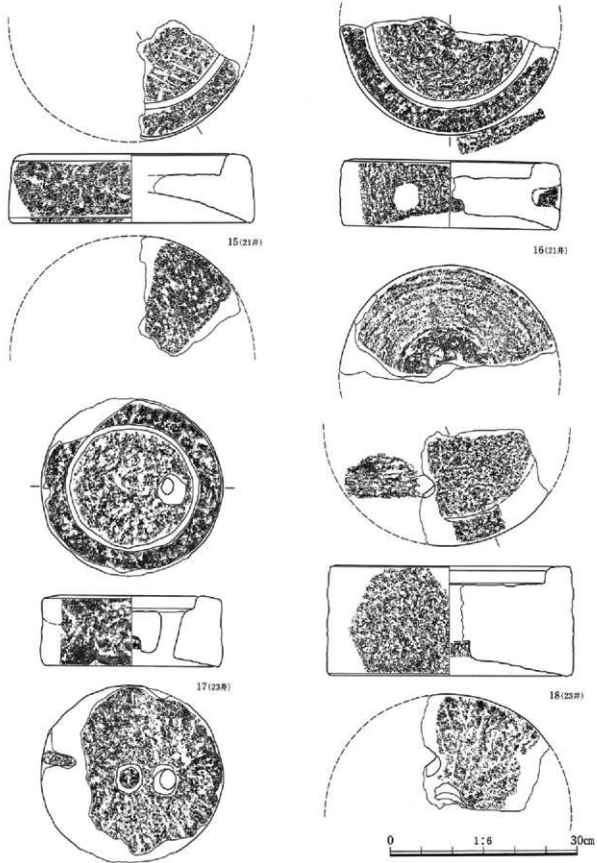


第190圖 石白実測図(1) (1~8)



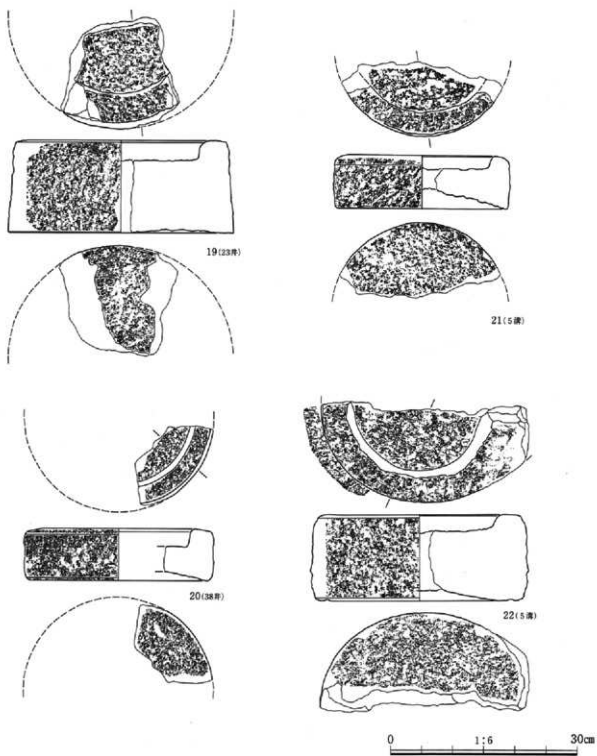
第191図 石白美洞区(2) (9~14)

0 1:6 30cm

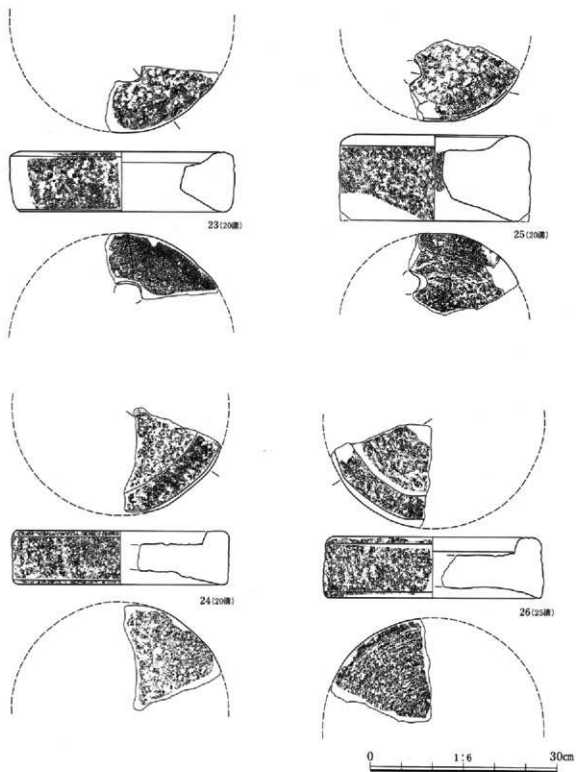


第192図 石白実測図(3) (15~18)

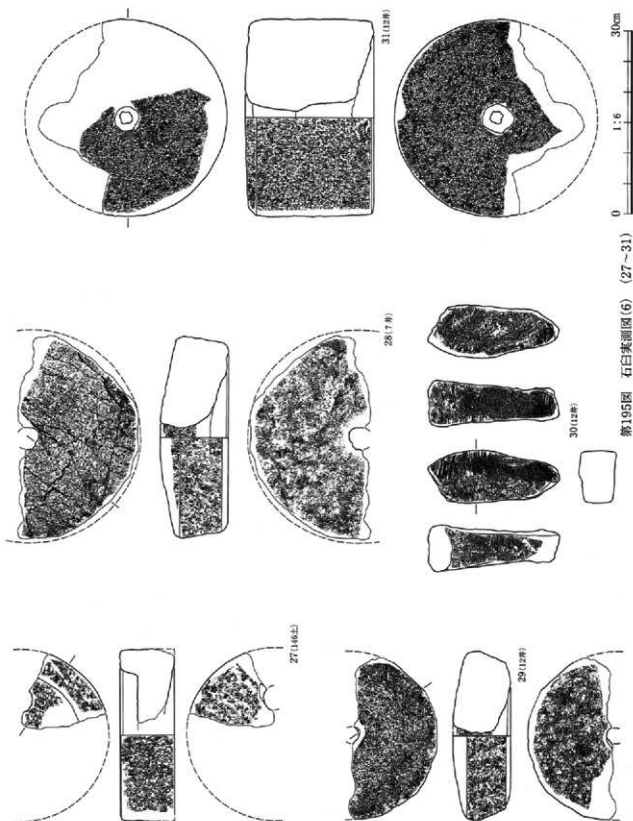




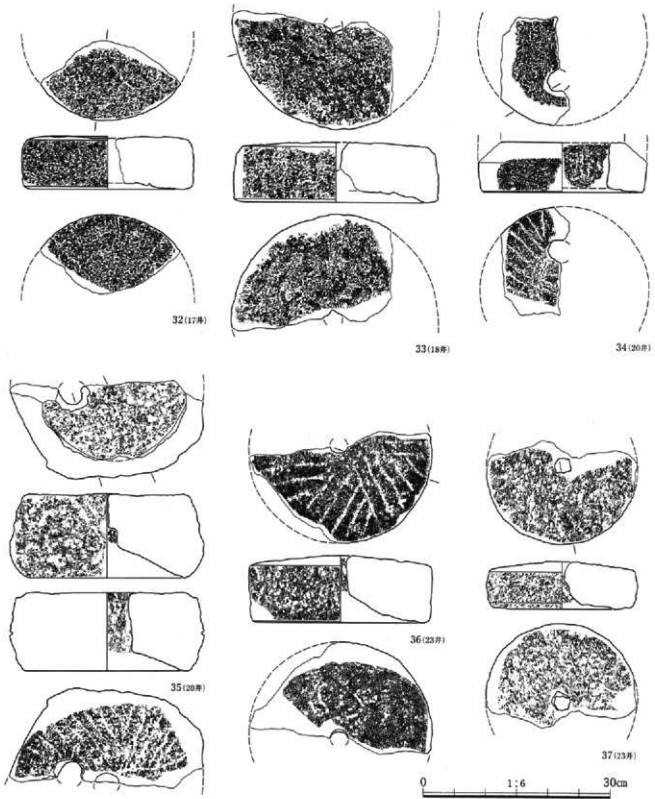
第193図 石白実測図(4) (19~22)



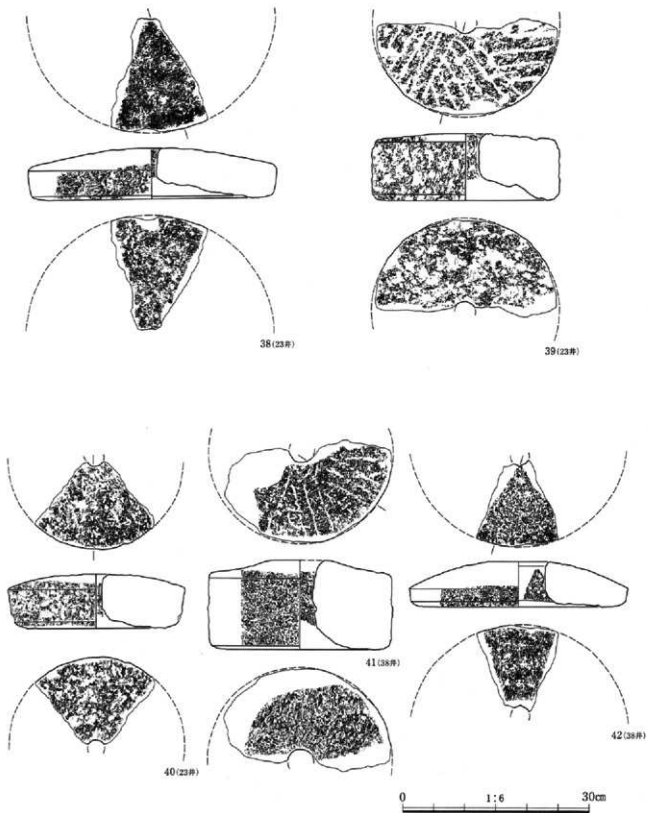
第194図 石臼実測図(5) (23~26)



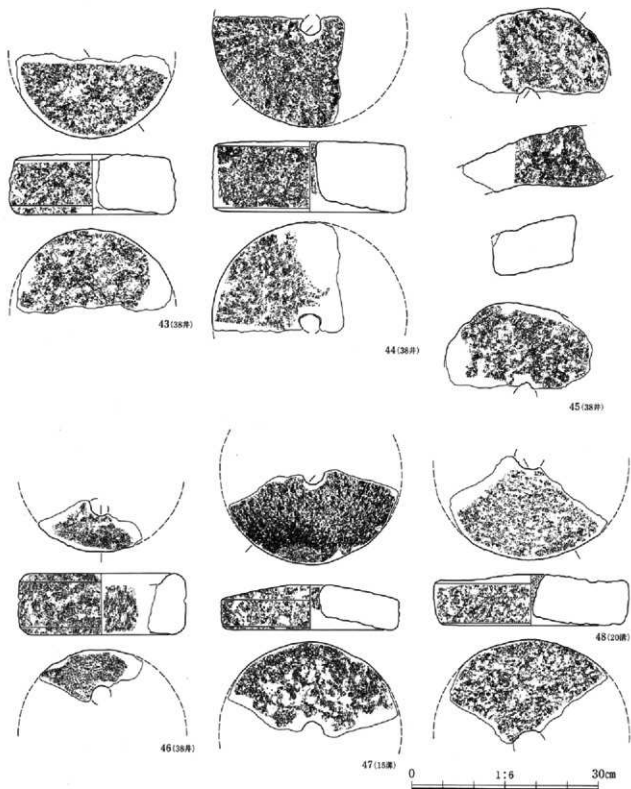
第195図 石臼実測図(6) (27~31)



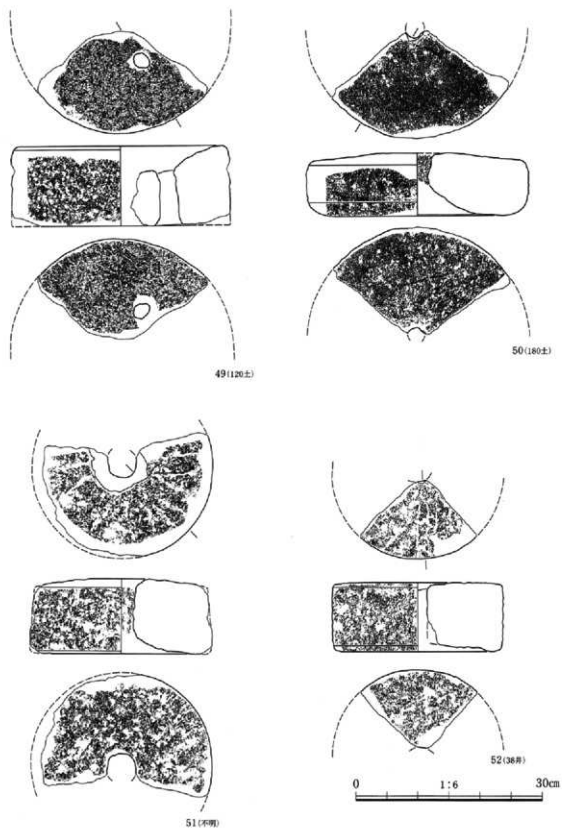
第196図 石白実測図(7) (32~37)



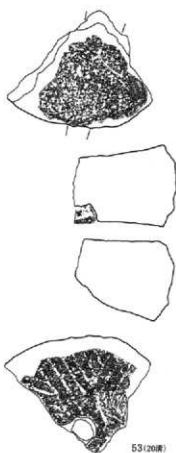
第197図 石白実測図(8) (38~42)



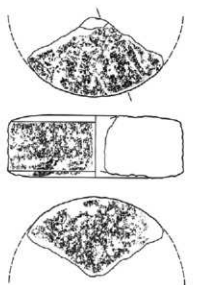
第198図 石白実測図(9) (43~48)



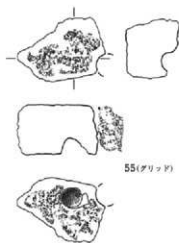
第199図 石臼実測図(10) (49~52)



53(20世紀)



54(14世紀)



55(アリタ)



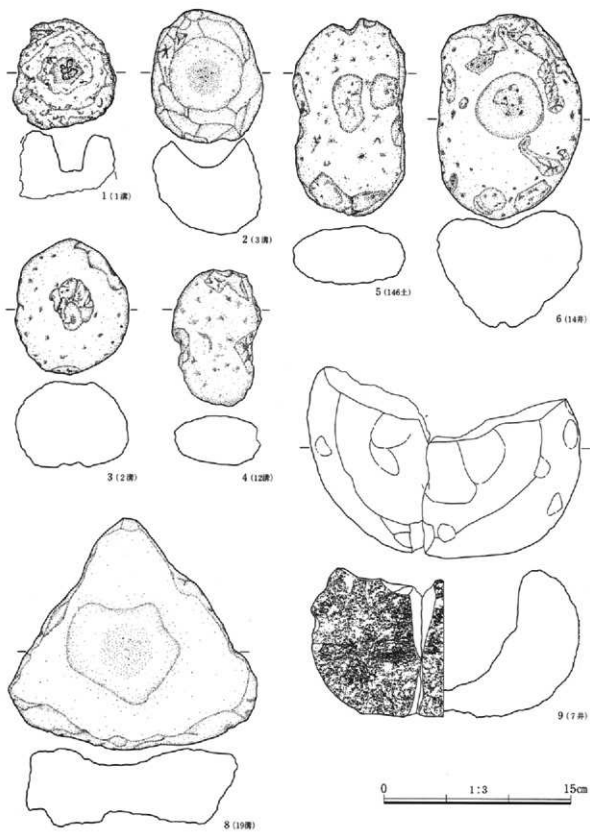
第200図 石臼実測図(11) (53~55)



## 第3章 検出された遺構・遺物

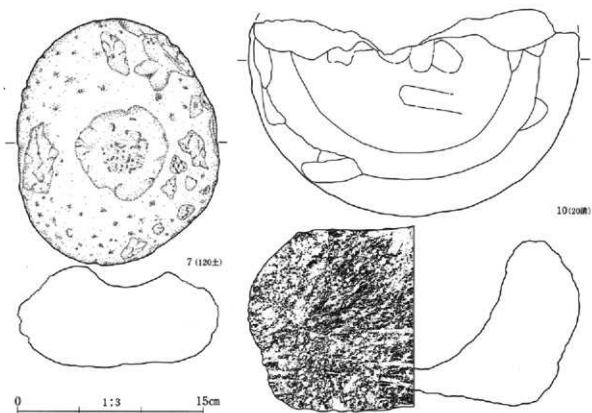
第97表 石臼計測表(第190~200図 PL. 52~55)

番号	遺構名	部種	残存	計測値 (cm, kg)		分角	薄款	石 種	備 考	
				推定直径	高さ					
1	12井戸	上白	1/4	10.3	19.6	1.0		粗粒輝石安山岩	緑有	
2	20溝	上白	1/2	19.0	11.4	1.1		粗粒輝石安山岩	緑有	
3	20溝	下白	1/6	39.6	9.5	1.9		粗粒輝石安山岩	緑有	
4	グリッド	上白	破片	-	7.5	0.7		粗粒輝石安山岩	緑有	
5	23井戸	上白	破片	14.5	7.0	1.8		粗粒輝石安山岩	緑有	
6	38井戸	上白	破片	16.4	11.2	1.0		牛伏砂岩	緑有	
7	38井戸	上白	1/4	31.0	12.2	3.9		粗粒輝石安山岩	緑有	
8	20井戸	上白	1/6	28.2	10.6	2.1		粗粒輝石安山岩	緑有	
9	38井戸	上白	破片	29.0	7.5	0.9		粗粒輝石安山岩	緑有	
10	5溝	上白	1/2	24.8	13.7	3.8	6	6	粗粒輝石安山岩	方形、緑有
11	グリッド	上白	1/6	28.4	10.7	1.8		粗粒輝石安山岩	緑有	
12	不明	上白	1/2	21.0	12.7	2.8		粗粒輝石安山岩	緑有	
13	12井戸	上白	1/4	33.8	10.3	2.1		粗粒輝石安山岩	緑有	
14	12井戸	上白	1/2	31.6	15.5	7.9		粗粒輝石安山岩	緑有	
15	21井戸	上白	1/6	39.0	11.3	2.3		粗粒輝石安山岩	緑有	
16	21井戸	上白	1/2	35.6	13.6	6.2		粗粒輝石安山岩	緑有	
17	23井戸	上白	部分欠損	29.4	11.4	11.5		粗粒輝石安山岩	緑有	
18	23井戸	上白	1/4	39.1	18.1	7.3		粗粒輝石安山岩	緑有	
19	23井戸	上白	1/6	36.4	15.1	5.2		粗粒輝石安山岩	緑有	
20	38井戸	上白	1/6	30.6	8.5	1.3		粗粒輝石安山岩	緑有	
21	5溝	上白	1/2	28.6	8.6	2.3		粗粒輝石安山岩	緑有	
22	5溝	上白	1/2	34.8	14.2	8.9		粗粒輝石安山岩	緑有	
23	20溝	上白	破片	36.4	9.7	2.0		牛伏砂岩	緑有	
24	20溝	上白	1/6	35.0	8.7	2.1		粗粒輝石安山岩	緑有	
25	20溝	上白	1/6	30.8	13.9	2.9		粗粒輝石安山岩	緑有	
26	25溝	上白	1/6	35.6	9.9	2.0		粗粒輝石安山岩	緑有	
27	146土坑	上白	破片	28.4	8.7	1.1		粗粒輝石安山岩	緑有	
28	7井戸	下白	1/2	35.2	10.9	6.6		牛伏砂岩		
29	12井戸	下白	1/2	27.8	9.3	4.1		牛伏砂岩		
30	12井戸	下白	破片	-	8.7	1.5		牛伏砂岩	灰石に転用	
31	12井戸	下白	部分欠損	32.2	30.4	20.9		粗粒輝石安山岩		
32	17井戸	下白	1/4	28.0	8.5	2.7		粗粒輝石安山岩		
33	18井戸	下白	1/3	33.4	9.6	3.8		二ツ岳石		
34	20井戸	上白	破片	27.4	8.1	1.8		粗粒輝石安山岩		
35	20井戸	上白	1/2	38.4	13.6	6.9		粗粒輝石安山岩		
36	23井戸	下白	1/2	30.0	10.9	6.1	6	5	粗粒輝石安山岩	
37	23井戸	下白	1/2	26.0	7.7	3.0		粗粒輝石安山岩		
38	23井戸	下白	1/6	39.6	8.4	1.9		粗粒輝石安山岩		
39	23井戸	下白	1/2	29.6	10.8	5.4	6	6	粗粒輝石安山岩	
40	23井戸	下白	1/4	28.4	8.8	2.4		粗粒輝石安山岩		
41	38井戸	下白	1/2	30.0	14.6	4.9		二ツ岳石		
42	38井戸	下白	1/6	35.4	7.4	1.0		粗粒輝石安山岩		
43	38井戸	下白	1/2	27.0	9.8	3.6		粗粒輝石安山岩		
44	38井戸	下白	1/4	31.6	11.5	5.6		粗粒輝石安山岩		
45	38井戸	下白	1/2	-	10.7	3.1		粗粒輝石安山岩		
46	38井戸	上白	破片	-	9.8	1.1		粗粒輝石安山岩	緑有	
47	15溝	下白	1/2	29.2	7.2	3.3		粗粒輝石安山岩		
48	20溝	下白	1/4	31.6	8.3	2.5		粗粒輝石安山岩		
49	120土坑	上白	1/2	35.0	12.9	5.6		粗粒輝石安山岩		
50	180土坑	下白	1/4	36.0	10.2	5.3		牛伏砂岩		
51	不明	下白	1/2	30.6	12.2	7.8		粗粒輝石安山岩		
52	38井戸	下白	1/4	27.6	11.2	2.8		粗粒輝石安山岩		
53	20溝	上白	1/4	20.4	13.4	5.0	6	6	粗粒輝石安山岩	
54	146土坑	下白	1/4	28.4	10.1	2.9		粗粒輝石安山岩		
55	グリッド	上白	破片	-	8.0	1.2		粗粒輝石安山岩		



第201図 窪石実測図(1) (1~6・8・9)

第3章 検出された遺構・遺物



第202図 窪石実測図(2) (7・10)

②窪石 (第201・202図、P.L. 55)

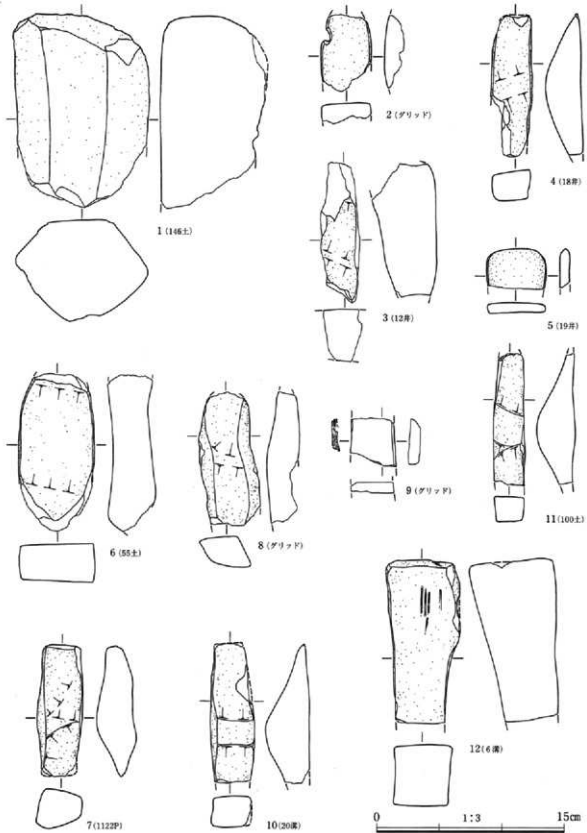
出土遺構・量は、1号溝・2号溝・3号溝・12号溝・19号溝・20号溝・7号井戸・14号井戸・120号土坑・146号土坑各1点の計10点である。石材は1の二ツ岳石のほかは粗粒輝石安山岩である。1～8は窪石、9・10は石鉢である。本遺跡から出土した同様の窪石は全て図化した。

第98表 窪石計測表(第201・202図 PL. 55)

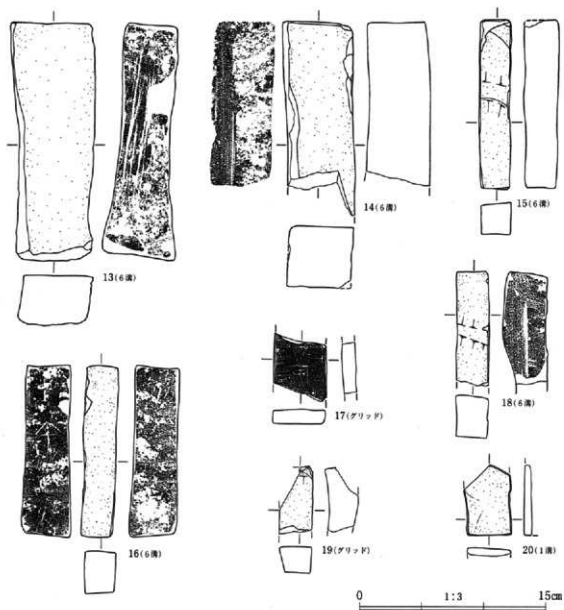
番号	出土位置	計測値 (cm・g)			石材	備考
		長さ	幅	厚さ		
1	1溝	(9.0)	(8.3)	5.4	261.9	二ツ岳石 窪み部分の径は33mm、深さ30mmを測る
2	3溝	10.8	10.7	8.0	723.2	粗粒輝石安山岩 窪み部分の径は58mm、深さ22mmを測る
3	2溝	11.1	9.0	7.3	760.7	粗粒輝石安山岩 窪み部分の径は33mm、深さ3mmを測る
4	12溝	(11.2)	7.9	4.0	350.5	粗粒輝石安山岩 長軸側面を削り、窪ませる
5	146土坑	16.0	8.9	4.7	812.8	粗粒輝石安山岩 長軸側面を削り、窪ませる
6	14井戸	16.7	11.5	9.5	1893.0	粗粒輝石安山岩 窪み部分の径は35mm、深さ10mmを測る
7	120土坑	19.9	16.2	8.5	3049.6	粗粒輝石安山岩 窪み部分の径は162mm、深さ98mmを測る
8	19溝	19.6	19.0	6.4	2276.2	粗粒輝石安山岩 窪み部分の径は83mm、深さ15mmを測る
9	7井戸	22.5	21.9	12.1	2057.7	粗粒輝石安山岩 窪み部分の径は75mm、深さ16mmを測る
10	20溝	26.4	26.4	15.0	5417.5	粗粒輝石安山岩 窪み部分の径は残存123mm、深さ110mmを測る

③砥石 (第203・204図、P.L. 57)

本遺跡から砥石は、101点出土した。古代2点、中世15点、中・近世11点、19世紀後半15点、近世59点である。出土遺構は1号溝から中近世2点、19世紀後半5点、近世24点、計31点と最も多く、その他の溝から中世2点、



第203図 砥石実測図(1) (1~12)



第204図 砥石実測図(2) (13~20)

第99表 砥石計測表 (第203-204図 PL. 57)

番号	出土位置	計測値 (cm) (g)				石材	番号	出土位置	計測値 (cm) (g)				石材
		長さ	幅	厚さ	重さ				長さ	幅	厚さ	重さ	
1	146土	(15.8)	10.8	8.1	1244.5	粗粒輝石安山岩	11	100土	(10.8)	2.5	3.1	107.9	砥沢石
2	グリッド	(6.3)	4.0	1.6	27.2	粗粒輝石安山岩	12	6溝	(13.4)	5.8	7	738.6	砂岩
3	12井戸	(11.5)	(3.2)	4.3	208.8	砥沢石	13	6溝	19.4	6.8	5.9	1041.2	砂岩
4	18井戸	(10.6)	3.3	2.8	126.1	砥沢石	14	6溝	(16.0)	5.9	5.1	792.1	流紋岩
5	19井戸	(3.3)	4.7	0.8	12.5	粗粒輝石安山岩	15	6溝	14.4	2.5	2.8	187.8	砥沢石
6	55土	(13.0)	6.1	3.8	423.3	砥沢石	16	6溝	14.1	2.6	3.9	273.1	砥沢石
7	112pit	17.0	3.6	3.25	149.0	砥沢石	17	グリッド	(5.5)	4.2	1.15	41.7	流紋岩
8	グリッド	(11.0)	4.8	2.5	166.9	砥沢石	18	6溝	(9.3)	2.6	3.4	161.7	デイサイト
9	グリッド	(3.9)	3.5	0.9	18.7	砂岩	19	グリッド	(5.5)	2.6	2.15	42.9	流紋岩
10	20溝	(11.4)	3.6	3.5	161.7	砥沢石	20	1溝	(5.8)	3.7	0.65	15.7	流紋岩質礫灰岩

中近世3点、近世12点、井戸から中世1点、近世3点、土坑から中世1点、19世紀後半1点、近世10点、その他ピット・グリッド・表採である。これらの内、特徴的・代表的なもの20点を掲載した。掲載した遺構・点数は1号溝1点、6号溝6点、20号溝1点、12号井戸・18号井戸・19号井戸、55号土坑・100号土坑・146号土坑、1122号ピット各1点、グリッド5点の計20点である。

1・2は古代、3～9は中世、10・11号井戸は中・近世、12～20号土坑は近世の所産である。特に15・16は19世紀後半の所産である。1・2は荒砥で、1は角柱状を成し、鉄生産（製作）との関連が示唆される。4・7・10・11は歯付砥で、それぞれに時期差が見られる。9は鋸挽目（仕上げ用）である。10・11の接目は太い。12・13は九州大村砥に相当が、九州の砂岩かは不明である。19は中砥の小日向砥石である。

#### ④板碑（第205図、P.L. 57）

出土遺構は、1号溝・2号溝各1点、5号溝3点、20号溝4点、45号土坑1点である。その他に剥片が1号溝・4号溝・5号溝・6号溝・21号溝、55号土坑・67号土坑・71号土坑・200号土坑、20号井戸・23号井戸・26号井戸から計21片が出土している。掲載した遺構・点数は、1号溝1点、2号溝1点、5号溝3点、20号溝4点、45号土坑1点、表採1点の計11点で、掲載した板碑は比較的大きな破片で種子のわかるものも6点ある。

5は45号土坑北東隅中層より出土した。9は20号溝五輪塔等と一緒に出土し、周辺の剥落破片が接合した。4と7は、阿弥陀如来種子である。主尊中位以下欠損のため一尊か三尊かは不明である。5は、阿弥陀三尊種子板碑である。主尊キリクと主尊連座・脇侍の一部が残る。9は、紀年銘が一部判読でき、「元〔徳〕□□〔二〕□」である。11は銘の一部が判読できるが、一尊か三尊かは不明である。

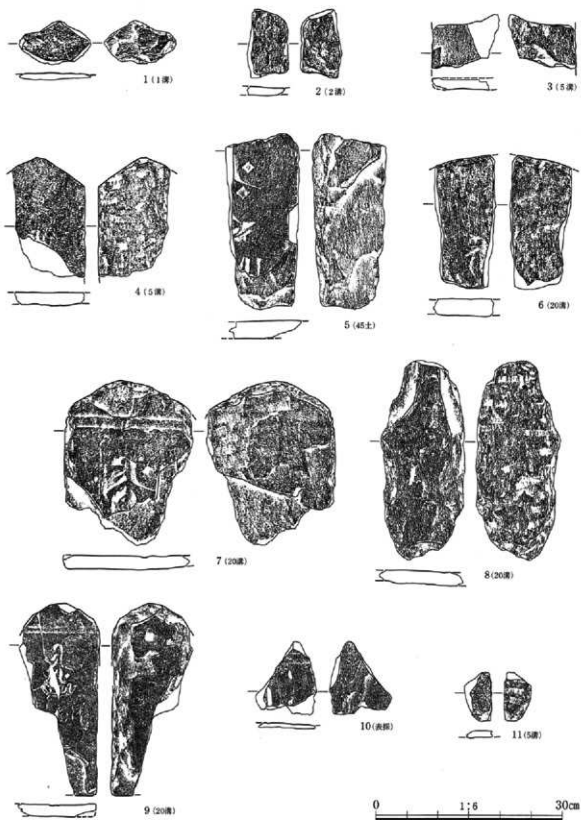
第100表 板碑観察表（第205図 PL.57）

番号	出土位置	残存状態	計測値 (cm) (g)			石材	器形・技法等の特徴	備考	
			高さ	幅	厚さ				重量
1	1号溝	破片	(7.0)	(11.4)	(1.0)	1300	緑色片岩	縁飾が二条ほど見られる。	部位不詳。
2	2号溝	上部破片	(11.1)	(6.6)	(1.4)	1813	緑色片岩	二条線なし。	頂部山形の右片部破片。
3	5号溝	側部破片	(8.8)	(10.6)	1.9	2132	緑色片岩	碑面磨光。	碑中央側部破片。
4	5号溝	上部破片	(19.5)	(11.5)	2.1	8579	緑色片岩	二条線なし。碑面やや摩滅。裏面に幅8mmの工具（石ノミ）痕残。	阿弥陀如来種子板碑。
5	45号土坑	右側部破片	(28.6)	(11.7)	2.8	13742	緑色片岩	種子・連座は浅い薬研形。碑面やや摩滅。	阿弥陀三尊種子板碑。
6	20号溝	上部破片	(21.5)	(9.8)	2.9	12123	緑色片岩	主尊及び連座は浅い割竹形。碑面摩滅大。二条線なし。	阿弥陀種子板碑。
7	20号溝	下部欠損	(26.6)	(20.4)	2.3	19215	緑色片岩	種子は浅い薬研形。二条線有り。碑面やや摩滅。	阿弥陀如来種子板碑。
8	20号溝	破片	(32.2)	(14.0)	2.2	16926	緑色片岩	裏面に幅1cmほどの横方向の工具（石ノミ）痕残。	基部破片か。
9	20号溝	上部1/2強	(31.0)	(12.8)	2.0	10324	緑色片岩	種子は浅い薬研形。二条線有り。	阿弥陀如来一尊種子小型板碑。
10	表採	上部破片	(12.0)	(9.9)	(0.8)	1257	緑色片岩	主尊の一部しか残らず。	阿弥陀如来種子板碑。
11	5号溝	剥離破片	(8.0)	(4.5)	(1.0)	608	緑色片岩	裏面に幅9mm程の工具（石ノミ）痕が残る。種子は浅い薬研形。二条線有り。碑面やや摩滅。	部位不詳。

#### ⑤五輪塔（第206～209図、P.L. 56）

掲載した五輪塔は、火輪5点、水輪1点、地輪19点である。出土遺構は5号溝2点、20号溝8点、25号溝1点、3号井戸4点、12号井戸2点、23号井戸・26号井戸・28号井戸各1点、38号井戸3点、26号ピット1点、グリッド1点の計25点である。20号溝、38号井戸で出土量が多い。20号溝では集中して出土し、38号井戸でも同層に集中して出土した。本遺跡から出土した五輪塔関係の遺物は全て図化した。

第3章 検出された遺構・遺物

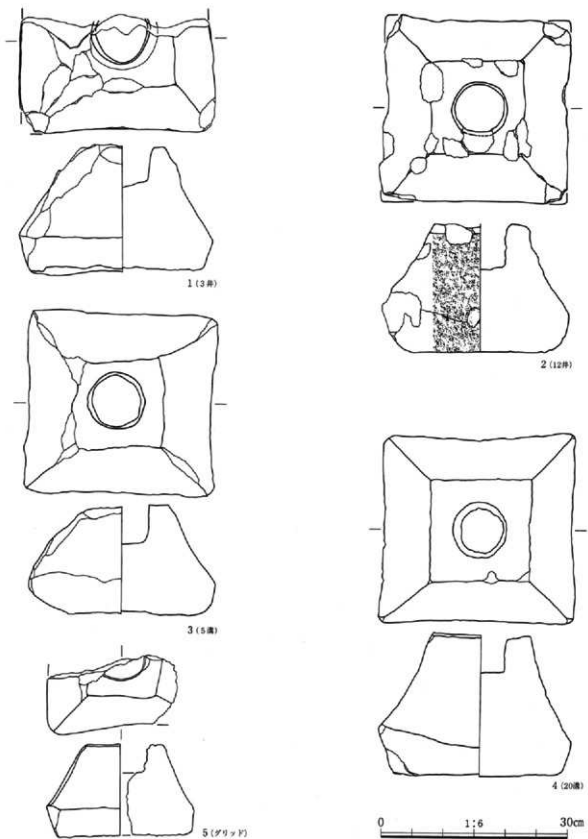


第205図 板碑実測図(1~11)

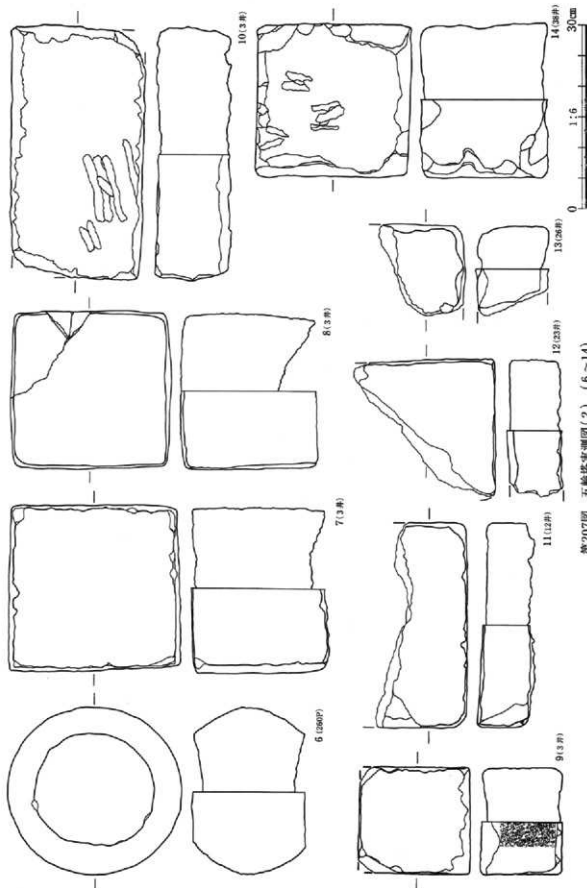
第101表 五輪塔観察表 (第206~209図 PL.56)

番号	種別・部種	出土位置	量目 (cm) (kg)			石材	備考
			最大幅	高さ	重量		
1	火輪	3井戸	31.4	21.0	12.0	粗粒輝石安山岩	磨滅少なく、均整のとれた形状を示す。整形は良好で表面を磨く。四隅は反り、底面はやや凹む。半分欠損。
2	火輪	12井戸	30.3	20.7	20.6	粗粒輝石安山岩	やや磨滅。側面は磨滅により反りが無くなる。底面は平坦である。
3	火輪	5溝	30.7	18.0	15.5	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は均整がとれ、四隅は反り、底面は中央が凹む。整形は良好である。
4	火輪	20溝	31.0	23.0	24.9	粗粒輝石安山岩	磨滅少。均整のとれた形状で、四隅が反る。底面がやや凹む。整形は良好で表面を磨く。
5	火輪	グリッド	20.6	14.9	3.2	粗粒輝石安山岩	磨滅少。破損大。四隅は反り、底面は平坦である。整形は良好である。
6	水輪	200ピット	27.6	17.8	16.7	粗粒輝石安山岩	磨滅・破損なし。形状は均整の取れた円形を呈する。最大径が中央にあり、胴が張る。上下面は浅く皿状に凹む。整形は表面を磨く。ススが多く付着する。
7	地輪	3井戸	27.2	21.8	25.2	粗粒輝石安山岩	磨滅少。整形は良好で表面を磨く。下面は皿状に凹む。ススが付着し、鉄分沈着が見られる。
8	地輪	3井戸	25.6	21.9	22.0	粗粒輝石安山岩	磨滅破損極少。形状は均質な直方体を呈し、底面は皿状に凹む。整形は表面を丁寧に磨く。
9	地輪	38井戸	17.8	12.9	6.7	粗粒輝石安山岩	磨滅少。小型の直方体である。上面は浅く皿状にくぼみ、底面は粗雑に平坦である。鉄分沈着。
10	地輪	3井戸	41.2	12.0	13.8	粗粒輝石安山岩	磨滅少。整形は面を整える程度である。長方形を呈し、上面に錆具痕が見られる。底面は中央でやや凹む。ススの付着が多い。
11	地輪	12井戸	33.4	9.0	4.6	粗粒輝石安山岩	やや磨滅。破損大。形状は長方形を呈し、上面は磨くが、底面は平坦に整える程度である。
12	地輪	23井戸	22.5	8.8	4.2	粗粒輝石安山岩	磨滅少。良く整形され、上面は磨かれ、底面も平坦に整えられる。
13	地輪	26井戸	13.6	11.7	1.9	粗粒輝石安山岩	やや磨滅。破損大。形状は直方体を呈し、上面は整えられ、底部は深く凹む。
14	地輪	38井戸	24.7	20.2	17.7	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は直方体を呈し、整形は良好で表面が磨かれる。特に上面はよく磨く。底面はやや凹む。
15	地輪	28井戸	32.4	12.2	8.2	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は低い直方体を呈し、上面は平坦に整えるが、底面は錆具痕を残す成形である。
16	地輪	38井戸	19.3	14.3	9.4	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は正直方体を呈し、成形は良好で表面を磨く。底部の一部欠損。
17	地輪	5溝	31.5	24.0	28.0	二ヶ岳石	磨滅少。上面はやや張る。側面正面は良く磨かれるが、多の面は錆具痕が見られる。底部は浅く皿状に凹む。
18	地輪	20溝	23.7	17.7	16.6	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は正直方体を呈し、成形は良好で表面を磨く。底部中央にくぼみがある。スス付着。
19	地輪	20溝	23.0	19.0	16.5	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は正直方体を呈し、成形は良好で表面が磨かれる。底面は浅い皿状を呈する。スス付着。
20	地輪	20溝	19.7	13.7	6.7	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は正直方体を呈し、成形は良好で表面は磨かれる。上部は張り、底面はやや凹む。スス付着。
21	地輪	20溝	31.0	9.7	13.4	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は高さの低い直方体。成形は良好である。上面を磨く。底面は平坦である。
22	地輪	20溝	24.8	19.0	19.5	粗粒輝石安山岩	磨滅少。破損有り。火受けによるものかススも付着する。成形は良好で表面が磨かれる。底部は皿状に凹む。側面に磨きあり。
23	地輪	20溝	30.9	20.7	20.2	粗粒輝石安山岩	磨滅少。形状は正直方体。成形は良好で表面を磨く。底面はやや凹む。スス付着。
24	地輪	20溝	21.7	8.5	4.2	粗粒輝石安山岩	磨滅少。破損大。小型である。形状は長方形に近い。成形は整える程度である。
25	地輪	25溝	29.5	8.5	9.8	粗粒輝石安山岩	やや磨滅。平常は高さの低い直方体。成形は整える程度である。角を欠損する。スス付着・鉄分凝結付着。

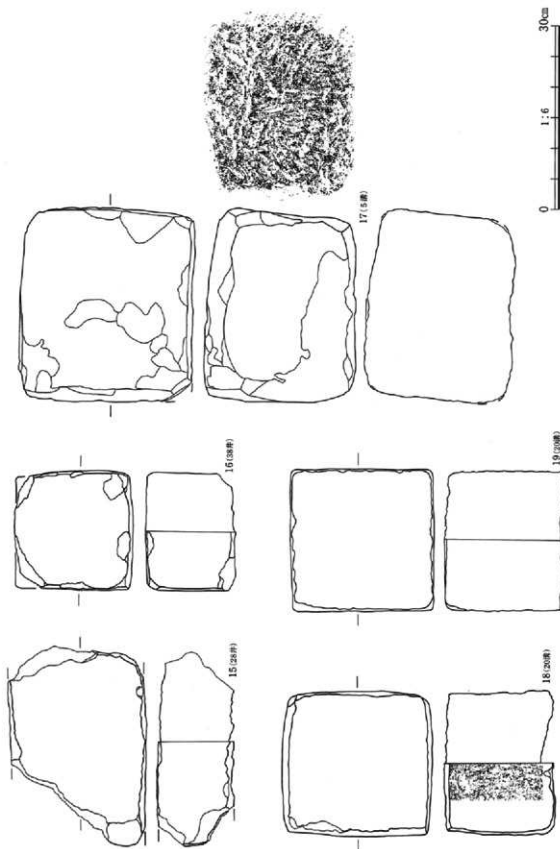




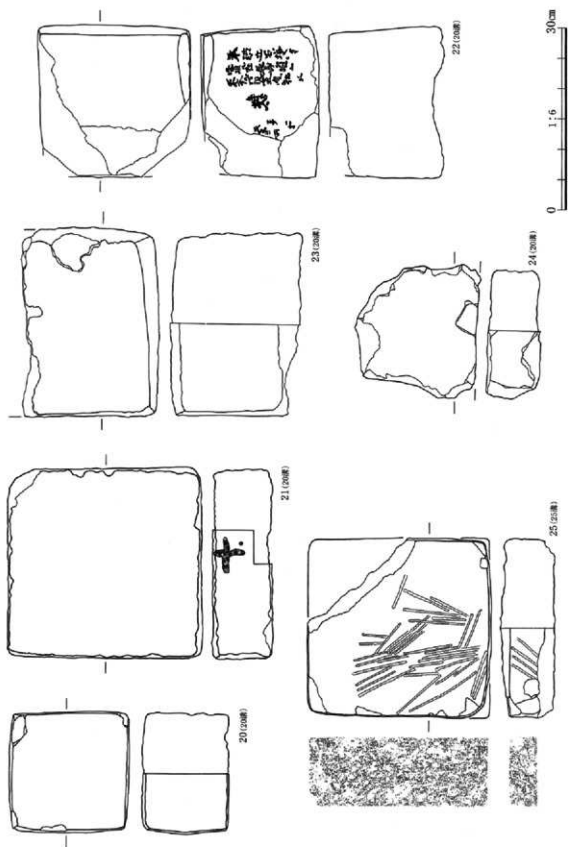
第206図 五輪塔実測図(1) (1～5)



第207図 五輪塔実測図(2) (6~14)



第208図 五輪塔基壇区(3) (15~19)



第209圖 五輪塔実湖園(4) (20~25)

6. 木製品 (第210～216図、P.L. 58～60)

本遺跡から出土した木製品を一括掲載する。蘇民将来符、椀、曲げ物、桶底板、籠、下駄、板材等が出土した。出土遺構は、39号井戸から蘇民将来符3点(1～3)、5号溝から蒔絵漆椀(5～20)、桶底板(26～28・32)、下駄(35)と土留めに使われた材に混じって建築材(41～44)が出土した。その他に7号井戸・17号井戸から蒔絵漆椀が出土した。本遺跡より出土した木製品は25号井戸桶を除き全て図化した。

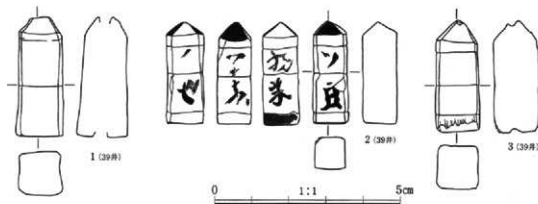
①蘇民将来符(第210図、口絵3)

1～3は、39号井戸から一括出土した「蘇民将来符」である。「蘇民将来符」は民間信仰の蘇民将来信仰の護符であり、この護符・呪符には信濃国分寺八角堂の六角柱状の立体的なものや、南勢・志摩地方の注連飾りの札など平面的なものが見られる。本遺跡出土は立体的なものである。信濃国分寺では八角堂縁日に頒布されるもので、上田市指定民俗文化財である。当地では古説話に基づきドロヤナギの木が使われている。本遺跡出土の1～3ともに材はヤナギ属を用いている。形状は四角柱状を呈し、側面を面取りする。上端部は錘形に斜めに削り出している。上端部の四面のうち、対になる2箇所に墨が塗られ黒色となる。胴部には天地を僅かに空間部を残し、横方向に3本の沈線により2等分割される。この割付の浅い線刻が4面に施され、その分割内部には1文字ずつ配置されるようにあり、2の1面に「ソ」「民」の2文字が配置されている。1は長さ3.3cm、最大幅1.4cm、最大厚さ1.3cmを測る。釈文は不明である。材の中心部には穴があり、貫通していた可能性が高い。各面の摩耗が甚だしく僅かに墨は見られるが、釈文の判読できない。2は長さ2.8cm、最大幅1.0cm、最大厚さ0.9cmを測る。3個体中最小である。各面の摩耗は甚だしいが釈文「ソ民将来□□□也」の墨書が見られる。(蘇民将来子孫人也)と思われる。「ソ民」の文字の左面に「将来」の文字が見られ、右回りに文字が記される。3は長さ3.1cm、最大幅1.1cm、最大厚さ1.3cmを測る。また、釈文の判読はできない。墨書については実物の文字の滲みが激しく不明瞭のため、写真図版で見られるよう口絵にカラーで4面掲載した。出土した39号井戸は5号溝の内部の北辺中央部に位置し、覆土内より近世磁器碗(160)や布片(口絵3)も出土している。覆土は人為的埋土で下層にはスギの葉等が多量にあり、埋没は近現代と考えられる。

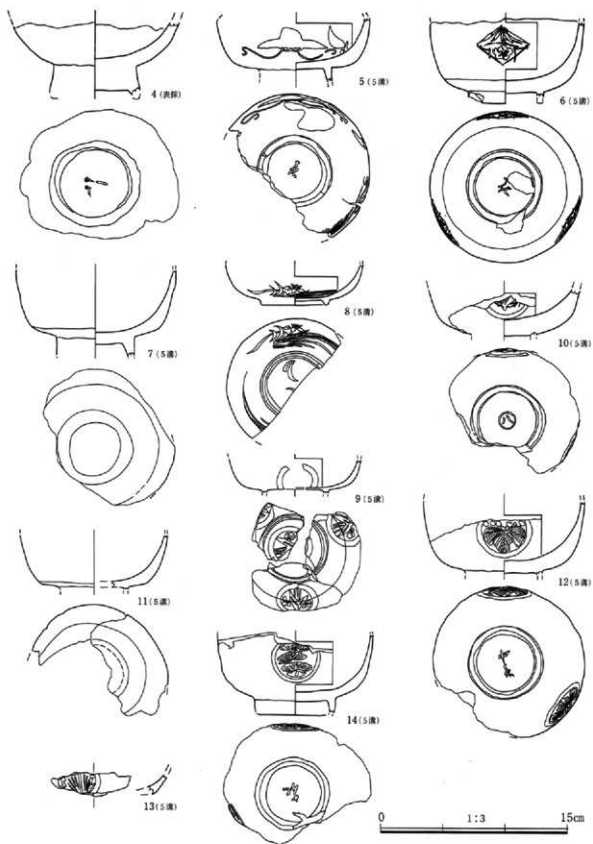
②椀(第211・212図、P.L. 58・59)

4～22は、漆椀である。椀は漆の塗り方と文様により3分類した。①蒔絵椀。朱漆や蒔絵で家紋や文様を描くもの。②外は黒漆、内は朱漆を塗るもの。③内外朱漆を塗るもの

①に分類した文様のあるものは10点である。5・6・8・9・12・14・19・20は内面朱漆、外面黒漆塗りである。10・13は、内外面黒漆塗りである。5は外面に朱漆で笠文、高台内に「え」を朱漆描きする。6は

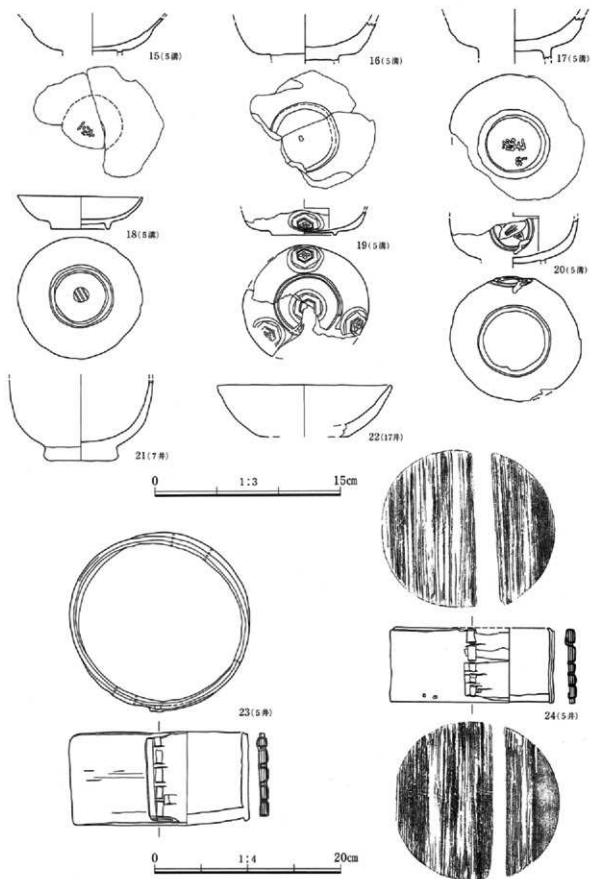


第210図 木器(蘇民将来符)実測図(1) (1～3)

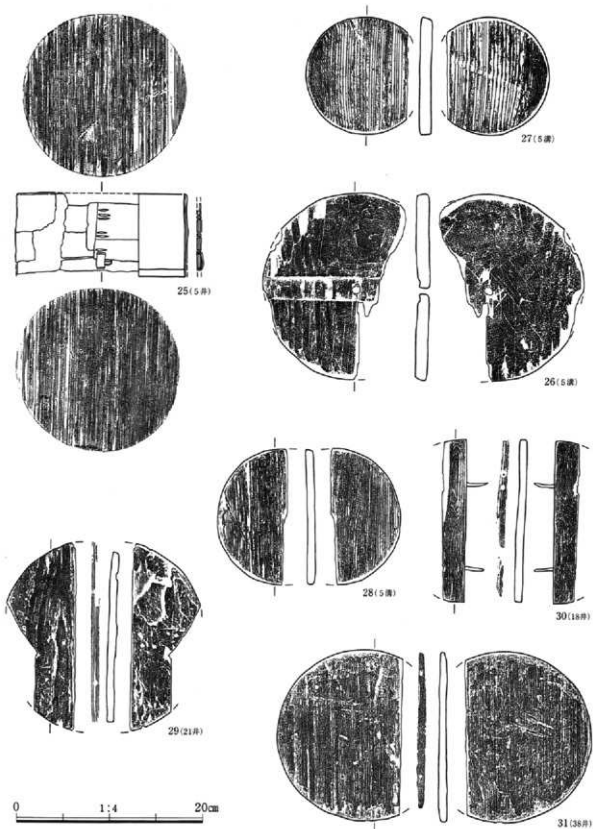


第211図 木器(椀)実測図(2) (4~14)

第3章 検出された遺構・遺物

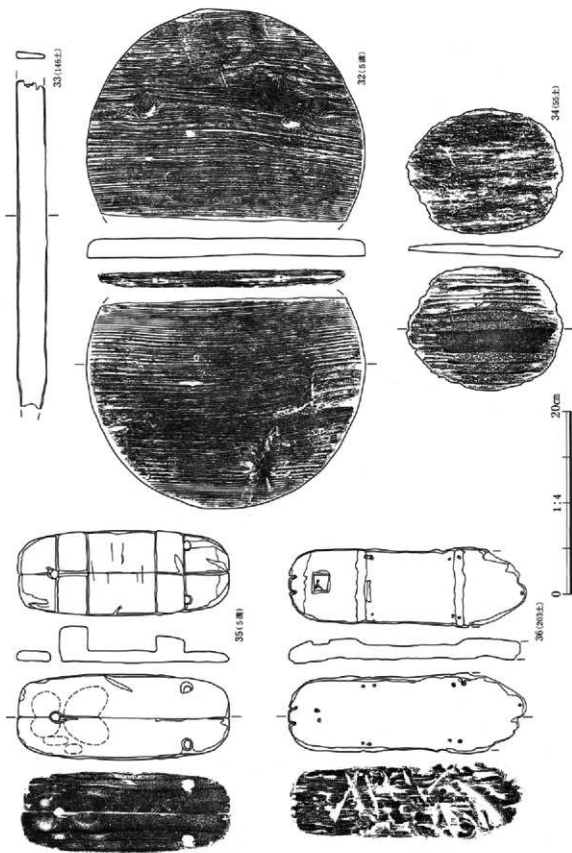


第212図 木器(椀・曲物)実測図(3) (15~24)

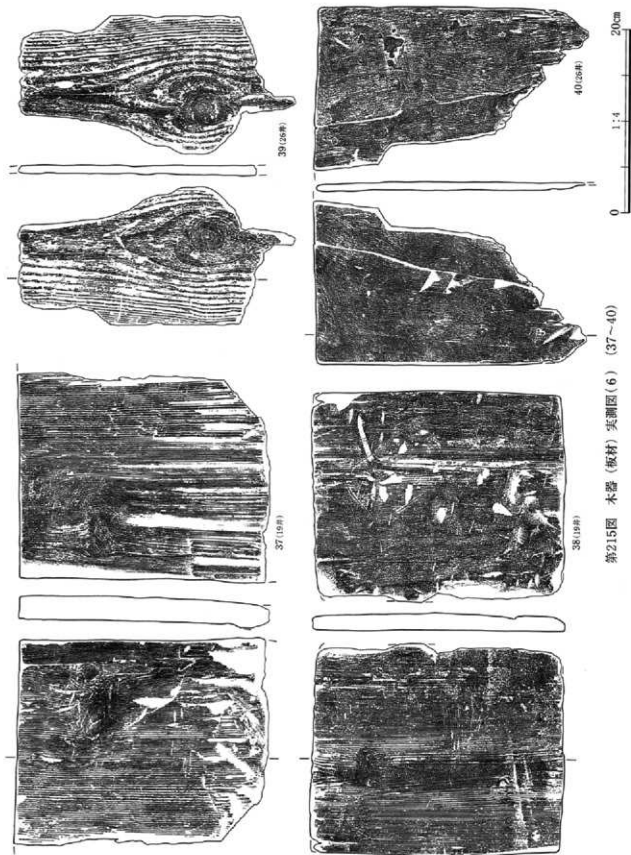


第213図 木器（曲物・橋板）実測図（4）（25～31）

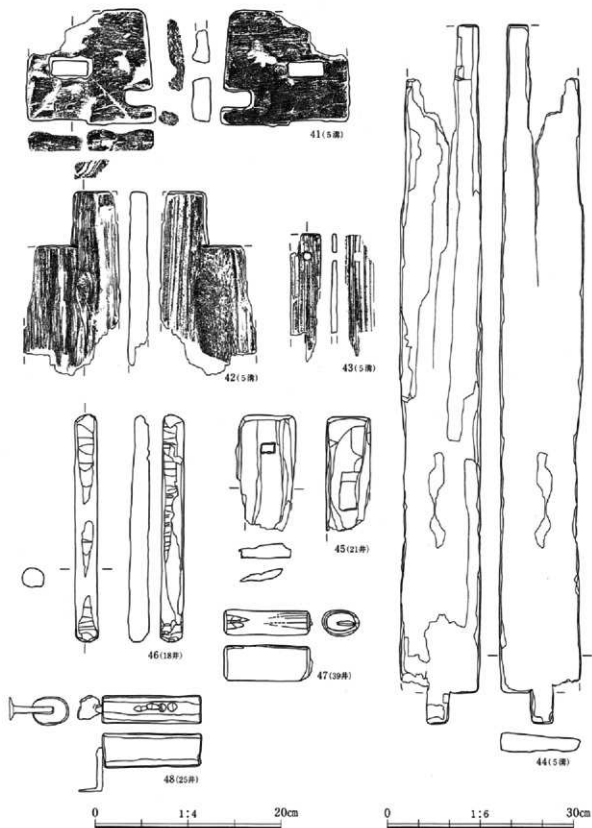




第214図 木器(桶板・下駄)実測図(5) (32~36)



第215図 木器(板材)実測図(6) (37~40)



第216図 木器(建築材他)実測図(7) (41~48)

外面に朱漆で竜胆文、高台内に「𪛗」を朱漆描きする。8は外面に蒔絵桔梗文、高台内に不明銘を朱漆書描きする。9は外面及び高台内に朱漆で「丸に立沢菊文」を描く。12は外面に蒔絵「丸に五三の桐文」、高台内に朱漆「中𪛗」を描く。14は外面に朱漆で「丸に左三階松」、高台内に「𪛗」を描く。19は外面及び高台内に蒔絵「丸に亀甲花菱」を描く。20は外面に蒔絵による丸文が描かれる。10は外面朱漆描き丸文があり、高台内に蒔絵「丸八」文が描かれる。13は外面朱漆描き丸文がある。

②に分類したものは3点である。7・21・22である。4は高台が高く3cm程ある。高台内に朱漆描き不明銘がある。21の高台はくり抜かれず平底である。外面の漆剥落が激しく木地が現れている。

③に分類したものは5点である。7・11・15・16・17・18は内外朱漆を塗るもので、18以外はともに上塗の朱漆の剥落が激しく、下・中塗の黒漆や木地が露出している。また器形の特徴として腰部に稜がある。15・17の高台内に黒漆描き文字がある。15は「九二」で、17は「源・」の不明文字である。18の高台内には「九割三引」文がある。

### ③曲物・桶板・襖・下駄 (第212～214図、P.L. 59・60)

23～25は5号井戸底面より出土した曲物である。3個体とも蓋・底板の付いた完形品である。ヒノキ材を柃目に割り2～3mmに割がされた銅板2枚を円形に曲げ、木さしの穴に板皮で綴じられ、板が付けられる。大きさは、23・25はほぼ同規模で直径6寸、高さ3寸のほぼ1升である。24は一回り小さく直径5寸高さ2.7寸、8合程度である。26～32は桶板である。最小の27は直径13cm(4寸)、最大は32の直径30cm(1尺)である。29・30は板継の跡穴がある。33は井戸に変更した146号土坑底面から出土した。板は脆く取上できなかった。35・36は下駄である。35は5号溝材集中地点から出土した。中心から割れている。指の圧痕が明瞭である。36は203号土坑底面から出土した。表面は掻き痕が多数見られる。

第102表 木製品計測表 (第210～216図 口絵3 PL.58～60)

番号	出土位置	器種	計測値 (mm)			器種	備考	番号	出土位置	器種	計測値 (mm)			器種	備考
			長 (口径)	短 (底径)	器高						長 (口径)	短 (底径)	器高		
1	39 井戸	護符	14	13	33	ヤナギ属		25	5 井戸	曲物	-	182	91	ヒノキ	
2	39 井戸	護符	10	9	28	ヤナギ属		26	5 溝	桶板	230	-	14	アカマツ	
3	39 井戸	護符	13	11	31	ヤナギ属		27	5 溝	桶板	130	-	13	ヒノキ	
4	表様	碗	-	71	(59)	-	漆地	28	5 溝	桶板	149	-	9	アスナロ	
5	5 溝	碗	-	(58)	(53)	-	漆地	29	21 井戸	桶板	205	-	95	アカマツ	
6	5 溝	碗	-	(58)	(65)	-	漆地	30	18 井戸	桶板	(179)	-	9	スギ	
7	5 溝	碗	-	-	(70)	-	漆地	31	38 井戸	桶板	185	-	8	ヒノキ	
8	5 溝	碗	-	(53)	(33)	-	漆地	32	5 溝	桶板	300	-	19	スギ	
9	5 溝	碗	-	(52)	(24)	-	漆地	33	146 土坑	蓋	357	31	7	ネズコ	
10	5 溝	碗	-	-	(38)	-	漆地	34	55 土坑	礎板	(167)	(135)	10	スギ	
11	5 溝	碗	-	-	(43)	-	漆地	35	5 溝	下駄	227	92	38	ヒノキ	
12	5 溝	碗	-	-	(58)	-	漆地	36	203 土坑	下駄	255	88	27	アカマツ	
13	5 溝	碗	-	-	-	-	漆地	37	19 井戸	板材	(270)	(223)	26	トウヒ属	
14	5 溝	碗	-	(63)	(65)	-	漆地	38	19 井戸	板材	272	230	19	五葉松類	
15	5 溝	碗	-	-	(27)	-	漆地	39	26 井戸	板材	(298)	(150)	9	アカマツ	
16	5 溝	碗	-	-	(32)	-	漆地	40	26 井戸	板材	(290)	(175)	9	サクラ属	
17	5 溝	碗	-	-	(33)	-	漆地	41	5 溝	建築材	(139)	(127)	25	サクラ属	
18	5 溝	碗	(100)	(47)	(27)	-	漆地	42	5 溝	建築材	(201)	104	23	スギ	
19	5 溝	碗	-	(50)	(20)	-	漆地	43	5 溝	部材	(139)	32	7	ヒノキ	
20	5 溝	碗	-	-	(36)	-	漆地	44	5 溝	建築材	1142	134	32	クリ	
21	7 井戸	碗	-	(60)	(65)	-	漆地	45	21 井戸	建築材	(126)	64	47	モミ属	
22	17 井戸	碗	(140)	-	(42)	-	漆地	46	18 井戸	棒状品	249	24	23	アカマツ	
23	5 井戸	曲物	192	186	101	ヒノキ		47	39 井戸	包丁柄?	96	39	28	二葉松類	
24	5 井戸	曲物	-	164	82	ヒノキ		48	25 井戸	銅柄?	106	31	38	アカマツ	

④板材・建築材他 (第215・216図、P.L. 60)

19号井戸・26号井戸から2枚づつ出土した。屋根材と考えられる。41～45は5号溝材集中の中に混じり出土した。46～48は棒状を呈するものである。47・48には鉄製の茎が残る。

7. 鉄製品 (第217・218図、P.L. 61)

本遺跡出土の鉄製品は、2号住居跡出土の刀子 (第43図、P.L.61) が最も古いもので、他は現代の鉋や鎌・包丁などである。中近世・近代の遺物としては図化した煙管と古銭である。

①煙管 煙管は吸口が6点出土した。5と6には竹筒が付いた状態で出土している。全体的に新しい傾向は否めない。

②古銭 本遺跡出土の古銭は19枚である。出土銭は3枚が北宋銭 (1～3)、他16枚が日本銭である。日本銭の内2枚が中世末～近世にかけての模倣銭 (4・5)、13枚が近世の貨幣 (6～18) である。

2～5は050-635グリッドに2枚づつ重なるように出土した。周辺の遺構確認を行ったが検出しなかった。遺構に伴う古銭の出土が少なく、11号土坑もロームブロック混土で他の土坑と同様の一括埋土であり、墓坑とは認定しなかった。出土した古銭は覆土上位層からの1枚だけであった。

4・5は中世末から近世初頭に国内で鑄造された中国銭の模倣銭と見られる。1～5の中国銭の初鑄年は1の「皇宋通宝」は北宋1038年、2「至和通宝」北宋1054年、3「紹聖元宝」北宋1086年、4「元祐通宝」北宋1094年、5「永樂通宝」明1408年である。国内銭では「寛永通宝」の3種類12枚と「文久通宝」(1863年) 1枚が出土した。寛永通宝は「古寛永」(1636年～) 2枚、「新寛永、背面文」(1668年～) 1枚、「新寛永」(1697年～) 9枚である。

第103表 煙管観察表 (第217図 PL.61)

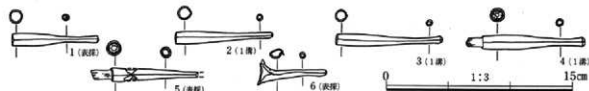
番号	出土位置	器種	法量 (mm)			備考
			口径	筒径	長さ	
1	表探	吸口	5	9	69	
2	1溝	吸口	5	9	77	
3	1溝	吸口	5	8	84	

番号	出土位置	器種	法量 (mm)			備考
			口径	筒径	長さ	
4	1溝	吸口	5	10	81	竹筒有
5	表探	吸口	8	12	(69)	竹筒有
6	表探	吸口	5	-	52	

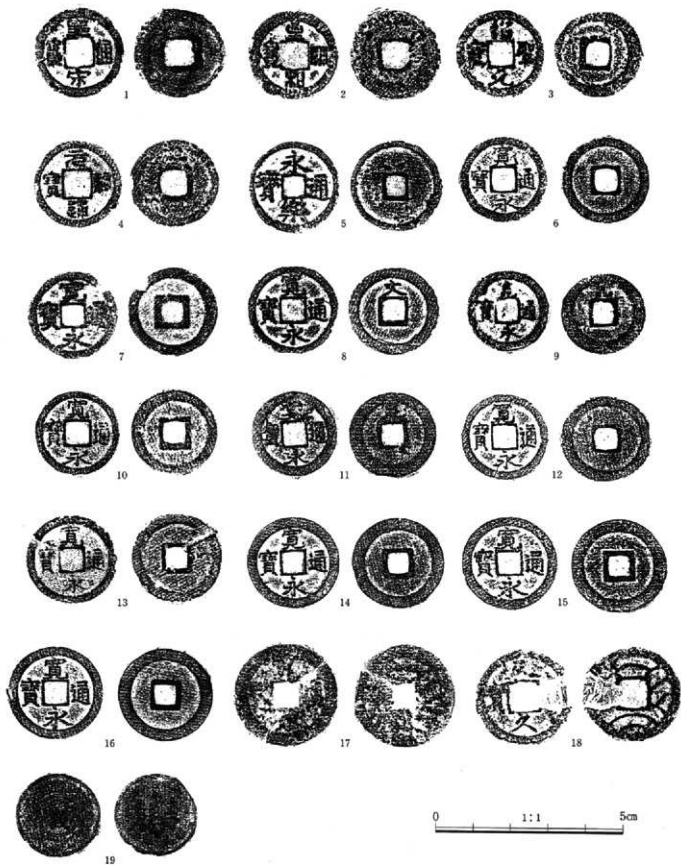
第104表 古銭観察表 (第218図 PL.61)

番号	出土位置	銭文	法量 (mm・g)			書体等
			径	厚さ	重さ	
1	6溝	皇宋通宝	24	0.8	2.6	真書
2	050-635	至和通宝	25	0.8	1.9	篆書
3	050-635	紹聖元宝	23	0.8	2.8	行書
4	050-635	元祐通宝	24	0.9	2.1	篆書
5	050-635	永樂通宝	25	0.8	2.5	真書
6	060-565	寛永通宝	24	0.8	2.2	古寛永
7	グリッド	寛永通宝	25	0.9	2.5	古寛永
8	37井戸	寛永通宝 (背面文)	22	0.8	1.8	新寛永
9	グリッド	寛永通宝	23	0.9	2.8	新寛永
10	グリッド	寛永通宝	24	0.9	2.5	新寛永

番号	出土位置	銭文	法量 (mm・g)			書体等
			径	厚さ	重さ	
11	グリッド	寛永通宝	23	0.8	2.1	新寛永
12	グリッド	寛永通宝	24	0.8	2.8	新寛永
13	グリッド	寛永通宝	25	0.8	2.7	新寛永
14	グリッド	寛永通宝	25	1.1	4.3	新寛永
15	グリッド	寛永通宝	26	0.9	3.1	新寛永
16	30井戸	寛永通宝	25	1.1	3.8	新寛永
17	11土坑	寛永通宝	28	1.1	3.6	新寛永
18	グリッド	文久通宝	26	0.9	1.8	真文
19	1・2溝	一銭 (昭和7年)	23	1.1	3.4	



第217図 煙管実測図 (1～6)



第218図 古銭実測図(1~19)

# 第4章 自然科学分析

## 第1節 土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

### 1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、浅間、榛名、赤城など北関東地方とその周辺の火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を求めることで、地層の堆積年代や地形の形成年代を知ることができるようになっている。そこで年代の不明な土層が認められた波志江中屋敷遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ分析を行って示標テフラの層位から遺物包含層や遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、東4号トレンチ（第1章土層説明第4図SPB）、縄文旧河道断面（同図SPC）、北壁基本土層セクション（同図SPD）の3地点である。

### 2. 地質層序

#### (1) 東4号トレンチ

東4号トレンチでは、下位より砂混じり灰色土（層厚10cm）、緑灰色粘質土（層厚12cm, 6a層）、砂混じり黄灰色土（層厚8cm, 5b層）、若干灰色がかった黄色粘質土（層厚13cm, 5a層）、砂混じり黄灰色土（層厚5cm）、砂混じり黄灰色土（層厚3cm）、黄褐色土（層厚9cm, 以上4b層）、黄灰色砂質土（層厚22cm, 4a層）、黄褐色土（層厚17cm, 3c層）、白色軽石混じりで若干灰色がかった黄色土（層厚17cm, 軽石の最大径5mm）、白色軽石混じり黄褐色土（層厚7cm, 軽石の最大径3mm）、白色軽石に富む黄色砂質土（層厚17cm, 軽石の最大径3mm, 以上2層）、灰色土（層厚18cm, 1層）が認められる（図1）。

#### (2) 縄文旧河道断面

縄文旧河道断面では、下位より灰色土（層厚20cm）、白色細粒軽石層（層厚12cm, 軽石の最大径3mm）、灰色砂質土（層厚14cm）、暗灰色砂質土（層厚11cm）、黒灰色土（層厚10cm）、灰色軽石を多く含む黒褐色土（層厚17cm, 軽石の最大径4mm）、黒色土（層厚12cm）、若干褐色がかった黒色土（層厚13cm）、色調がとくに暗い色調の暗褐色土（層厚19cm）、若干褐色がかった黒灰色土（層厚8cm）、桃灰色シルト層（層厚5cm）、灰色砂層（層厚8cm）、垂円礫混じり灰色砂層（層厚39cm, 礫の最大径18mm）、灰色砂層（層厚20cm）、垂円礫混じり灰色砂層（層厚16cm, 礫の最大径4mm）、若干色調の暗い灰色シルト層（層厚6cm）、灰色砂層（層厚16cm）が認められる（図2）。この地点では、とくに暗い色調の暗褐色土より、縄文時代早期の押型土器が検出されている。

#### (3) 北壁基本土層セクション

北壁基本土層セクションでは、下位より灰色シルト層（層厚3cm以上）、灰色砂層（層厚35cm）、砂混じり灰色土（層厚9cm）、暗灰色土（層厚13cm, 10層）、灰色細粒軽石に富む暗灰色土（層厚8cm, 軽石の最大径3mm, 7c層）、暗灰色土（層厚9cm, 7b層）、白色細粒軽石に富む灰色砂質土（層厚7cm, 軽石の最大径3mm, 6層）、暗灰色土（層厚19cm, 5層）、若干粘質の暗灰色土（層厚5cm, 4層）、灰褐色粗粒火山灰層（層厚2cm, 3層）、褐色土（層厚20cm, 2層）が認められる（図3）。

この地点では、灰色細粒軽石に富む暗灰色土の基底より畦畔状の遺構が検出されている。なお、この遺構については、疑似畦畔の可能性も考えられている。

### 3. テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

東4号トレンチ、縄文旧河道断面、北壁基本土層セクションの3地点において採取された33点の試料についてテフラ検出分析を行い、テフラ粒子の特徴およびテフラの降灰層準の把握を行った。分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。東4号トレンチでは、試料2を除く試料5以上の試料から軽石粒子が検出された。試料5および4に含まれる軽石は灰白色で、最大径は1.1mmである。また試料3や1に含まれる軽石は白色で、最大径は試料3で1.7mm、試料1で1.3mmである。火山ガラスは、試料2を除くいずれの試料からも検出される。試料12から9にかけては、白色の軽石型ガラスが少量ずつ認められる。試料7には、平板状のいわゆるバブル型ガラス（透明）が比較的多く含まれている。

縄文旧河道断面では、試料22のテフラ層中に多くの白色軽石（最大径3.6mm）が含まれている。これらの軽石は、繊維束状やスポンジ状に発泡している。試料15には、灰白色軽石（最大径1.2mm）が比較的多く含まれている。これらの軽石は、スポンジ状に発泡している。試料5以上にも、灰白色軽石（最大径1.8mm）が少量ずつ含まれている。これらの軽石も、スポンジ状に発泡している。火山ガラスはいずれの試料からも検出されるものの、とくに特徴的な濃集層準は認められない。

北壁基本土層セクションでは、試料15を除くいずれの試料からも軽石が検出された。試料13には、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径3.6mm）が比較的多く含まれている。班晶には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料9以上の試料からは、さほど発泡の良くない白色軽石（最大径4.3mm）が検出される。班晶には、重鉱物として斜方輝石や角閃石が認められる。試料3や1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.9mm）が多く含まれている。班晶には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。火山ガラスとしては、いずれもこれらの軽石の細粒のものが認められる。

### 4. 屈折率測定

#### (1) 測定試料と測定方法

テフラ層およびテフラ粒子の産状から示標テフラの降灰層準があると考えられた東4号トレンチの試料3と1、縄文旧河道断面の試料14と5の4点について、温度一定型位相差法（新井，1972，1993）により屈折率の測定を行い、示標テフラとの同定を試みた。

#### (2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。東4号トレンチの試料3に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.501-1.504である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.704-1.709である。試料1に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.502-1.505である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.706-1.710である。

縄文旧河道断面の試料14に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.501-1.504である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ $\gamma$ ）は、1.706-1.710である。試料5に含まれる



火山ガラスの屈折率 ( $n$ ) は、1.502–1.503である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率 ( $\gamma$ ) は、1.705–1.710である。

### 5. 考察一示標テフラとの同定とその層位について

東4号トレンチの試料3(3層)に含まれるテフラは、火山ガラスの形態、色調、屈折率、重鉱物の組み合わせ、斜方輝石の屈折率などから、約1.7万年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した浅間大窟沢第1軽石(As-Ok 1, 中沢ほか, 1984, 町田・新井, 1992, 早田, 1996)に由来すると考えられる。試料1(2層)に含まれるテフラは、火山ガラスの形態、色調、屈折率、重鉱物の組み合わせ、斜方輝石の屈折率などから、約1.3–1.4万年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。また試料7付近に降灰層のあるテフラは、火山ガラスの色調や形態などから、約2.4–2.5万年前<sup>\*1</sup>に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 池田ほか, 1995)に由来すると考えられる。さらに4 b層から4 a層中にかけては、層相や軽石の特徴などから約1.9–2.4万年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 早田, 1996, 未公表資料)の降灰層があると考えられる。

縄文旧河道断面の試料14のテフラは、含まれる火山ガラスの形態、色調、屈折率、重鉱物の組み合わせや斜方輝石の屈折率などから、約1.1万年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(As-Sj, 早田, 1990, 1995, 1996)に由来すると考えられる。また、試料5に含まれるテフラは、とくに斜方輝石の屈折率やその層位などから、約8,200年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した浅間藤岡軽石(As-Fo, 早田, 1991, 1995, 1996)に由来すると考えられる。したがって、押型文土器の層位は、ほぼAs-Foの降灰層準付近と考えられる。

北盤基本土層セクションの試料13(7 c層)付近に降灰層があると考えられる軽石は、岩相から4世紀中葉<sup>\*2</sup>に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。また試料9付近(6層)に比較的多く含まれる白色軽石は、その岩相から、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。したがって、本地点付近から検出された畦畔状遺構については、6世紀初頭を遡る可能性が考えられる。試料3(3層)のテフラ層は、軽石の特徴から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に同定される。

### 6. 小結

波志江中屋敷遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より始良Tn火山灰(AT, 約2.4–2.5万年前<sup>\*1</sup>)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9–2.4万年前<sup>\*1</sup>)、浅間大窟沢第1軽石(As-Ok 1, 約1.7万年前<sup>\*1</sup>)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3–1.4万年前<sup>\*1</sup>)、浅間総社軽石(As-Sj, 約1.1万年前<sup>\*1</sup>)、浅間藤岡軽石(As-Fo, 約8,200年前<sup>\*1</sup>)、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)、榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)およびその降灰層準を検出することができた。縄文旧河道において検出された押型文土器の層位は、ほぼAs-Foの降灰層準付近と考えられる。また本遺跡において検出された畦畔状遺構については、6世紀初頭を遡る可能性が指摘される。

\*1 放射性炭素 (<sup>14</sup>C) 年代。

\*2 西暦300年前後とする見方もある(友廣, 1987など)。

### 文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p. 1–79.

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフラクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p. 254-269.
- 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no. 53, p. 41-52.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p. 138-148.
- 寛牧重雄 (1968) 浅間火山の地質。地質研報, no. 14, p. 1-45.
- 滝田見子・奥野 光・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫 (1995) 南九州。給良カルテラ起源の大噴降下軽石と入戸火砕流中の長化樹木の加速器質量分析法による<sup>14</sup>C年代。第四紀研究, 34, p. 377-379.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—給良Tn火山灰の発見とその意義。科学, 46, p. 339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗 (1987) 給良Tn火山灰 (AT) の<sup>14</sup>C年代。第四紀研究, 26, p. 79-83.
- 坂口 一 (1986) 榛名二ツ岳起源F A・F P層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「寛延北原遺跡・今井神社古墳群・寛成青塚遺跡」, p. 103-119.
- 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p. 297-312.
- 早田 勉 (1990) 群馬県の自然と風土。群馬県史通史編, 1, p. 37-129.
- 早田 勉 (1991) 浅間火山の生い立ち。佐久考古通信, no. 53, p. 2-7.
- 早田 勉 (1995) テフラからさぐる浅間山の活動史。御代田町誌, 自然編, p. 22-43.
- 早田 勉 (1996) 関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p. 256-267.
- 友廣哲也 (1988) 古式土師器出現期の標相と浅間山C軽石。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p. 325-336.

表4-1-1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
第4号 トレンチ	1	+	白	1.3	+	pm	白
	2	-	-	-	-	-	-
	3	+	白	1.7	++	pm	透明
	4	+	灰白	0.8	+	bw	透明
	5	+	灰白	1.1	+	bw	透明
	6	-	-	-	+	bw	透明
	7	-	-	-	++	bw	透明
	8	-	-	-	+	bw	透明
	9	-	-	-	+	pm	白
	10	-	-	-	+	pm	白
	11	-	-	-	+	pm	白
	12	-	-	-	+	pm	白
縄文 旧河堤断面	1	+	灰	1.1	+	pm>bw	白、透明
	3	+	灰白	1.3	+	pm	白、透明
	5	+	灰白	1.8	+	pm	白、透明
	7	-	-	-	+	pm>bw	白、透明
	9	+	灰	1.2	+	pm	白、透明
	11	+	灰	1.2	+	pm	白、透明
	13	+	灰	1.3	++	pm>bw	白、透明
	14	++	灰	1.6	++	pm	白、透明
	15	+	灰白	1.2	++	pm	白、透明
	17	+	白	0.8	++	pm	白、透明
	19	+	白	1.8	+++	pm	白、透明
	21	++	白	3.7	+++	pm	白、透明
22	+++	白	3.6	++	pm	白	
北 壁 基本土層 セクション	1	+++	浜濁>白	2.9, 1.3	++	pm	浜濁、白
	3	+++	浜濁>白	2.7, 2.5	++	pm	浜濁、白
	5	++	白>灰白	4.3, 1.8	++	pm	白、灰白
	7	++	白>灰白	3.4, 2.3	++	pm	白、灰白
	9	++	白>灰白	2.8, 1.3	++	pm	白、灰白
	11	+	灰白	2.5	++	pm	灰白
	13	++	灰白	3.6	++	pm	灰白
15	-	-	-	+	pm	白	

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない。最大径の単位は, mm, bw: バブル型, pm: 軽石型

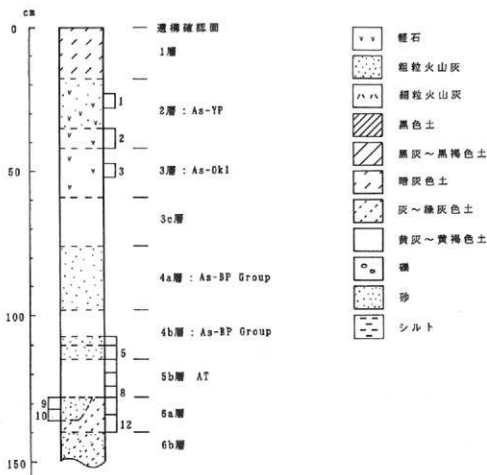


図4-1-1 東4号トレンチの土層柱状図 (数字はテフラ分析の試料番号)

表4-1-2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)
東4号トレンチ	1	1.502-1.505	opx > cpx	1.706-1.710
東4号トレンチ	3	1.501-1.504	opx > cpx	1.704-1.709
縄文田河道断面	5	1.502-1.503	opx > cpx	1.705-1.710
縄文田河道断面	14	1.501-1.504	opx > cpx	1.706-1.710

屈折率の測定は、温度一定形屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による。

OPX: 斜方輝石, CPX: 単斜輝石。

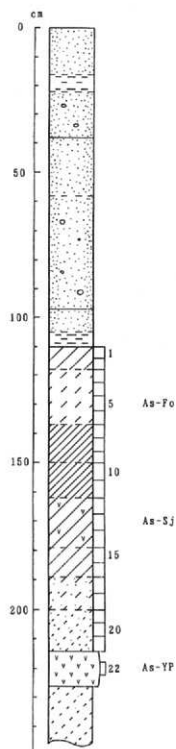


図4-1-2 縄文旧河道断面の土層柱状図  
(数字はテフラ分析の試料番号)

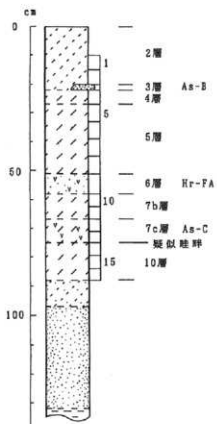


図4-1-3 北壁基本土層セクションの土層柱状図  
(数字はテフラ分析の試料番号)

## 第2節 植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

## 1. はじめに

植物珪酸体は、おもにイネ科植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 1987)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山, 1984)。

## 2. 試料

分析試料は、縄文旧河道断面と北壁基本土層セクションの2地点から採取された計10点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

## 3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:  $10^{-3}\text{g}$ ) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属 (チシマザサ節・チマキザサ節) は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。

## 4. 分析結果

## (1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表4-2-1および図4-2-1、図4-2-2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、ヒエ属型、キビ族型、ジュズダマ属、ヨシ属、ススキ属型 (おもにススキ属)、ウシクサ族A (チガヤ属など)、ウシクサ族B (大型)、Bタイプ

[イネ科一タケ亜科]

メダケ節型 (メダケ属メダケ節・リュウキユウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型 (チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型 (おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

[イネ科—その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、基部起源、未分類等

## 5. 考察

### (1) 稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

#### 1) 北壁基本土層セクション（図4-2-1）

As-B直下層（試料1）からAs-Cの下層（試料6）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）からAs-C混層（試料4）までの各試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）では密度が3,400個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

その他の試料では、密度が700~1,500個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が遅かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

#### 2) 縄文旧河道断面（図4-2-2）

As-Fo混層（試料2）とその上下層（試料1、3）について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

### (2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはヒエ属型が検出された。

ヒエ属型は、As-B直下層（試料1）とHr-FA直下層（試料3）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌヒエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを完全に識別するには至っていない（杉山ほか、1988）。また、密度も700個/gと低い値であることから、ここでヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌヒエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

### (3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

#### 1) 植物珪酸体の検出状況

As-Fo混層およびその上下層では、ウシクサ族Aが多量に検出され、ススキ属型も比較的多く検出された。また、クマザサ属型やミヤコザサ節型なども検出された。As-Cの下層からHr-FA直下層にかけては、ウシクサ族Aやネザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型なども検出された。Hr-FA混層より上位では、ほとんどの分類群が減少している。おもな分類群の推定生産量によると、As-Fo混層ではススキ属型、As-C混層およびその下層ではヨシ属が優勢となっていることが分かる。

#### 2) 植生と環境の推定

浅間山開軽石（As-Fo、約8,200年前）混層およびその上下層の堆積当時は、ススキ属やチガヤ属を主体としてクマザサ属なども見られるイネ科植生であったと考えられる。ススキ属やチガヤ属は日当りの悪い林床では生育が困難であることから、当時の遺跡周辺は比較的開かれた草原的な環境であったと推定される。

浅間C軽石（As-C、4世紀中葉）より下位層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であっ

#### 第4章 自然科学分析

たとえられ、周辺ではススキ属やチガヤ属、ネザサ節なども分布していたと推定される。As-C混層ではイネが出現していることから、この時期に湿地を利用して水田稲作が開始された可能性が考えられる。

#### 6. まとめ

植物珪酸体分析の結果、浅間Bテフラ (As-B, 1108年) 直下層ではイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、榛名ニツ岳淡川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭) 混層や浅間C軽石 (As-C, 4世紀中葉) 混層などでも稲作が行われていた可能性が認められた。本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、As-C混層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたと推定される。

#### 文献

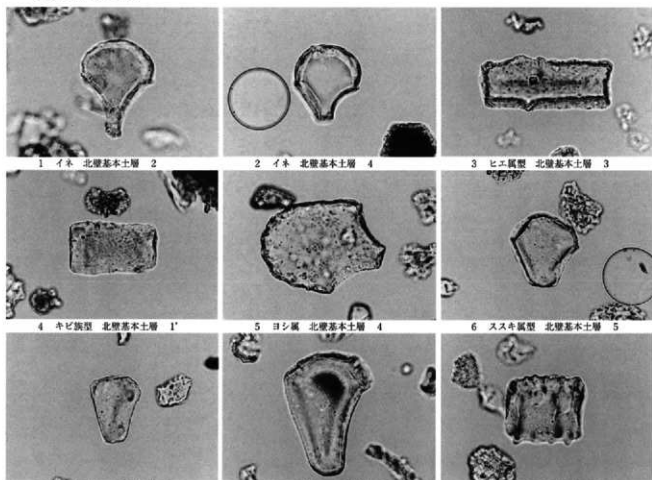
杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点。植生史研究, 第2号, p. 27-37.

杉山真二 (1987) タケ茎科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告, 第31号, p. 70-83.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志 (1988) 機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—。考古学と自然科学, 20, p. 81-92.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) —数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学, 9, p. 15-29.

藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) —プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学, 17, p. 73-85.



植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真 (倍率はすべて400倍)  
%分類群地点試料名

表4-2-1 群馬県、流志江中産敷遺跡における植物珪酸体分析結果  
抽出密度(単位: ×100個/g)

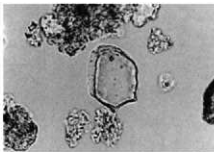
分類学	北里基本土層セクション											
	1	1'	2	3	4	5	6	1	2	3		
イネ科												
Gramineae (Grasses)												
Oryza sativa (domestic rice)	34	7	7	15	15							
Echinochloa type	7			7								
Panicum type		7	28	30	15	7		22			14	
Phragmites (reed)	14	7	7	7	37	15	13	7				
Miscanthus type	21	14	21	7	44	15	13	36	130	21		
Andropogoneae A type	48	78	21	89	73	87	26	167	159	70		
Andropogoneae B type								7	7	7		
Bタイプ												
22												
タケ亜科												
Bambusoideae (Bamboo)												
Pleurostictus sect. Medakite	21	14	7	15				7				
Pleurostictus sect. Nerassa	14	14		74	66	109	6					
Sasa (except Miyakozasa)		7	7	7				22	33	70		
Sasa sect. Miyakozasa								6	7	21		
その他のイネ科	34	43	21	52	80	36	6	22	13	7		
Hisak hair origin												
Rod-shaped												
棒状珪酸体												
Stem origin	219	264	128	436	402	327	91	377	391	316		
茎部起源	7	7			7							
未分類等	350	362	248	503	469	450	201	443	488	316		
(無縁骨片)												
Sponge		21										
植物珪酸体総数	768	855	496	1242	1270	1046	363	1117	1218	850		

おもな分類群の単定生量(単位:  $\mu\text{g}/\text{m}^2 \cdot \text{cm}$ )

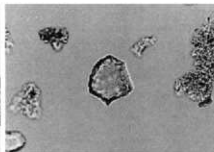
イネ科												
Oryza sativa (domestic rice)	1.01	0.21	0.21	0.43	0.43							
Echinochloa type	0.58			0.62								
Phragmites (reed)	0.87	0.45	0.47	2.30	0.92	0.82	0.46	0.46				
Miscanthus type	0.26	0.18	0.26	0.09	0.54	0.18	0.16	0.45	1.62	0.26		
Pleurostictus sect. Medakite	0.24	0.17	0.08	0.17	0.17	0.32	0.03	0.03				
Pleurostictus sect. Nerassa	0.07	0.07		0.35	0.32	0.52	0.03	0.03				
Sasa (except Miyakozasa)				0.05	0.06		0.16	0.24	0.53			
Sasa sect. Miyakozasa							0.02	0.02	0.02	0.06		

タケ亜科の比率 (%)

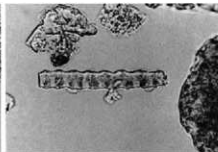
タケ亜科												
Pleurostictus sect. Medakite	78	58	61	29				16				
Pleurostictus sect. Nerassa	22	24		61	100	100	62					
Sasa (except Miyakozasa)		19	39	10				74	93	89		
Sasa sect. Miyakozasa							38	10	7	11		



10 クマザサ属型 北里基本土層 3



11 ミヤコササ属型 北里基本土層 3



12 棒状珪酸体横文田河遺跡 2



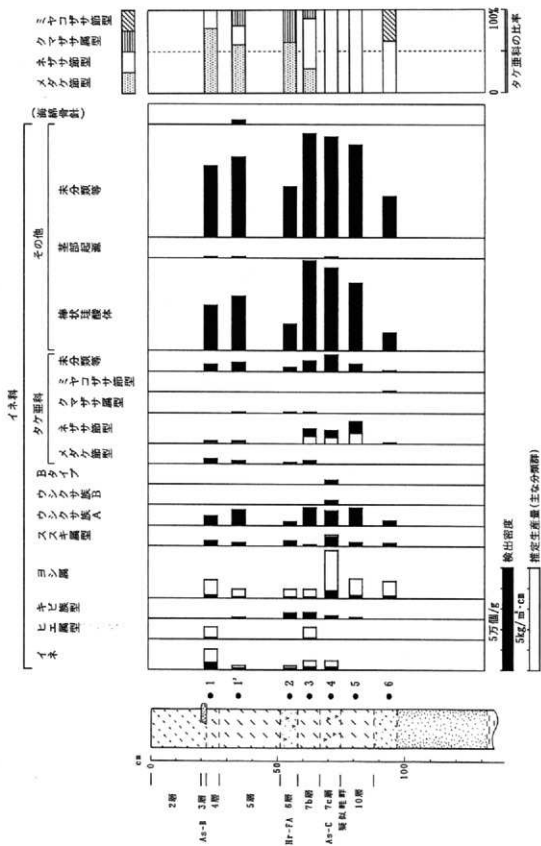


図4-2-1 北太平洋上層セクションにおける植物球体分析結果(1)

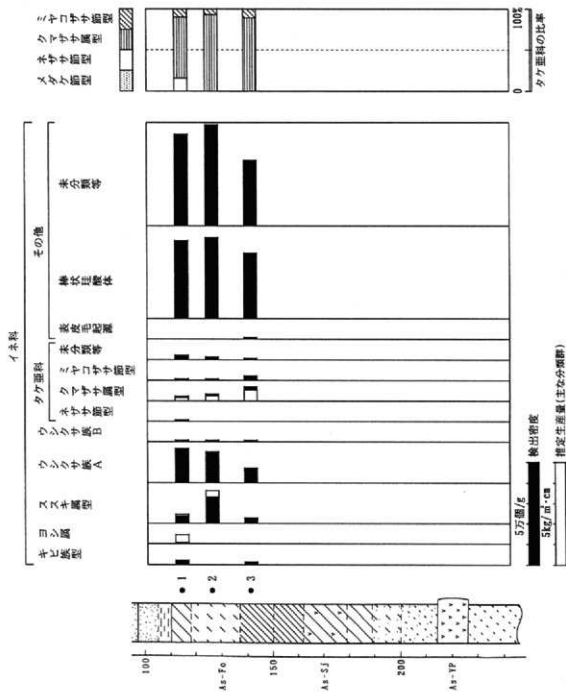


図4-2-2 縄文旧河道断面における植物珪酸体分析結果(2)

## 第3節 花粉分析

株式会社 古環境研究所

### 1. 試料

試料は、縄文旧河道断面から採取された試料1、2の2点である。これらは植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

### 2. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、水酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び水酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

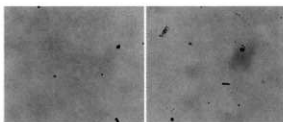
以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、鳥倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。

### 3. 結果および考察

分析の結果、花粉はいずれの試料からも検出されなかった。花粉が検出されない原因として、乾燥的な堆積環境下で花粉などの有機物遺体が分解されたことなどが考えられる。

### 文献

- 中村純（1973）花粉分析。古今書院。p. 82-110。  
金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原。新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法。角川書店。p. 248-262。  
鳥倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集。60p。  
中村純（1980）日本産花粉の標本。大阪自然史博物館収蔵目録第13集。91p。



試料 1

試料 2

花粉分析の顕微鏡写真

## 第4節 「蘇民将来」と「布」について

## 1. 保存処理

(株)東都文化財保存研究所

## (1) 木製品(蘇民将来)保存処理(PEG処理)に係る仕様書

1. 処理前調査 現状確認。写真撮影。樹種同定。
2. 洗 浄 遺物をEDTA溶液に浸漬して、遺物中の阻害物質を除去する。
3. 計 量
4. 置換処理 PEGの濃度を5%ずつ上げて行き、20工程で100%にする。
5. 表面処理 アルコール等で、遺物の表面をふきとる。
6. 経時変化調査 処理後、一定期間変化の有無を確認する。
7. 処理後計量
8. 処理後調査 写真撮影。保存処理記録作成。
9. その他 対象物が優れた文化財であることを認識し、遺物の取り扱いはいくまで慎重に行うこととする。

## (2) 布製品保存処理に係る仕様書

1. 処理前調査 現状確認。写真撮影。布分析。
2. クリーニング 精密な筆を用いて、錆やほこり等の付着物を除去し、イオン水を用いて、汚れを洗浄する。
3. 強化処理 アクリル樹脂5~10%濃度を6~7回塗布含浸する。遺物の表面に残った樹脂の光沢をおさえるため、含浸樹脂に適した有機溶剤で、ふきとり、アクリル等のケースに保管する。
4. 処理後調査 写真撮影。保存処理記録作成。
5. その他 対象物が優れた文化財であることを認識し、資料の取扱は慎重に行うこととする。

表4-4-1 木製品保存処理表

遺物名称		蘇民将来 No.1	蘇民将来 No.2	蘇民将来 No.3
遺構名称		39号井戸	39号井戸	39号井戸
寸 法	長 さ	8.3 cm	2.8 cm	3.1 cm
	最 大 幅	1.4 cm	1.0 cm	1.1 cm
	最 大 厚 み	1.3 cm	0.9 cm	1.3 cm
		*寸法は保存処理後の数値	*寸法は保存処理後の数値	*寸法は保存処理後の数値
樹 種		ヤナギ属	ヤナギ属	ヤナギ属
重 量	空 中 重 量	5.2 g	2.6 g	4.0 g
	水 中 重 量	0.1 g	0.1 g	0.2 g
	含 水 率	156.0%	73.0%	54.0%
予 備 処 理		PEG #4000(分子量3220)	PEG #4000(分子量3220)	PEG #4000(分子量3220)
処 理 方 法		PEG 含浸法	真空凍結乾燥法	PEG 含浸法
表 面 処 理		アルコールによりPEGを払拭	アルコールによりPEGを払拭	アルコールによりPEGを払拭
処 理 後 重 量		3.6 g	1.9 g	2.7 g

表4-4-2 布保存処理表

遺物名称		布 ①	布 ②	布 ③
遺構名称		39号井戸	39号井戸	39号井戸
寸 法	長 さ	7.5 cm	6.5 cm	9.0 cm
	最 大 幅	4.0 cm	5.0 cm	4.1 cm
	最 大 厚 み		0.1 cm(a)	
材 質		木綿		
含 浸 樹 脂		リフタック513(水溶性アクリル樹脂)		
処 理 方 法		塗布含浸		
表 面 処 理				
処 理 後 重 量		2.5 g(全体)		

## 2. 材同定及び赤外分光分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

### (1) 試料

#### a) 樹種同定

試料は、出土した蘇民将来3点 (No 1~3) である。いずれもほぼ完形品で、表面に墨書が認められた。いずれも同じ材と判断できたため、各試料から1断面ないし、2断面の切片を採取し、試料とした。

#### b) 赤外分光分析

出土した布片1点である。

### (2) 方法

#### a) 樹種同定

採取した切片をガム・クロラール (抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液) で封入し、プレバラートを作製する。作製したプレバラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

#### b) 赤外分光分析

布片を105℃で2時間乾燥させた後、メノウ乳鉢で微粉砕 (200メッシュ以下) した。この微粉砕試料20~30mgをシュウ化カリウム (KBr) と1:100の割合で秤量し、メノウ乳鉢で粉砕・混合した後、ミニハンドプレス (高津製作所製MHP-1) で加圧成形した。加圧成形した試料を次の条件により測定した。

装置: 高津製作所製FTIR-8100A、測光値 (Measuring mode): %T、分解能 (Resolution): 4.0cm<sup>-1</sup>、積算回数 (No. of Scan): 40回、ゲイン (Gain): 自動、ミラー速度 (Detector): 2.8mm/sec、アポダイズ関数 (Apodization): Happ-genzel、測定範囲: 4600~400cm<sup>-1</sup>

測定方法: KBr錠剤法

### (3) 結果

#### a) 樹種同定

蘇民将来は、3点とも落葉広葉樹のヤナギ属に同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

##### ・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2~3個が複合して年輪全体にほぼ一様に散在し、年輪界付近でやや管径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1~15細胞高。

#### b) 赤外分光分析

赤外線吸収スペクトルを図1に示した。布片における主な吸収帯は、3350、1600cm<sup>-1</sup>の強い吸収帯および2910、1430、1380、1160、1110、1060、1030、900、710、610、560cm<sup>-1</sup>の吸収帯である。各吸収帯から推定される官能基は次のとおりである。3350cm<sup>-1</sup>付近の強い吸収帯は水分子の吸収振動およびN-H基の伸縮振動、1030cm<sup>-1</sup>付近の吸収帯はC-H基の変角振動、2910cm<sup>-1</sup>付近の吸収帯はC-H基の伸縮振動、1600cm<sup>-1</sup>付近の吸収帯はC=O基またはC=C基の伸縮振動、1380~1430cm<sup>-1</sup>付近の吸収帯はCH<sub>3</sub>基の対称変角振動と考えられる。他に認められる吸収帯は上記の強い吸収帯に付随する弱い吸収と判断される。

この結果を、絹、木綿の赤外分光スペクトルと比較することによって素材判定を行った。絹は酸アミド結合によって種々のアミノ酸が多数縮合したフィブロインとセリシンから構成されるタンパク質であるのに対して、木綿は綿から採取される植物性の繊維であり、セルロース (繊維素) 等から構成される高分子化合物、いわゆる炭水化物である。

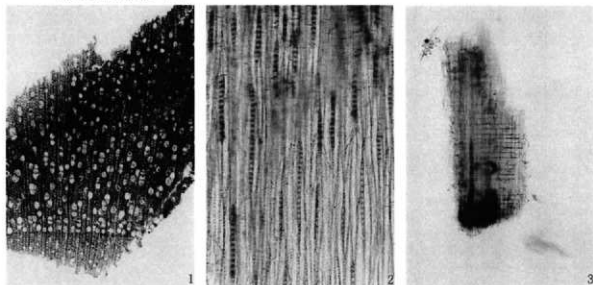
したがって、タンパク質である絹では、N-H基の伸縮振動による3300、3080cm<sup>-1</sup>付近の吸収帯、C=O

基の伸縮振動による $1650\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収帯（アミドⅠ吸収帯）、N—H基の変角振動による $1530\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収帯（アミドⅡ吸収帯）が特徴的な吸収帯として挙げられ、炭水化物である綿では水分子の吸収振動あるいはN—H基の伸縮振動による $3350\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収帯、C—H基の伸縮振動による $2900\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収帯、C=O基の伸縮振動による $1640\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収帯、 $\text{CH}_3$ 基あるいは $\text{CH}_2$ 基の対称変角振動による $1330\sim 1430\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収帯、C—O基の伸縮振動による $1050$ 、 $1100\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収帯が特徴的な吸収帯として挙げられる。

今回検出された布片は、比較的状态の良いものであったが、単純に比較した場合にはスペクトルパターンは絹、綿のどちらとも異なるパターンを示しているが、各吸収帯の位置を詳細に比較すると綿に類似したパターンが得られていることが指摘される。特に布片のスペクトルにはアミド（Ⅰ・Ⅱ）吸収帯が認められず、 $2930\text{cm}^{-1}$ 付近に $\text{CH}_2$ 基の伸縮振動、 $1030\text{cm}^{-1}$ 付近にC—H基の変角振動が認められることから、この布片が絹などの動物性のタンパク質ではなく、植物性の繊維である可能性が示唆される。また、 $1030\sim 1060\text{cm}^{-1}$ 付近にかけて見られる3重線、および $1380\sim 1430\text{cm}^{-1}$ 付近にかけて見られる2重線も綿の特徴であると考えられる。

以上のことから、この布片がタンパク質から成る絹では無く、炭水化物からなる植物繊維であることは間違いないものと推定され、綿に近い構造を持つことが指摘される。

波志江中屋敷遺跡の木材



- 1 ヤナギ属（蘇民将来No1）木口
- 2 ヤナギ属（蘇民将来No2）板目
- 3 ヤナギ属（蘇民将来No3）柾目

— 200 $\mu\text{m}$  : a  
 — 200 $\mu\text{m}$  : b, c

蘇民将来符の顕微鏡写真

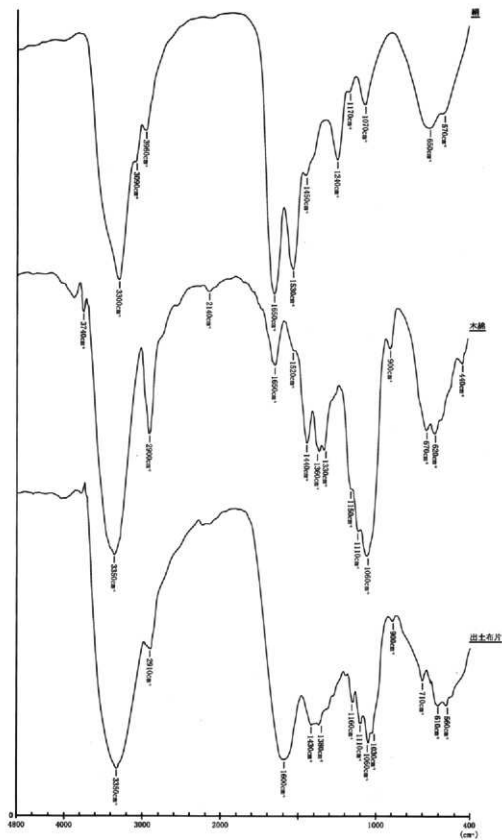


図4-4-1 布片のIRスペクトル

# 写 真 图 版







1. 波志江中層敷道跡遠景(南上空から赤城山を望む)



2. 波志江中層敷道跡全景(南上空から撮影)

PL.2 (縄文時代)



1. 縄文時代谷地 (南東)



2. 縄文時代谷地断面 (南東)



3. 谷地押型文土器出土状態 (南東)



4. 谷地押型文土器出土状態 (南東)



5. 谷地押型文土器出土状態 (南)



6. 谷地押型文土器出土状態 (南)



7. 縄文時代遺物出土状態西北部 (西)



8. 縄文時代遺物出土状態北東部 (北)



1. 3号住居跡全景(北)



2. 3号住居跡遺物出土状態(北)



3. 4号住居跡全景(南西)



4. 4号住居跡遺物出土状態(南西)



5. 4号住居跡遺物出土状態(南西)



6. 1号集石土坑(南)



7. 2号集石土坑上面(南)



8. 2号集石土坑(南)

PL.4 (住居跡)



1. 1号住居跡(西)



2. 2号住居跡遺物出土状態(東)



3. 2号住居跡カマド(東)



4. 2号住居跡掘方(東)



5. 5号住居跡(東)



6. 5号住居跡掘方(北)



7. 6号住居跡(南西)



8. 6号住居跡遺物出土状態(南西)



1. 12号・14号溝(北)



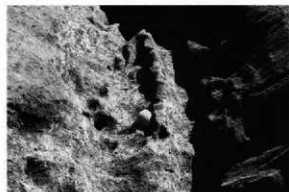
2. 36号溝(北西)



3. 12号溝北側(北)



4. 12号溝遺物出土状態(北西)



5. 12号溝遺物出土状態(北)



6. 14号溝(北)



7. 14号溝(北)



8. A s - C 混土下水田北西部(北)

PL.6 (水田・溝)



1. As-C混土下水田北西部(東)



2. As-C混土下水田北東部(北)



3. As-C混土下水田東部(北)



4. As-C混土下水田東部(北)



5. Hr-FA混土高南部(南)



6. Hr-FA混土高北部(北)



7. As-B非額状況(北)



8. 1号溝西側(南)



1. 遺跡全景溝分布 (南上空)



2. 1号溝北側 (西)



3. 35号溝 (北)



4. 2号~8号溝 (北)



5. 6号溝 (西)



PL.8 (溝)



1. 5号-6号溝(北)



2. 5号-6号溝断面(北)



3. 5号-6号溝材出土状態(北)



4. 5号-6号溝材出土状態(南)



5. 5号溝杭・漆桶出土状態(北)



6. 5号-6号溝出土材



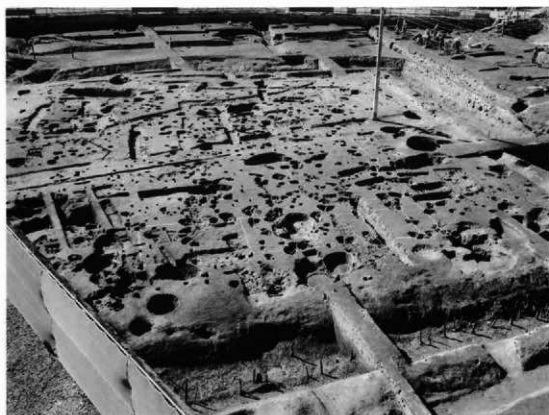
7. 17号~20号・34号溝(北)



8. 20号溝造物出土状態(北)



1. 5号溝内遺構群(北)

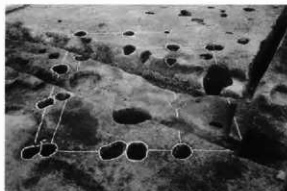


2. 5号溝内遺構群(東)

PL.10 (堀立・ピット)



1. 5号溝内掘立柱建物跡群(南)



2. 10号・11号掘立柱建物跡(南)



3. 12号掘立柱建物跡(南)



4. 13号・14号掘立柱建物跡(南)



5. 20号ピット遺物出土状態(南西)



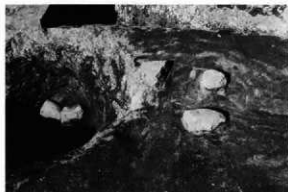
6. 256号ピット遺物出土状態(北)



7. 324号ピット遺物出土状態(南)



8. 12号土坑出土状態(東)



1. 62号土坑礫出土状態(南)



2. 120号土坑礫出土状態(北)



3. 180号土坑礫出土状態(南)



4. 55号土坑材出土状態(東)



5. 1号屋敷(南)



6. 1号屋敷杭出土状態(東)



7. 1号屋敷杭出土状態(西)



8. 2号屋敷(南)

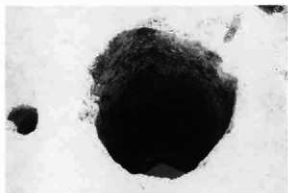
PL.12 (井戸)



1. 1号井戸



2. 2号井戸



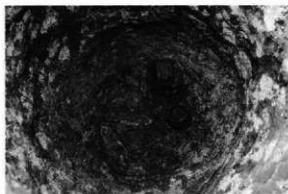
3. 3号井戸



4. 4号井戸



5. 5号井戸



6. 5号井戸遺物出土状態



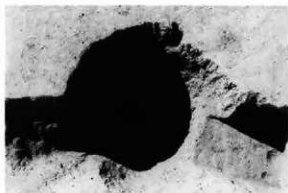
7. 6号井戸



8. 5号井戸遺物出土状態



1. 7号井戸



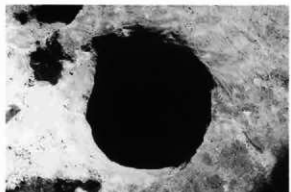
2. 8号井戸



3. 9号井戸



4. 11号井戸



5. 10号井戸



6. 10号井戸B堆積状態



7. 12号井戸

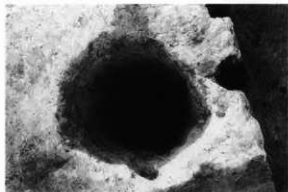


8. 13号井戸

PL.14 (井戸)



1. 14号井戸



2. 16号井戸



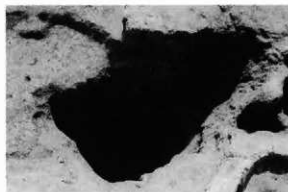
3. 17号井戸



4. 18号井戸



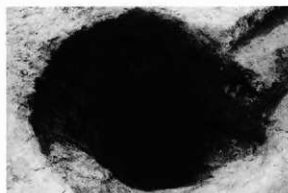
5. 19号井戸



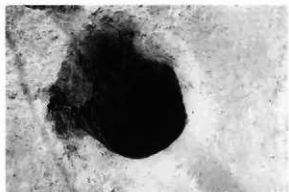
6. 20号井戸



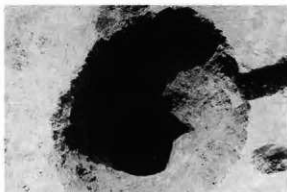
7. 20号井戸露出土状態



8. 21号井戸



1. 22号井戸



2. 23号井戸



3. 23号井戸出土遺物



4. 24号井戸



5. 27号井戸



6. 25号井戸



7. 25号井戸



8. 25号井戸



PL.16 (井戸)



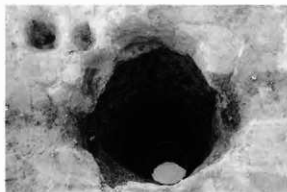
1. 29号井戸



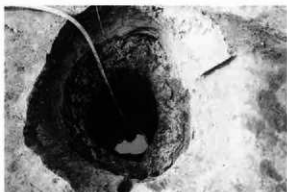
2. 30号・31号井戸



3. 32号井戸



4. 34号井戸



5. 33号井戸



6. 33号井戸遺物出土状態



7. 33号井戸遺物出土状態



8. 35号・36号井戸



1. 38号井戸



2. 38号井戸礫出土状態



3. 39号井戸



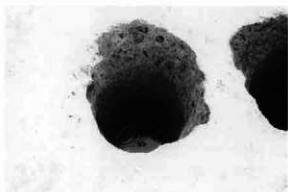
4. 146号土坑



5. 146号土坑礫出土状態



6. 87号土坑

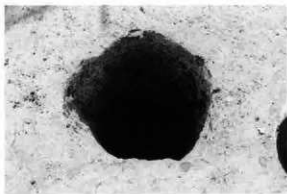


7. 88号土坑



8. 91号土坑材出土状態

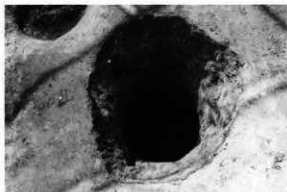
PL.18 (土坑)



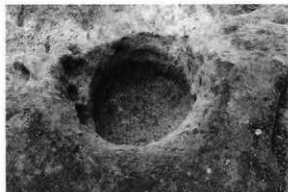
1. 90号土坑



2. 90号土坑出土状态



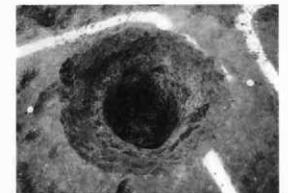
3. 172号土坑



4. 2号土坑



5. 91号土坑



6. 1号土坑



7. 6号土坑



8. 8号土坑



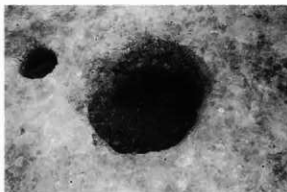
1. 9号土坑



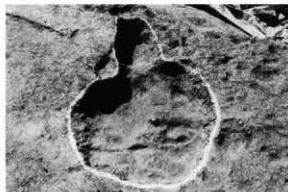
2. 25号土坑



3. 26号土坑



4. 31号土坑



5. 34号土坑



6. 36号土坑



7. 39号土坑

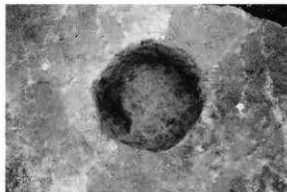


8. 42号土坑

PL.20 (土坑)



1. 45号土坑



2. 40号土坑



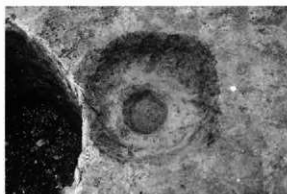
3. 49号土坑



4. 51号土坑



5. 52号·75号·76号土坑



6. 53号土坑



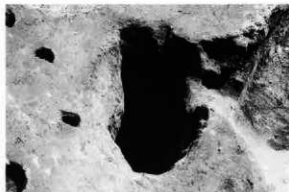
7. 66号土坑



8. 68号土坑



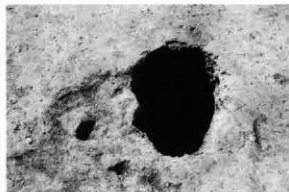
1. 70号土坑



2. 71号土坑



3. 72号土坑



4. 77号·78号土坑



5. 94号~96号土坑



6. 100号土坑



7. 106号~109号土坑



8. 111号~113号土坑

PL.22 (土坑)



1. 114号土坑



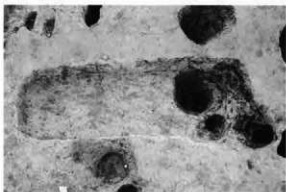
2. 116号·117号土坑



3. 118号·119号·179号土坑



4. 122号土坑



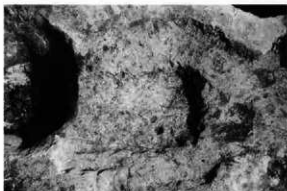
5. 123号土坑



6. 125号土坑



7. 126号土坑



8. 133号·134号土坑



1. 154号土坑



2. 155号土坑



3. 164号·168号土坑



4. 164号土坑



5. 173号土坑



6. 184号土坑



7. 159号~190号土坑



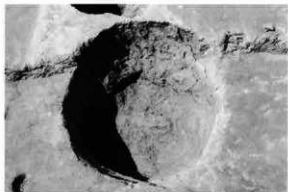
8. 185号土坑



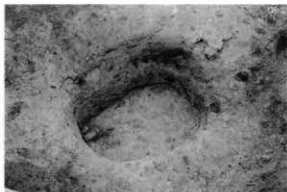
PL.24 (土坑)



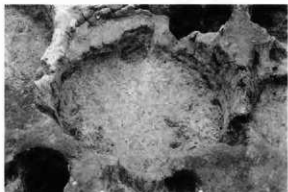
1. 186号土坑



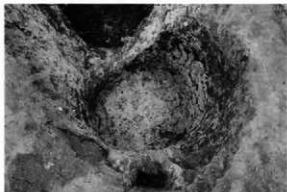
2. 194号土坑



3. 197号土坑



4. 200号土坑



5. 201号土坑



6. 202号·203号土坑



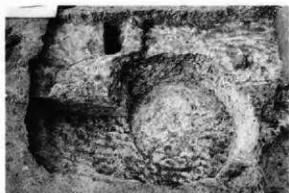
7. 203号土坑



8. 207号土坑



1. 208号土坑



2. 208号土坑



3. 211号·223号·224号土坑



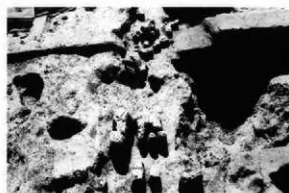
4. 218号土坑



5. 225号土坑



6. 226号·229号土坑



7. 227号土坑



8. 235号·236号土坑

PL.26 (土坑)



1. 237号~243号土坑



2. 247号土坑



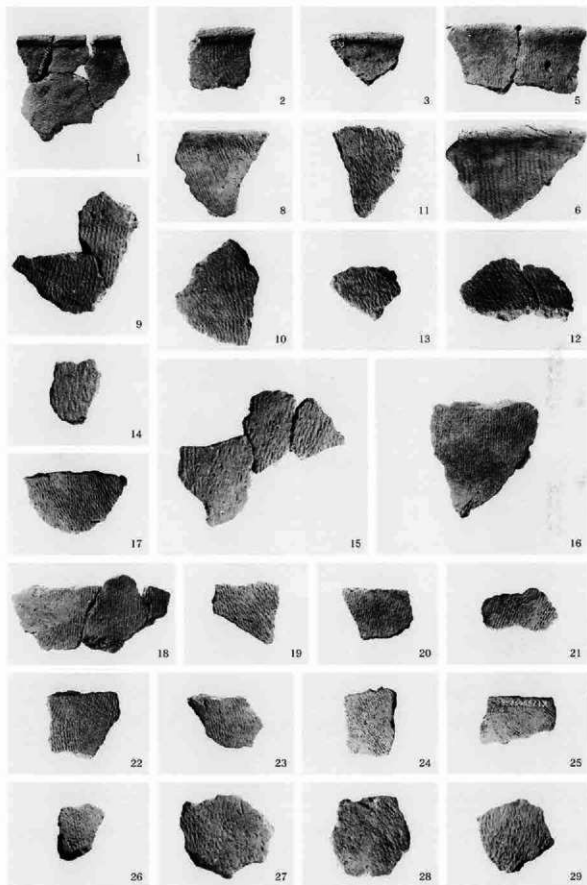
3. 247-1号土坑



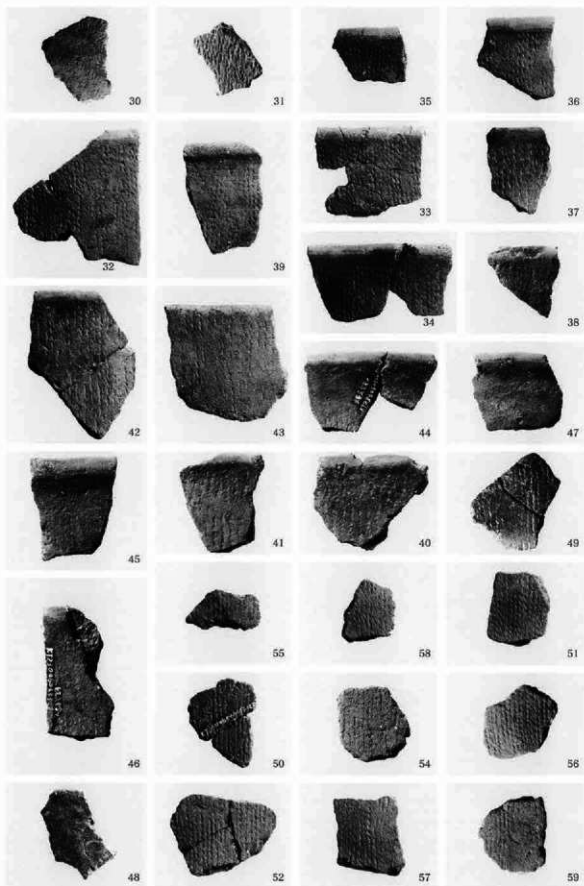
4. 247号土坑断面

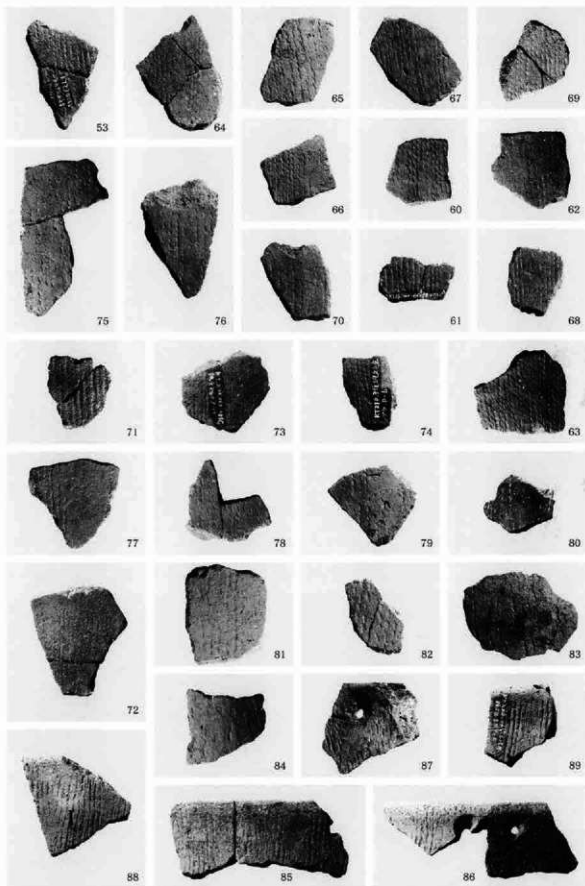


5. 側道部調査区全景

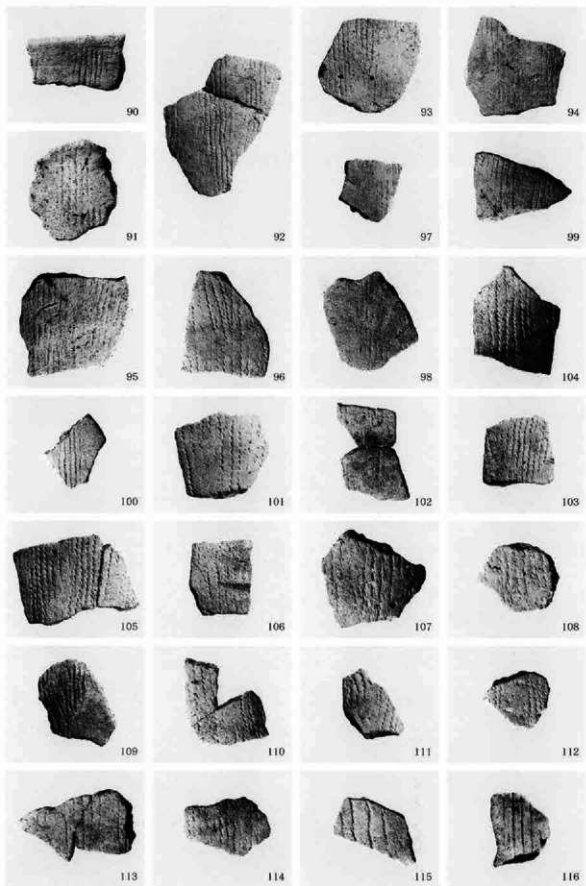


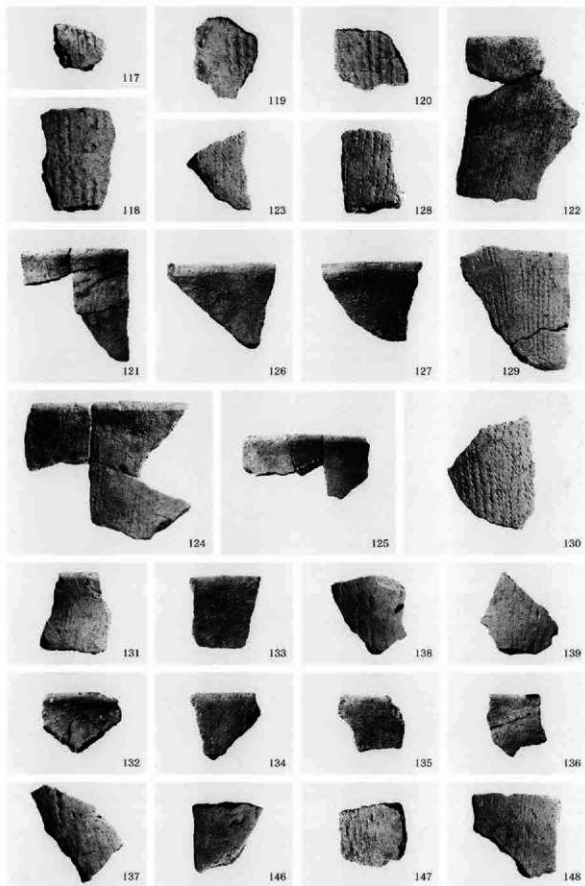
PL.28 縄文土器 (30~59)





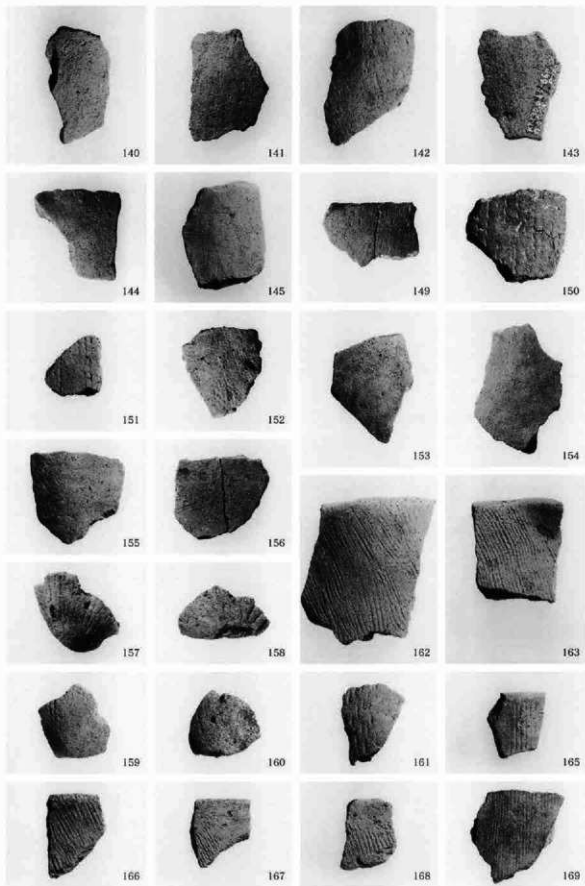
PL.30 縄文土器 (90~116)

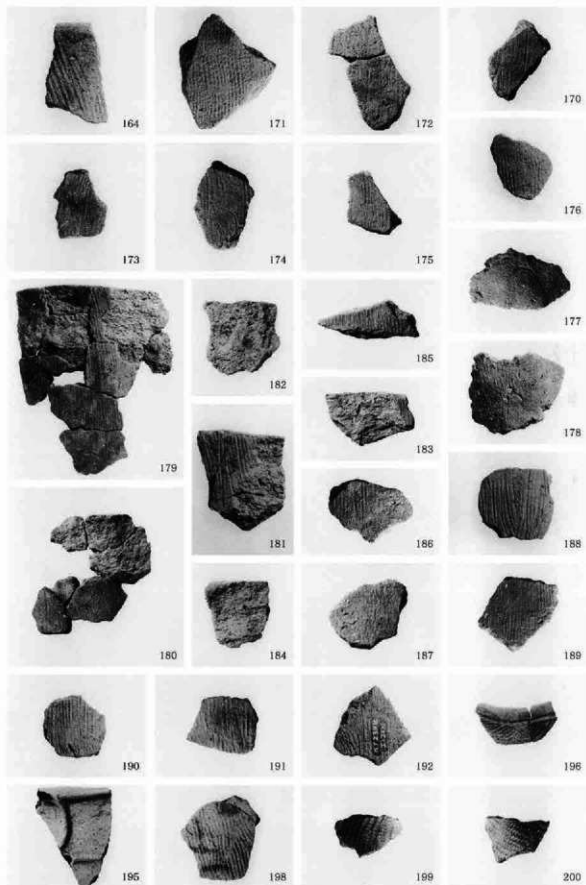




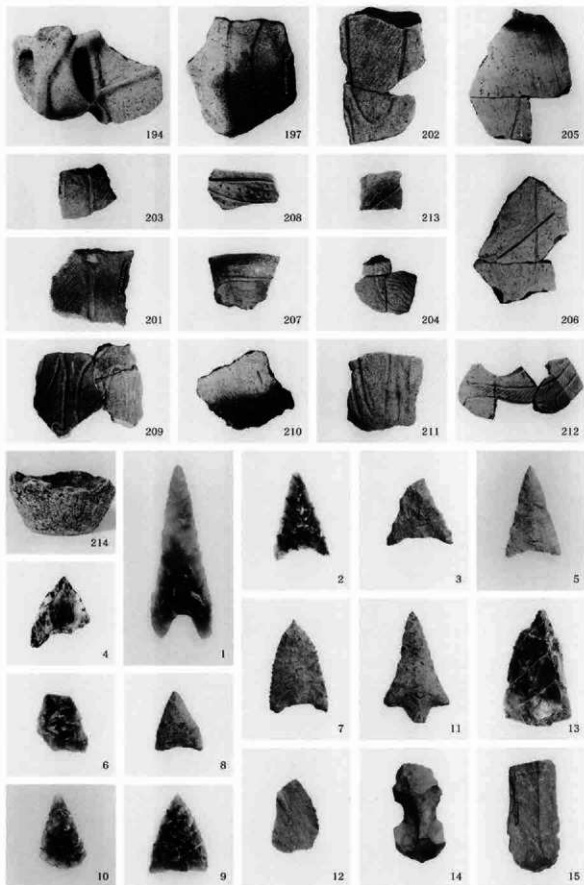


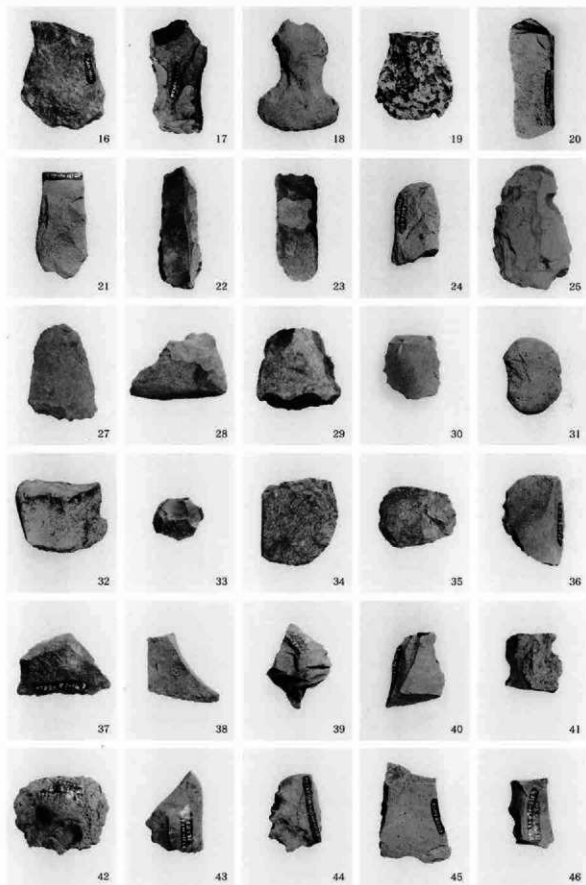
PL.32 縄文土器 (140~169)



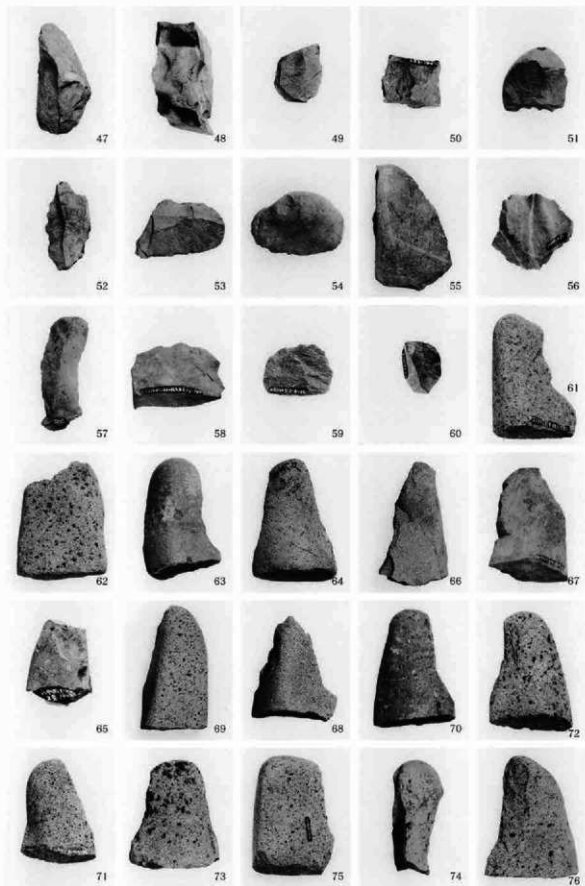


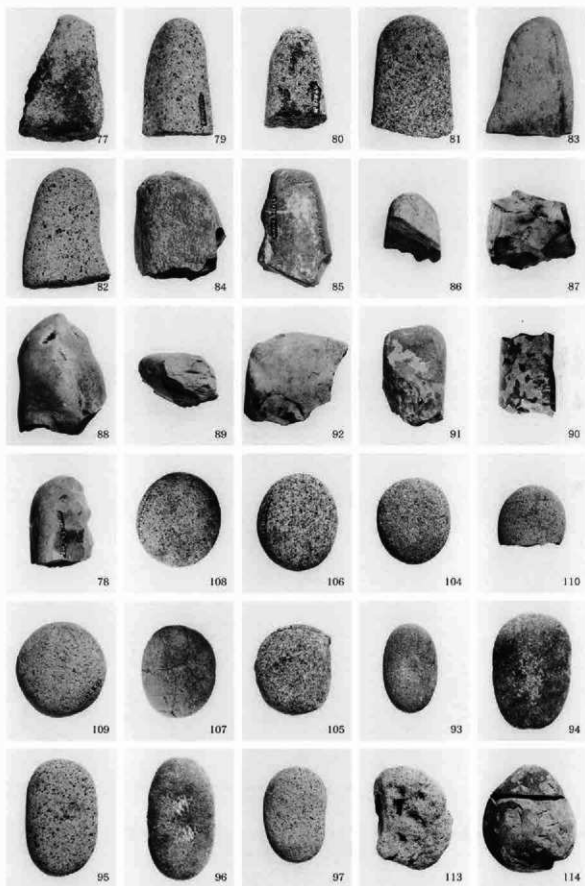
PL.34 縄文土器 (201~214)・縄文石器 (1~15)



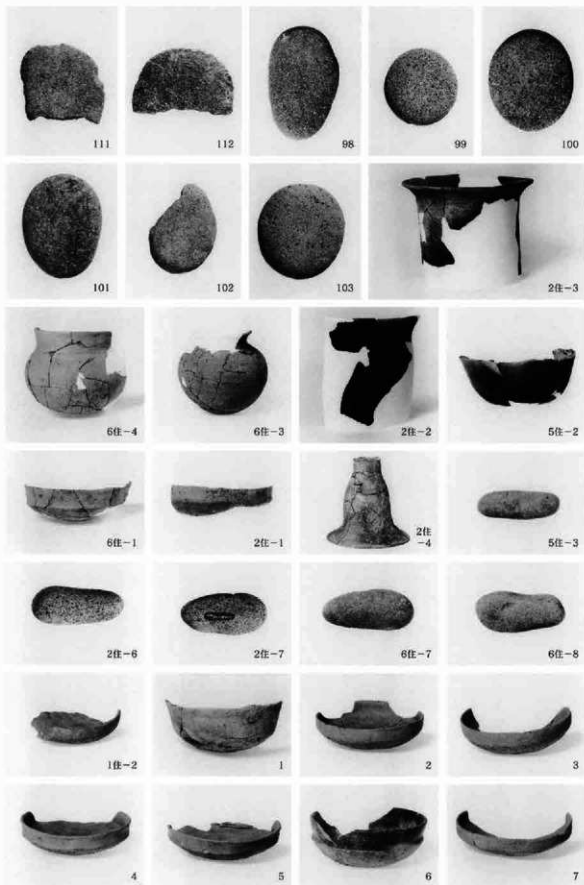


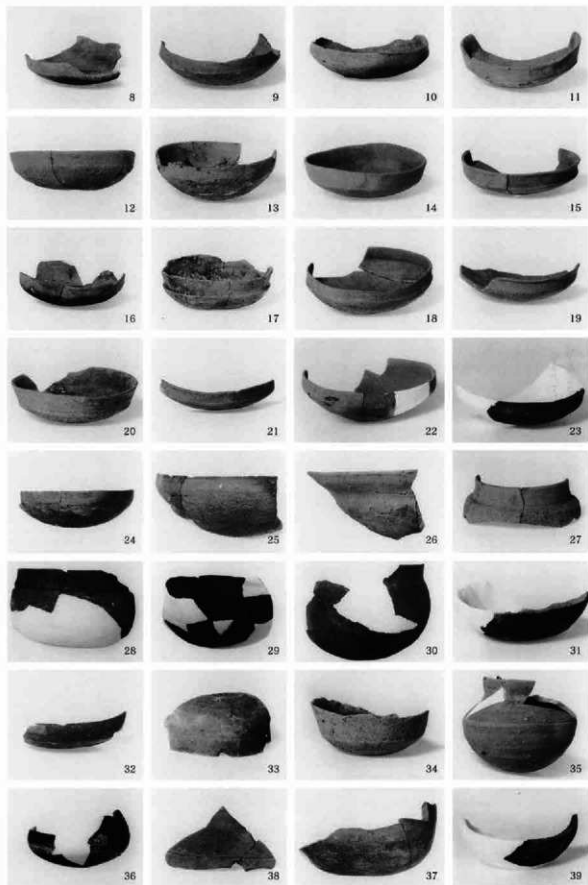
PL.36 縄文石器 (47~76)





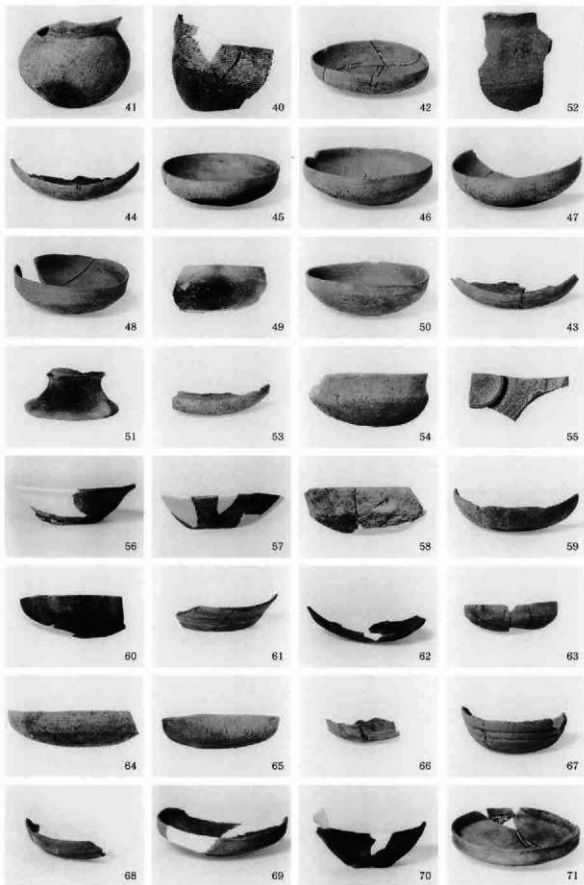
PL.38 縄文石器 (98~112)・1号・2号・5号・6号住・12号溝 (1~7)

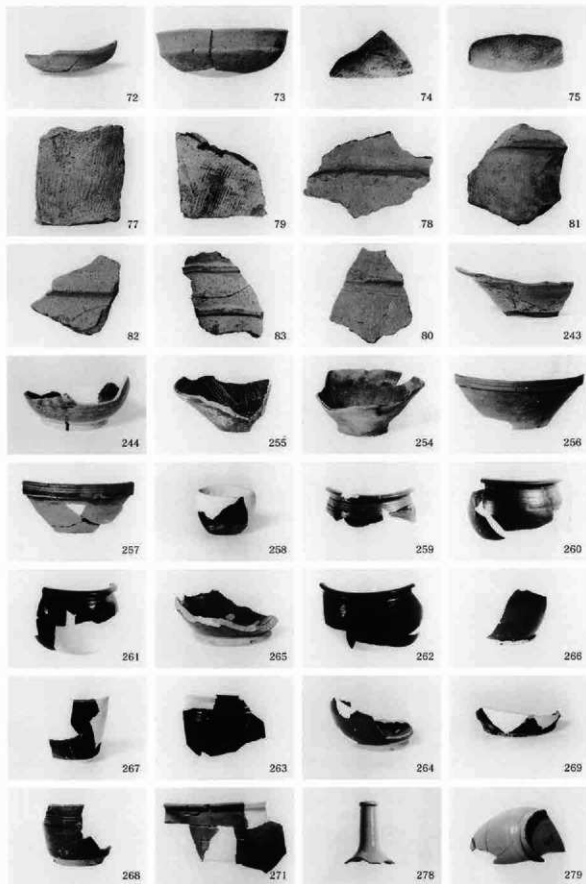




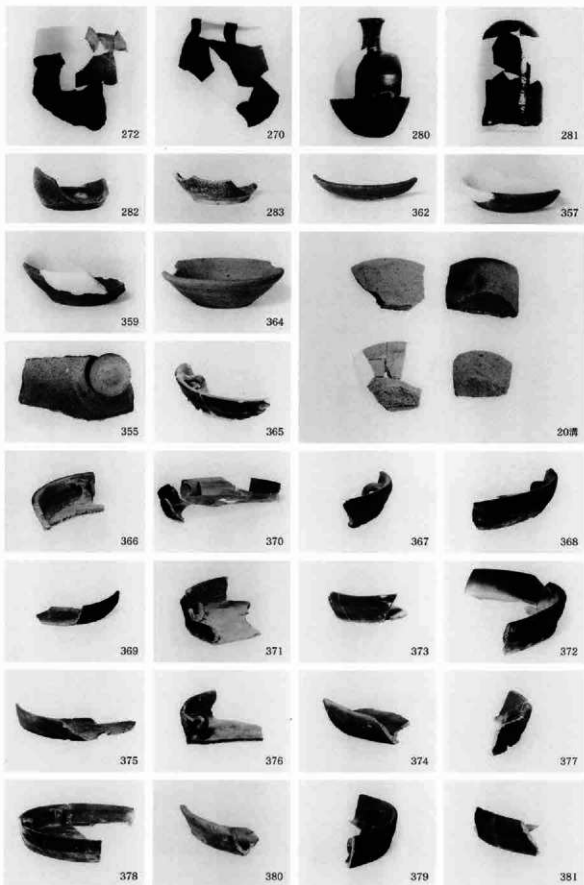


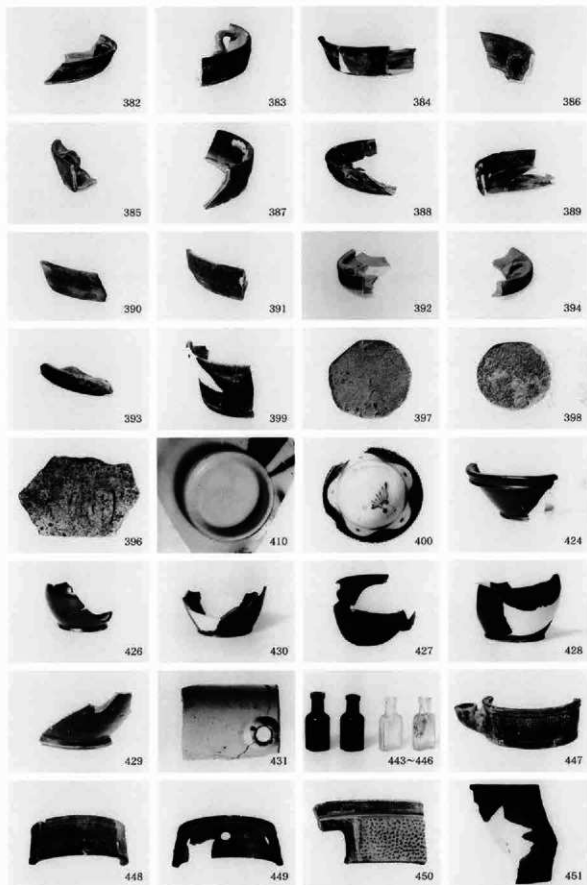
PL.40 12号溝 (40)・古墳～平安 (41～71)



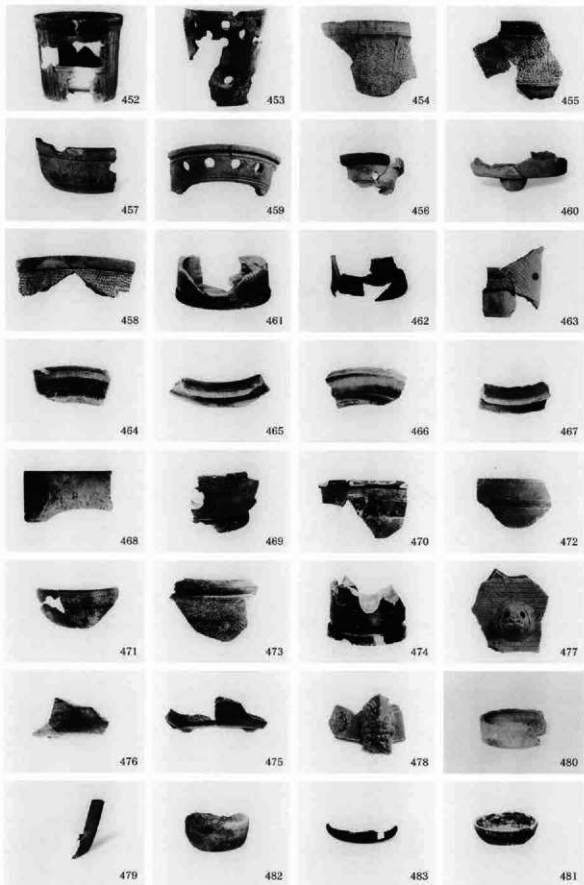


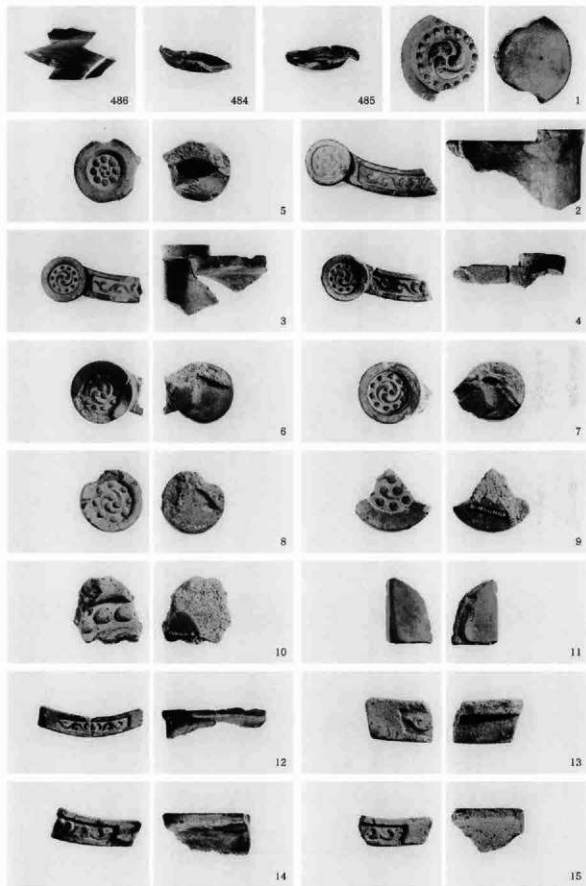
PL.42 近世・焙烙 (365~381)

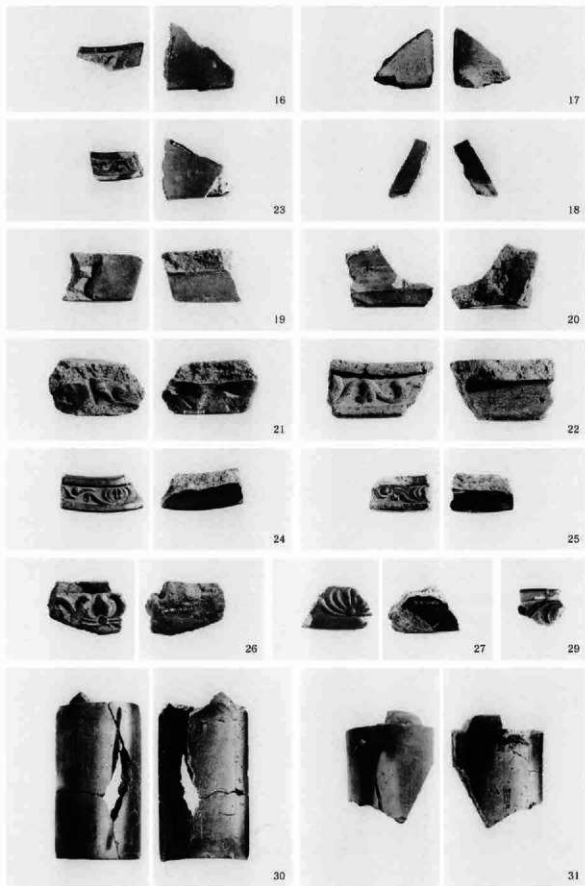


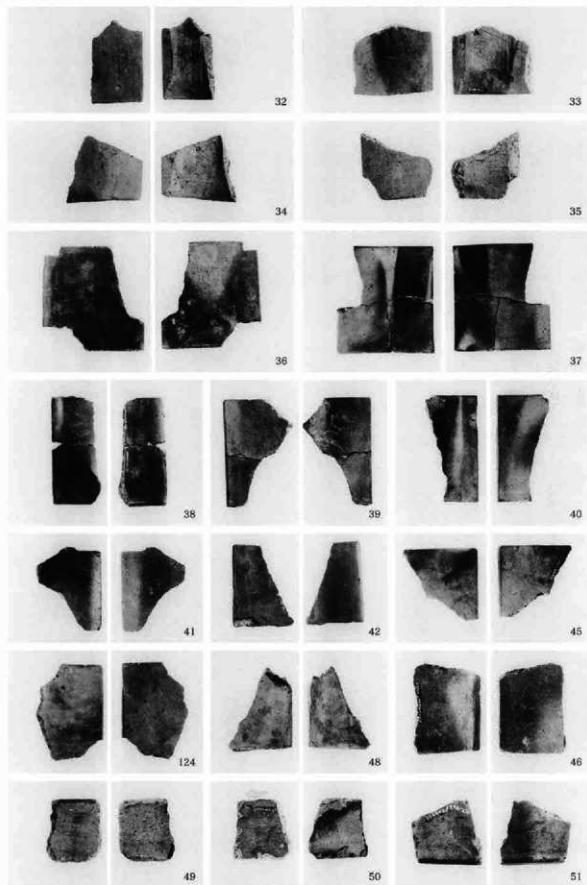


PL.44 近代 (452~483)

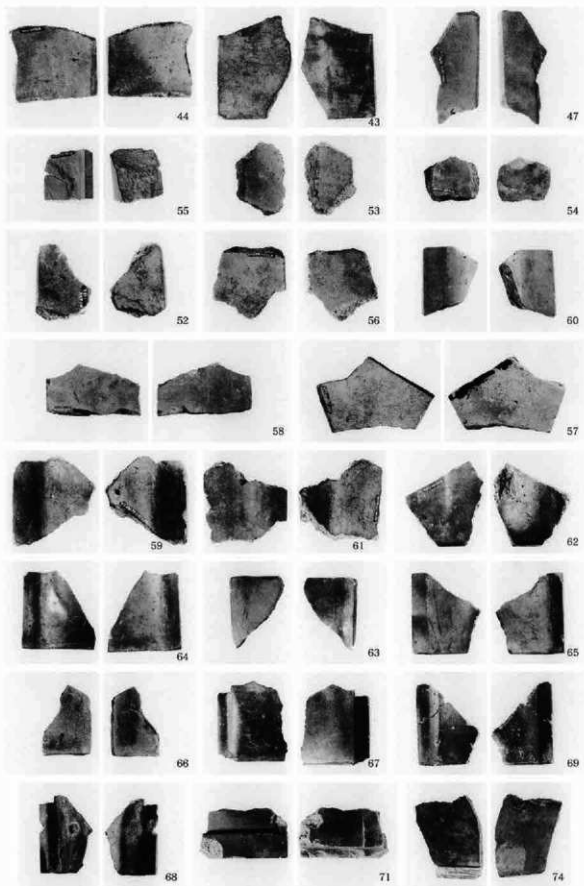


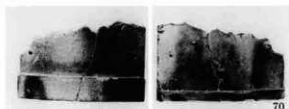




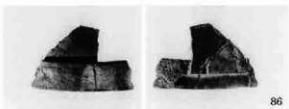




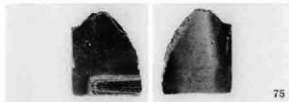




70



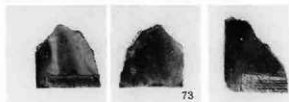
86



75



78

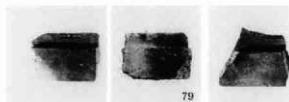


73



76

77

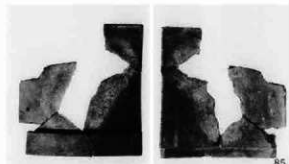


79

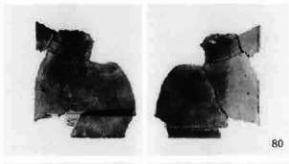


82

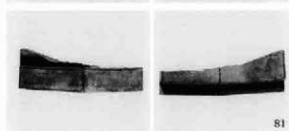
83



85



80



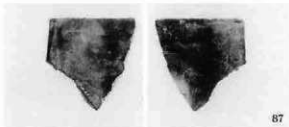
81



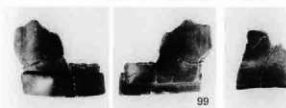
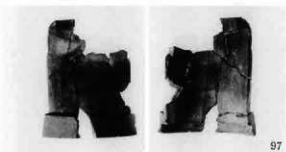
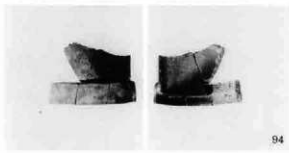
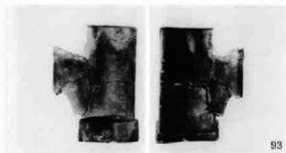
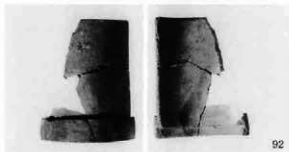
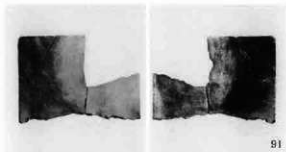
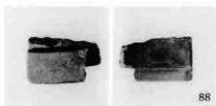
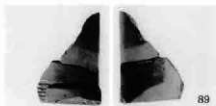
72

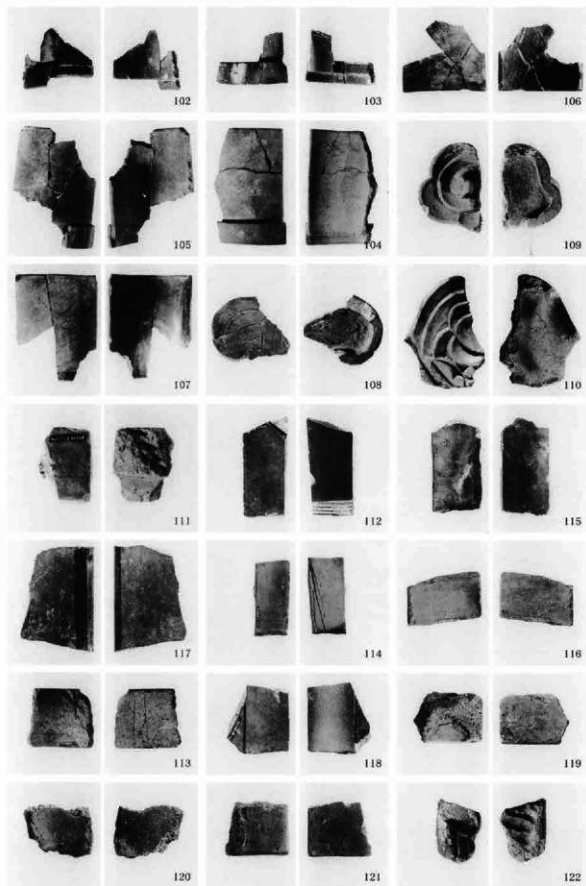


84

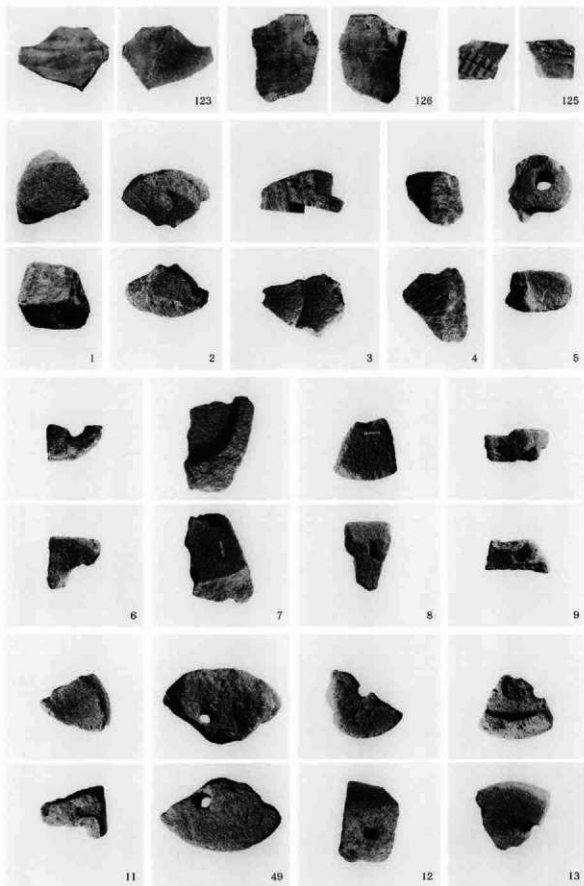


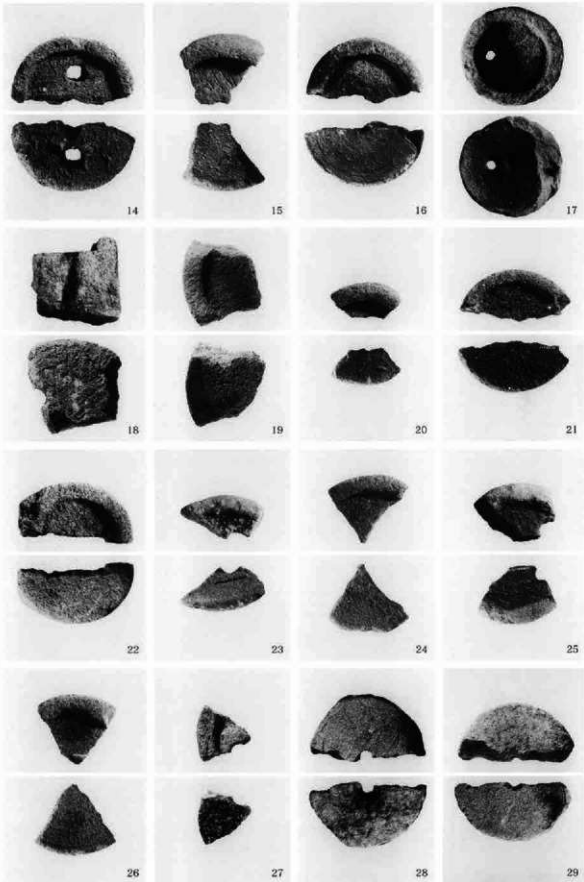
87



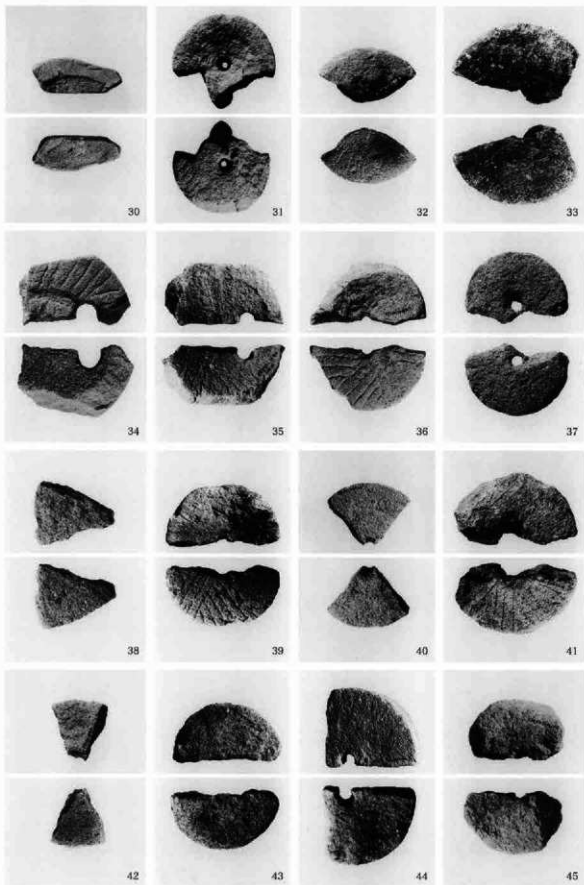


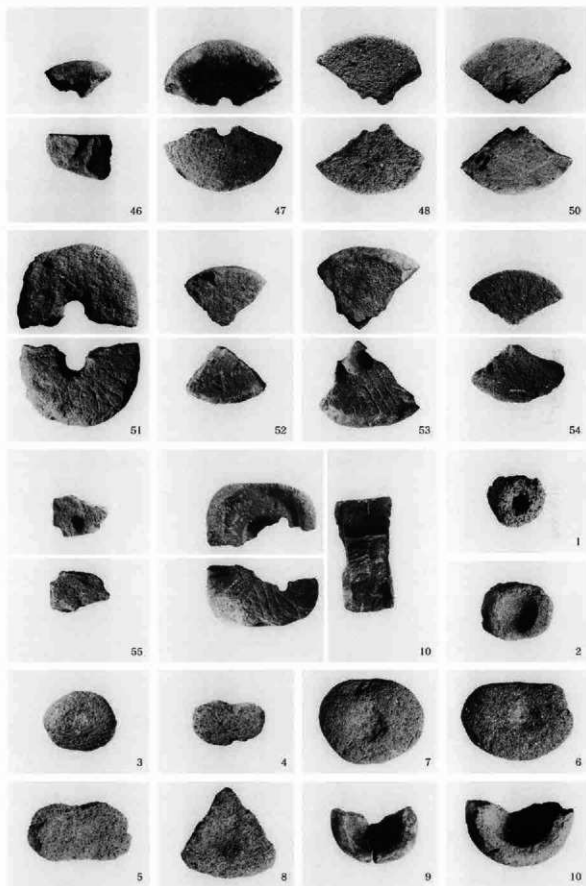
PL.52 瓦 (123~126) · 石製品 (石白1~13)





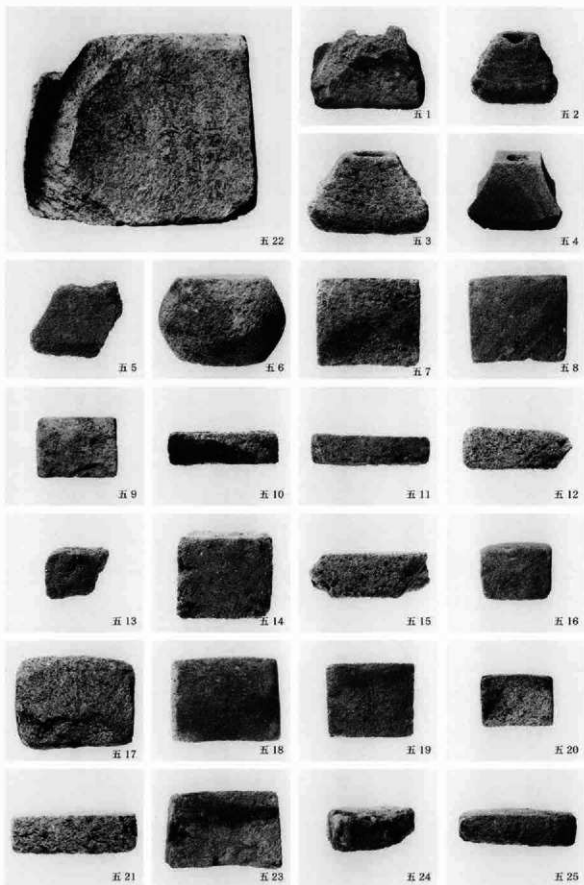
PL.54 石製品 (石臼30~45)



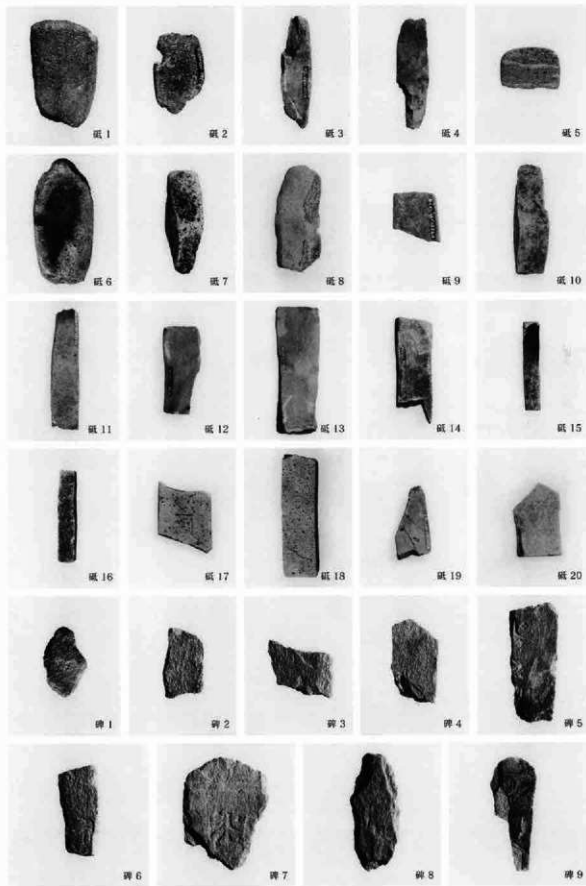




PL.56 石製品 (五輪塔1~25)

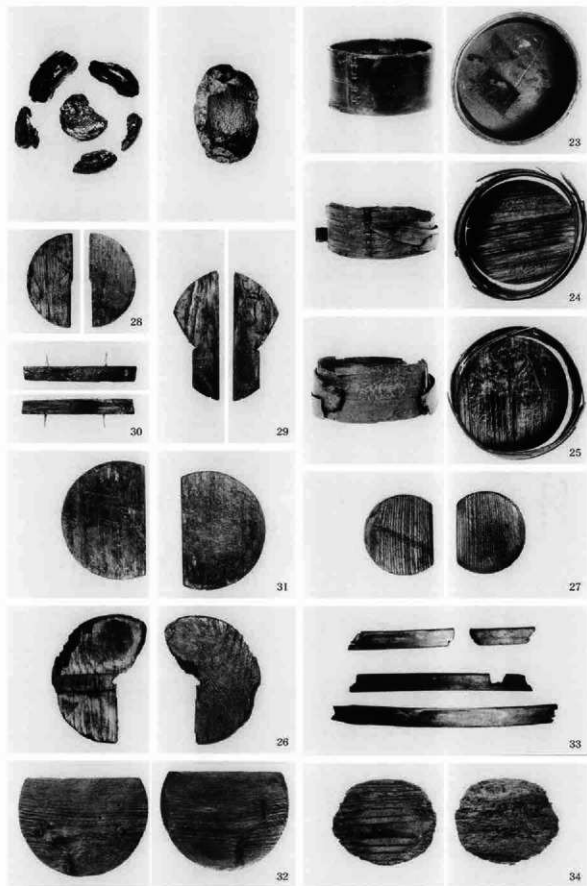


石製品 (砥石1~20・板碑1~9) PL.57

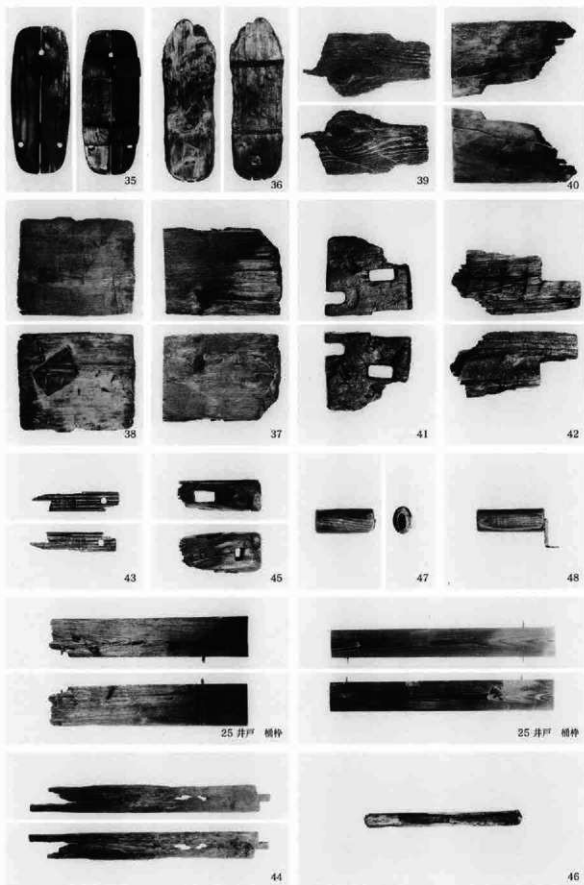


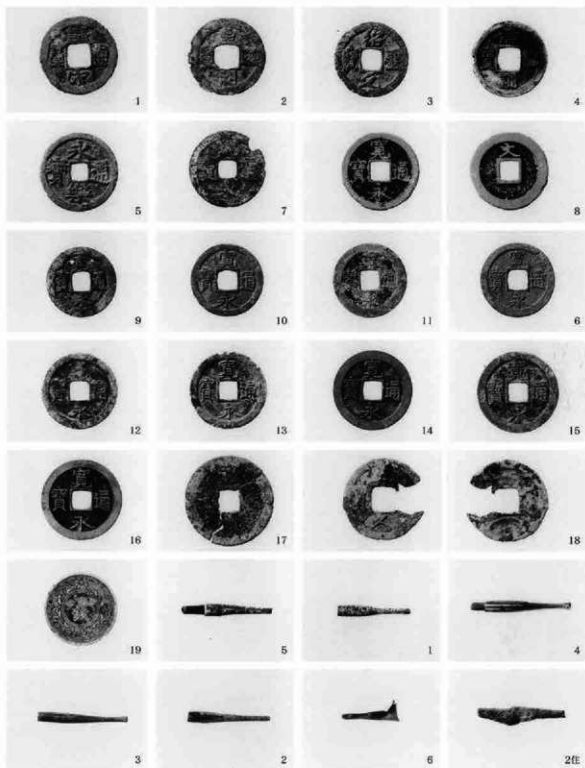
PL.58 木製品 (4~22、漆碗)





PL.60 木製品 (35~48、下駄・材他)







財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第332集

## 波志江中屋敷遺跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域  
埋蔵文化財調査報告書第25集

平成16年3月10日 印刷

平成16年3月15日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下船田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毎印刷工業株式会社